

教科	科目	単位数	履修上の留意点
国語	現代の国語	2	必履修科目
指導 目標	論理的な文章や実用的な文章を読解し、社会生活に必要な表現や言葉の基礎力を身につける。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
新編 現代の国語	なし	6 回	6 単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット	高校講座 現代の国語		
添削課題 (レポート)			
回数	学習内容	提出目標日	
1	ルリボシカミキリの青 ㊦p12～	5/ 7	
2	未来を作る想像力 ㊦p24～ *メディアとの付き合い方 ㊦p31～	5/21	
3	鍋洗いの日々 ㊦p100～ *新聞記事を読んで意見文を書こう ㊦p140～	6/ 4	
4	スキマが育む都市の緑と生命のつながり ㊦p68～ *グラフや写真の読み取り方 ㊦p63～	7/ 2	
5	りんごのほっぺ ㊦p160～ *手紙・メールの書き方 ㊦p214～	7/12	
6	天動説はなぜ「正しかった」か? ㊦p184～ *推論の書き方 ㊦p190～	7/23	
面接指導 (スクーリング)			
単位時間	学習内容	実施日	
1	筆者の少年時代の体験について書かれた文章を読み、自分に当てはめて考える。	4/26 (日) 4/30 (木)	
1	意見の根拠を的確に理解して筆者の主張をつかむ。	5/7 (木) 5/17 (日)	
1	筆者の体験談から、仕事に対する思いを読み取る。	5/31 (日) 6/ 4 (木)	
1	新鮮な着眼や発想に触れて、視野を広げる。	6/25 (木) 6/28 (日)	
1	出来事の順序に注意しながら、戦時下の状況と筆者の思いを読み取る。	7/ 2 (木) 7/ 5 (日)	
1	推論の過程を追い、時代によって変化する「正しさ」、科学的思考について考える。	7/12 (日) 7/16 (木)	
試験			
回数	試験範囲	実施日	
1	レポート1～3 (*部分は出題しない)	6/11 以降	
2	レポート4～6 (*部分は出題しない)	8/23～9/1	

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

- ・スクーリングに1時間以上出席し、レポート1～3に合格することでテスト1の受験ができます。テスト1に合格したうえで、スクーリングに1時間以上出席（合計2時間以上）し、レポート4～6に合格することでテスト2の受験ができます。テスト2に合格すると2単位の修得となります。
- ・スクーリングに2時間以上出席し、レポート1～6に合格したものの、テスト2に合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。次年度以降テスト受験をして合格することで単位修得が認められます。単位の分割修得はできません。
- ・夏季集中スクーリングにはレポートを進めるための出席はできますが、出席時数には含みません。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解し、文・語・文章の効果的な組み立て方や接続の仕方を理解している。 ・実社会において使うことを念頭に置き、五感を磨き語彙を豊かにしている。 	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関連づけながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。 	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・テストに主体的に取り組んでいる。 	テスト	合格	A

その他

①スクーリングについて

- ・本文を通読した後、その内容について説明し、レポートの問題のポイントを解説します。レポートの内容は第1回から第6回にかけて徐々に難しくなります。特に難しい問題についてはスクーリングの中で詳しく解説するので、必要最低時数（2時間）を満たしていてもできるだけ多く出席することをお勧めします。

②学習への取り組み

- ・4月26日（日）以降にレポート1～3、6月25日（木）以降にレポート4～6をまとめて配付します。
- ・レポートは、「繰り返し読み、大まかな内容をつかむ。／漢字の読み、語句の意味などを調べる。／設問にしたがって読み解く。」の順番で取り組みましょう。
- ・レポートには作文を書く部分や実用的な知識について答える部分もあります。普段から新聞や本を読んで言葉や文章に親しみ、社会に関心を持つように心がけましょう。
- ・自分の感想や意見を書く部分が未記入の場合や空欄が多い場合などは再提出とします。

③テスト受験に向けて

- ・レポートの間違った問題については正解するためのヒントを書いて返却するので、テスト受験までに必ず間違い直しをし、ヒントを見ても分からない場合は教科担当者に質問してください。
- ・レポートを眺めるだけでなく、必ず教科書の本文を参照しながら復習をしましょう。

※特に重要な問題については印がついているので、しっかり理解し、確認してください。

教科	科目	単位数	履修上の留意点
国語	言語文化	2	必履修科目
指導 目標	現代文（小説・随筆・詩歌）・古文・漢文を読むために必要な言葉の力を身につけ、様々なものの見方や感じ方・考え方に触れる。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
新編 言語文化	なし	6 回	6 単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input checked="" type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット	高校講座 言語文化		
添削課題（レポート）			
回数	学習内容	提出目標日	
1	古文入門教p124～ 児のそら寝教p128～ 徒然草教p146～ 枕草子教p154	10/11	
2	詩歌 柳あをめる【短歌】 教p54～ 雪の深さを【俳句】 教p58～	11/ 5	
3	漢文入門 訓読の基本教p217～ 故事成語教p228～	11/ 8	
4	小説 羅生門 教p76～	12/ 6	
5	物語 伊勢物語 芥川 教p178～ 平家物語 木曾の最期 教p187～	12/24	
6	漢詩 絶句と律詩 教p235～ 史話 魏武捉刀 教p260～	1/14	
面接指導（スクーリング）			
単位時間	学習内容	実施日	
1	古文と現代文の違いを知る。説話・随筆を読み、古文の世界に親しむ。	10/ 1（木） 10/ 4（日）	
1	短歌・俳句のきまりや修辞技巧を理解し、深く読み味わう力を身につける。	10/18（日） 10/22（木）	
1	漢文の特色を知り、きまりを理解する。故事成語を読んで漢文の世界に親しむ。	11/ 5（木） 11/ 8（日）	
1	描かれている内容から主題を読み取り、小説を深く味わう。	11/26（木） 11/29（日）	
1	文章の展開や表現の特色に注目しながら物語を読み味わう。	12/17（木） 12/20（日）	
1	漢詩のきまりを理解し、漢詩にうたわれた情景や作者の心情を読み取る。史話の面白さを味わう。	1/ 7（木） 1/10（日）	
試験			
回数	試験範囲	実施日	
1	レポート1～3	11/15以降	
2	レポート4～6	1/21～2/1	

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

- ・スクーリングに1時間以上出席し、レポート1～3に合格することでテスト1の受験ができます。テスト1に合格したうえで、スクーリングに1時間以上出席（合計2時間以上）し、レポート4～6に合格することでテスト2の受験ができます。テスト2に合格すると2単位の修得となります。
- ・スクーリングに2時間以上出席し、レポート1～6に合格したものの、テスト2に合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。次年度以降テスト受験をして合格することで単位修得が認められます。単位の分割修得はできません。
- ・秋季・冬季集中スクーリングにはレポートを進めるための出席はできますが、出席時数には含まれません。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・現代文では主な漢字の読み書きや短歌・俳句に慣れ、語彙を豊かにすることに努めている。 ・古文・漢文では古典を読むために必要な文語や訓読のきまり等を理解している。 ・我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解している。 	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	<ul style="list-style-type: none"> ・内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特徴などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶとともに解釈の多様性について考察できる。 ・古典作品に表れているものの見方や感じ方、作品の背景等を捉えて考察し、自分の考えを表現することができる。 	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・テストに主体的に取り組んでいる。 	テスト	合格	A

その他

①スクーリングについて

- ・本文を通読した後、その内容について説明し、レポートの問題のポイントを解説します。レポートの内容は第1回から第6回にかけて徐々に難しくなります。特に難しい問題についてはスクーリングの中で詳しく解説するので、必要最低時数（2時間）を満たしていてもできるだけ多く出席することをお勧めします。

②学習への取り組み

- ・10月1日（木）以降にレポート1～3、11月26日（木）以降にレポート4～6をまとめて配付します。
- ・レポートは、「繰り返し読み、大まかな内容をつかむ。／漢字の読み、語句の意味などを調べる。／補助プリント（教科書・補助プリントの口語訳や書き下し文）を参考にして設問にしたがって読み解く。／情景の把握や登場人物の心理、主題について考える。」の順番で取り組みましょう。活用等文法を課すことは基本的にはありません。
- ・空欄・間違いが多い場合は再提出とします。個人学習も積極的に利用してください。

③テスト受験に向けて

- ・レポートの間違った問題については正解するためのヒントを書いて返却するので、テスト受験までに必ず間違い直しをし、ヒントを見ても分からない場合は教科担当者に質問してください。
- ・レポートを眺めるだけでなく、必ず教科書の本文を参照しながら復習をしましょう。

※特に重要な問題については印がついているので、しっかり理解し、確認してください。

※レポート3・6の補助プリントに「テストに向けた復習のポイント」を記載しています。

教科	科目	単位数	履修上の留意点
国語	論理国語	4	自由選択科目
指導目標	評論を読解し、論理的な思考力と表現力を身につける。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
新編 論理国語	新編論理国語 学習課題ノート	12回	12単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input type="checkbox"/> テレビ <input checked="" type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット	高校講座 論理国語		
添削課題（レポート）			
回数	学習内容	提出目標日	
1	対話とは何か ⑧P8～ ⑨P4～	5/6	
2	少女たちの「ひろしま」 ⑩P26～ ⑪P11～	5/20	
3	学ぶことと人間の知恵 ⑫P56～ ⑬P22～	6/4	
4	思考の肺活量 ⑭P76～ ⑮P32～	7/1	
5	弱肉強食は自然の摂理か ⑯P102～ ⑰P44～	7/15	
6	はじめに言葉がある ⑱P124～ ⑲P52～	7/31	
7	豊かさと生物多様性 ⑳P176～ ㉑P72～	10/16	
8	物語の外から ㉒P186～ ㉓P76～	10/30	
9	鏡としてのアンドロイド ㉔P210～ ㉕P87～	11/11	
10	言葉は「ものの名前」ではない ㉖P232～ ㉗P97～	12/10	
11	知識における作者性と構造的性 ㉘P262～ ㉙P107～	12/24	
12	ホンモノのおカネの作り方 ㉚P282～ ㉛P117～	1/14	
面接指導（スクーリング）			
単位時間	学習内容	実施日	
1	対話についての筆者の考えを読み取り、日常のコミュニケーションの在り方を振り返る。	4/26（日）4/30（木）	
1	戦時下に生きた人々の日常と悲劇に思いを巡らし、時代や社会について考える態度を養う。	5/7（木）5/17（日）	
1	文のつながりに着目して主張を読み取り、人間の思考や学ぶことの意義について理解を深める。	5/21（木）5/24（日）	
1	比喩表現に注意して内容を読み取り、思考のあるべき姿について理解を深める。	6/25（木）6/28（日）	
1	筆者の提示している問いや根拠に注意して読み、文章の論理展開を的確に捉える。	7/2（木）7/5（日）	
1	筆者の仕事の経験を手がかりにして、働くことと言葉の関わりについて考える。	7/23（木）7/26（日）	
1	論の展開に注意して読み、生物多様性の重要性と課題について理解を深める。	10/1（木）10/4（日）	
1	二人の語り部に共通する姿から、「語る」ということの本質について考えを深める。	10/18（日）10/22（木）	

1	アンドロイドの研究を踏まえた評論を読んで、人間に対する筆者の考えを捉える。	11/ 5 (木) 11/ 8 (日)
1	言語と認識の関係について、具体例をもとに主張している評論を読み、言葉の働きについて考える。	11/26 (木) 11/29 (日)
1	インターネットと本を比較しながら書かれた評論を読み、情報と知識について理解を深める。	12/17 (木) 12/20 (日)
1	二つの例の対比に注意して論旨をたどり、貨幣の持つ不思議さについて知識を深める。	1/ 7 (木) 1/10 (日)

試験

回数	試験範囲	実施日
1	レポート1～3 〈スクーリング出席1回以上〉	6/11以降
2	レポート4～6 〈スクーリング出席2回以上〉	8/23以降
3	レポート7～9 〈スクーリング出席3回以上〉	11/15以降
4	レポート10～12 〈スクーリング出席4回以上〉	1/21～2/1

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

- ・4単位修得に至らない場合、年度末の時点でテスト2までの合格で分割2単位の修得が認められます。
- ・スクーリングに4時間以上出席し、レポート1～12に合格したものの、テストに合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。
- ・レポートを進めるため、夏季・秋季・冬季集中スクーリングに出席できますが、出席時数には含みません。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識技能	<ul style="list-style-type: none"> ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。 	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考判断表現	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらか要旨を把握している。 ・文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的な視点から評価している。 	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・テストに主体的に取り組んでいる。 	テスト	合格	A

その他

①スクーリングについて

- ・本文を通読した後、その内容について説明し、レポートの問題のポイントを解説します。特に難しい問題についてはスクーリングの中で詳しく解説するので、必要最低時数（4時間）を満たしていてもできるだけ多く出席することをお勧めします。

②学習への取り組み

- ・レポートは、「繰り返し読み、大まかな内容をつかむ。／漢字の読み、語句の意味などを調べる。／学習課題集を参考にして、設問にしたがって読み解く。／情景の把握や登場人物の心理、主題について考える。」の順番で取り組んでください。NHK 高校講座の朗読も聞いてみましょう。
- ・様々な文章を読む力を養うために、普段から新聞や本を読んで文章に親しむように心がけましょう。
- ・自分の感想や意見を書く部分が未記入の場合や空欄が多い場合などは再提出とします。

③テスト受験に向けて

- ・レポートの間違った問題については正解するためのヒントを書いて返却するので、テスト受験までに必ず間違い直しをし、ヒントを見ても分からない場合は教科担当者に質問してください。
- ・レポートを眺めるだけでなく、必ず教科書の本文を参照しながら復習をしましょう。

教科	科目	単位数	履修上の留意点
国語	文学国語	4	自由選択科目
指導 目標	小説・随筆・詩を読解し、深く考え豊かに想像する力や言葉の力、文学に親しむ態度を身につける。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
高等学校 標準文学国語	標準文学国語 学習課題集	12回	12単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input type="checkbox"/> テレビ <input checked="" type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット	高校講座 文学国語		
添削課題（レポート）			
回数	学習内容	提出目標日	
1	調律師のるみ子さん 教P10～学P6～	5/21	
2	生命は・そこにひとつの席が・食事 教P30～学P12～（補助プリント）	5/31	
3	相棒 教P42～学P16～	6/ 4	
4	真珠の耳飾りの少女 教P77～学P28～ *フェルメールの技を読む 教P87～	7/12	
5	鼻 教P92～学P31～	7/23	
6	こころ・汚れちまつた悲しみに……・永訣の朝 教P222～学P68～	7/30	
7	物語を発現する力 教P308～学P90～ 短歌・俳句を作る 教P314～	10/18	
8	バグダッドの靴磨き 教P138～学P40～	11/ 5	
9	清兵衛と瓢箪 教P210～学P64～	11/ 8	
10	旅する本 教P166～学P48～	12/17	
11	山月記 教P194～学P56～	12/24	
12	卒業 教P232～学P72～	1/14	
面接指導（スクーリング）			
単位時間	学習内容	実施日	
1	るみ子さんの気持ちの変化する過程を読み取る。	5/ 7（木）5/17（日）	
1	それぞれの詩に込められた作者の心情を読み取る。	5/21（木）5/24（日）	
1	登場人物の心情と行動の変化を追い、題名の意味を考える。	5/31（日）6/ 4（木）	
1	フェルメールを紹介する二つの文章を読み比べる。	7/ 2（木）7/ 5（日）	
1	内供と彼を取り巻く人々の心理の複雑さを読み解く。	7/12（日）7/16（木）	
1	詩の形式に注意しながらイメージを味わい、心情を読み取る。	7/23（木）7/26（日）	
1	物語の人間にとって持つ意味を考える。短歌・俳句を鑑賞する。	10/11（日）10/15（木）	
1	登場人物同士の関係や心情を把握し、発言の背景を考える。	10/18（日）10/22（木）	
1	清兵衛と大人たちの価値判断の違いを通して考えを深める。	11/ 5（木）11/ 8（日）	

1	本との再会を繰り返す度に実感される「私」の変化を読み取る。	12/ 6 (日) 12/10 (木)
1	人が虎になる怪異を踏まえて作品の主題を考える。	12/17 (木) 12/20 (日)
1	仕事への向き合い方や友人への思い、「卒業」の意味を考える。	1/ 7 (木) 1/10 (日)

試験

回数	試験範囲	実施日
1	レポート1～3 〈スクーリング出席1回以上〉	6/11以降
2	レポート4～6 〈スクーリング出席2回以上〉	8/23以降
3	レポート7～9 〈スクーリング出席3回以上〉	11/15以降
4	レポート10～12 〈スクーリング出席4回以上〉	1/21～2/1

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

- ・4単位修得に至らない場合、年度末の時点でテスト2までの合格で分割2単位の修得が認められます。
- ・スクーリングに4時間以上出席し、レポート1～12に合格したものの、テストに合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。
- ・レポートを進めるため、夏季・秋季・冬季集中スクーリングに出席できますが、出席時数には含みません。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・文学的な文章の種類や特徴について理解している。 ・主題の中心となる重要な語句を把握し、文体の特徴や表現の技巧について理解している。 ・物語や文章の構造を捉えている。 ・読書の意義と効用について理解している。 	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	<ul style="list-style-type: none"> ・内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特徴などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶとともに解釈の多様性について考察できる。 ・作品に表れているものの見方や感じ方、作品の背景等を捉えて考察し、自分の考えを表現することができる。 	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・テストに主体的に取り組んでいる。 	テスト	合格	A

その他

①スクーリングについて

- ・本文を通読した後、その内容について説明し、レポートの問題のポイントを解説します。特に難しい問題についてはスクーリングの中で詳しく解説するので、必要最低時数（4時間）を満たしていてもできるだけ多く出席することをお勧めします。

②学習への取り組み

- ・レポートは、「繰り返し読み、大まかな内容をつかむ。／漢字の読み、語句の意味などを調べる。／学習課題集を参考にして、設問にしたがって読み解く。／情景の把握や登場人物の心理、主題について考える。」の順番で取り組んでください。NHK 高校講座の朗読も聞いてみましょう。
- ・様々な文章を読む力を養うために、普段から新聞や本を読んで文章に親しむように心がけましょう。
- ・自分の感想や意見を書く部分が未記入の場合や空欄が多い場合などは再提出とします。

③テスト受験に向けて

- ・レポートの間違った問題については正解するためのヒントを書いて返却するので、テスト受験までに必ず間違い直しをし、ヒントを見ても分からない場合は教科担当者に質問してください。
- ・レポートを眺めるだけでなく、必ず教科書の本文を参照しながら復習をしましょう。
- ・特に重要な問題については印がついているので、しっかり理解し、確認してください。

教科	科目	単位数	履修上の留意点
国語	古典探究	4	自由選択科目
指導目標	古文では和歌・俳諧・歌物語・随筆・説話等、漢文では思想・史伝・詩等を読み、古典の多様な世界に触れる。		
教科書		副教材	添削指導
高等学校 標準古典探究		標準古典探究 学習書	12回
NHK放送視聴による減免の有無		<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない	
視聴媒体		視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input checked="" type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット		高校講座 文学国語	
添削課題（レポート）			
回数	学習内容	提出目標日	
1	説話 古本説話集 教P12~学P10~ 古今著聞集 教P16~学P18~	5/ 7	
2	徒然草 公世の二位のせうとに 他 P20~学P26~ 方丈記 教P28~学P40~	5/21	
3	故事・寓話 画竜点睛、推敲、朝三暮四 教P142~学P219~	5/31	
4	伊勢物語 教P36~学P50~	7/ 2	
5	中国の詩 教P158~学P248~	7/12	
6	枕草子 雪のいと高う降りたるを 教P60~学P89~ すさまじきもの 教P64~学P97~	7/23	
7	和歌 万葉集、古今和歌集 教P68~学P102~	10/18	
8	大鏡 教P102~学P157~	11/ 5	
9	鴻門之会 剣の舞、樊噲頭髮上指す 教P186~学P302~	11/ 8	
10	更級日記 教P112~学P173~	12/ 6	
11	平家物語 教P120~学P182~	12/17	
12	諸家の思想 孟子 老子 莊子 教P204~学P327~	1/14	
面接指導（スクーリング）			
単位時間	学習内容	実施日	
1	平安朝の著名な人物に関わる説話を読み、話の面白さを味わう。	4/26（日）4/30（木）	
1	二つの随筆から作者の思いを読み解き、自己の考え方を深める。	5/ 7（木）5/17（日）	
1	故事成語の由来となった漢文と現在の意味を正しく理解する。	5/21（木）5/24（日）	
1	歌物語で和歌の果たす役割と登場人物の心情を考える。	6/25（木）6/28（日）	
1	漢詩の表現や技法と古代中国の人々の思いを理解する。	7/ 2（木）7/ 5（日）	
1	平安時代の随筆から当時の人々のものの見方に触れる。	7/12（日）7/16（木）	
1	和歌の表現の特色を理解し、それぞれの和歌を鑑賞する。	10/11（日）10/15（木）	
1	歴史物語を読んで登場人物の行動や心情、話の主旨を読み取る。	10/18（日）10/22（木）	
1	物語の面白さを味わい、戦乱を生きる人々の心情を考える。	11/ 5（木）11/ 8（日）	

1	自伝的日記を読み、現代と共通する心情について考える。	11/26 (木) 11/29 (日)
1	軍記物語を読んで、登場人物の行動や考えを理解する。	12/ 6 (日) 12/10 (木)
1	古代中国の儒家・道家の思想について理解を深める。	1/ 7 (木) 1/10 (日)

試験

回数	試験範囲	実施日
1	レポート1～3 (スクーリング出席1回以上)	6/11以降
2	レポート4～6 (スクーリング出席2回以上)	8/23以降
3	レポート7～9 (スクーリング出席3回以上)	11/15以降
4	レポート10～12 (スクーリング出席4回以上)	1/21～2/1

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

- ・4単位修得に至らない場合、年度末の時点でテスト2までの合格で分割2単位の修得が認められます。
- ・スクーリングに4時間以上出席し、レポート1～12に合格したものの、テストに合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。
- ・レポートを進めるため、夏季・秋季・冬季集中スクーリングに出席できますが、出席時数には含みません。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・古典作品の文章の種類や特徴について理解している。 ・古典を読むために必要な語句や漢字の意味、和歌の修辞技巧や訓読のきまり等について理解している。 ・我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解している。 	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	<ul style="list-style-type: none"> ・内容や構成、展開、場面設定や描写の仕方、表現の特徴などを的確に捉え、内容を解釈する方法を学ぶとともに解釈の多様性について考察できる。 ・古典作品に表れているものの見方や感じ方、作品の背景等を捉えて考察し、自分の考えを表現することができる。 	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・テストに主体的に取り組んでいる。 	テスト	合格	A

その他

①スクーリングについて

- ・本文を通読した後、その内容について説明し、レポートの問題のポイントを解説します。各古典作品の生まれた時代背景にも触れる機会を設けながら、古典の魅力を探ります。レポートで活用等文法を課すことは基本的にはありません。特に難しい問題についてはスクーリングの中で詳しく解説するので、必要最低時数(4時間)を満たしていてもできるだけ多く出席することをお勧めします。

②学習への取り組み

- ・レポートは「繰り返し音読する。／学習書の口語訳や書き下し文を参考にして、内容を把握する。／設問にしたがって読み解く。」の順番で取り組んでください。NHK 高校講座の朗読も聞いてみましょう。補助プリントを読み、作品に表れた人物の生き方や考え方、現代に残存する習慣や信仰などについても考えましょう。
- ・空欄、誤答が多い場合などは再提出とします。

③テスト受験に向けて

- ・レポートの間違った問題については正解するためのヒントを書いて返却するので、テスト受験までに必ず間違い直しをし、ヒントを見ても分からない場合は教科担当者に質問してください。
- ・レポートを眺めるだけでなく、必ず教科書の本文を参照しながら復習をしましょう。
- ・特に重要な問題については印がついているので、しっかり理解し、確認してください。

教科	科目	単位数	履修上の留意点	
地理歴史	地理総合	2	必履修科目	
指導目標	地図やGISの活用をはじめとする地理的技能を身につけ、グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などへの対応を学ぶことで、持続可能な社会づくりに主体的に取り組む力を身につける。			
教科書		副教材	添削指導	面接指導
新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）		なし	6回	6単位時間
NHK放送視聴による減免の有無		<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体		視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット		高校講座 地理総合		
添削課題（レポート）				
回数	学習内容			提出目標日
1	地図と地理情報システム 地球上の位置と時差、地図の役割と種類			5/17
2	結び付きを深める現代世界 現代世界の国家と領域、グローバル化する世界			5/24
3	生活文化の多様性と国際理解1・2 世界の地形と人々の生活、世界の気候と人々の生活			6/11
4	生活文化の多様性と国際理解3・4 世界の言語・宗教と人々の生活、歴史的背景と人々の生活			7/5
5	生活文化の多様性と国際理解5 世界の産業と人々の生活			7/26
6	地球的課題と国際協力 複雑に絡み合う地球的課題、地球環境問題、資源エネルギー問題、 人口問題、食料問題、都市・居住問題			～8/23
面接指導（スクーリング）				
単位時間	学習内容			実施日
1	地図の役割や有用性を理解する。 地図やGISの活用方法について考える。			4/26（日） 4/30（木）
1	国際社会における国家の役割を理解する。 地球間のさまざまな相互関係について考える。			5/7（木） 5/17（日）
1	人びとと地球上の多様な地形との関わり合いを理解する。 人びとの生活と気温や降水、風などの気候要素との関わり合いを理解する。			5/21（木） 5/24（日）
1	言語や宗教が人びとの生活に与える影響を理解する。 歴史的背景が人びとの生活に与える影響を理解する。			6/25（木） 6/28（日）

1	産業の発展が人びとの生活に与える影響を理解する。 産業のグローバル化による生活の変化を理解する。	7/2 (木) 7/5 (日)
1	現代世界の大小さまざまな地球的課題を理解する。 持続可能な社会をつくるために、今後どのような取り組みが必要か考える。	7/23 (木) 7/26 (日)

試験

回数	試験範囲	実施日
1	レポート1～3	6/11以降
2	レポート4～6	8/23～9/1

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

スクーリングに1時間以上出席し、レポート1～3が合格することでテスト1を受験できます。
テスト1合格したうえで、スクーリングに1時間以上出席（合計2時間以上）し、レポート4～6が合格することでテスト2を受験することができます。テスト2が合格となれば2単位の修得となります。
スクーリングに2時間以上出席し、レポート1～6が合格となり、テスト2が合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。次年度以降テスト受験をして合格することで単位修得が認められます。単位の分割修得は認めません。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	①地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。 ②人びとの生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。 ③地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解している。	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	①地図や地理情報システムについて、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ②人びとの生活文化について、その場所の特徴や自然および社会的条件との関わりに着目して、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③地球的課題について、持続可能な社会づくりなどに着目して、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	①地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ②生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ③地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野	テスト	合格	A

	にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。			
--	-------------------------------	--	--	--

その他

①スクーリングについて

自学自習の支援のための要領解説を講義しながら、いま私たちが生活する現在との関連について理解を深めたい重要ポイントについて説明します。なるべく多くのスクーリングに出席することをお勧めします。

②レポートについて

レポートの配付は4月26日（日）以降にレポート1～3、6月25日（木）以降にレポート4～6をまとめて配付します。教科書を熟読することでレポートの大部分を完成させることができるはずです。一部地図帳の統計資料から読み取る課題もあります。空欄が目立つ場合は再提出となりますので、丁寧に取り組んでください。

③テストについて

レポート3回分がテスト範囲となります。出題はレポートで学習した内容のみであり、レポートの問いをベースに出題しますので、レポートについてしっかり学習すれば合格することは難しくないと思います。解答がしやすくなるような工夫も盛り込んでおりますので、不合格になることを恐れず受験してください。

教科	科目	単位数	履修上の留意点	
地理・歴史	地理探究	2	地理総合／歴史総合の履修が必須	
指導目標	生活文化、民族・宗教など、地域に住む人々がどのような生活に関わっているのかを知り、そこに暮らす人々の多様な習慣や価値観に気づく。また、その地域の特徴や場所同士の結びつきに着目し、地理的な諸課題を見つけ多面的かつ多角的な考察を深め、他国の価値観を尊重できるようになる。			
教科書	副教材	添削指導	面接指導	
地理探究 (帝国書院)	新詳高等地図 (帝国書院)	9回	9単位時間	
NHK放送視聴による減免の有無		<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体		視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> インターネット				
添削課題 (レポート)				
回数	学習内容	提出目標日		
1	第1部 現代世界の系統地図的考察 第1章 自然環境	5/7 5/17		
2	第2章 資源と産業	5/21 5/24		
3	第3章 交通・通信と観光, 貿易	6/11 6/14		
4	第4章 人口, 村落・都市	7/12 7/16		
5	第5章 生活文化, 民族・宗教	7/23 7/26		
6	第2部 現代世界の地域的考察 第2章 現代世界の諸地域 第1節 ~ 第3節		10/11 10/15	
7	第2章 現代世界の諸地域 第4節 ~ 第6節		11/5 11/8	
8	第2章 現代世界の諸地域 第7節 ~ 第8節		11/26 11/29	
9	第2章 現代世界の諸地域 第9節 ~ 第11節 第3部 現代世界におけるこれからの日本		12/17 12/20	
面接指導 (スクーリング)				
単位時間	学習内容	実施日		
1	1) 地形・気候を理解する 2) 地球環境問題を理解する	5/7 5/17		
2	1) 食料問題を理解する 2) 資源エネルギー問題を理解する	5/21 5/24		
3	1) 交通・通信・観光を理解する 2) 貿易と経済圏を理解する	6/11 6/14		
4	1) 人口問題を理解する 2) 都市・住居問題を理解する	7/12 7/16		
5	1) 民族・宗教と民族問題を理解する 2) 国家の領域と領土問題を理解する	7/23 7/26		
6	1) 中国・韓国・ASEAN 諸国を項目ごとに整理して考察する		10/11 10/15	
7	1) インド・西アジア・アフリカ諸国を項目ごとに整理して考察する		11/5 11/8	
8	1) EU・ロシアを項目ごとに整理して考察する		11/26 11/29	
9	1) アメリカ合衆国・ラテンアメリカ・オセアニアを項目ごとに整理して考察する		12/17 12/20	

試験				
回数	試験範囲	実施日		
1	レポート1～3	6/25以降		
2	レポート4～6	8/23以降		
3	レポート7～9			1/21-2/1
学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準				
<p>1) テスト受験の基準</p> <p>テスト1 スクーリングに1時間以上出席, 及びレポート1～3の合格</p> <p>テスト2 スクーリングに2時間以上出席, 及びレポート4～6の合格 *テスト1の合格が必須</p> <p>テスト3 スクーリングに3時間以上出席, 及びレポート7～9の合格 *テスト2の合格が必須</p> <p>2) 単位修得</p> <p>テスト3が合格により3単位修得 *分割修得は認めない</p> <p>3) 履修認定</p> <p>スクーリングに3時間以上出席, 及びレポート1～9が合格 *テスト3が合格せず学習活動が終了</p>				
観点別評価について				
評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	レポート/テストの穴埋め問題により評価する	レポート テスト	40点	40～20点: A 19～01点: B 0点: C
思考 判断 表現	レポート/テストの用語解説/説明問題で評価する	レポート テスト	60点	60～30点: A 29～01点: B 0点: C
主体的に 学習に取り 組む態度	主体的にレポートに取り組み, テスト合格に向けて努力したことを評価する	テスト	合格	A
その他				
<p>1) スクーリング</p> <p>1枚のレポート範囲が膨大であるため, スクーリングでは大切なポイントに絞って解説します。そのポイントはテストの重要箇所となります。</p> <p>2) レポート</p> <p>教科書の本文だけでなく, 細かい解説文やコラム等も読んで取り組むこと。レポートの答えは必ず教科書に書いてあるためよく読んで取り組むこと。自分の意見を問う問題は, 正解・不正解はないため, きちんと自分の考えを書くこと。なお, 空欄が多い場合には再提出とする。</p> <p>*色鉛筆必須</p> <p>3) テスト</p> <p>テストは全範囲から出題するが, スクーリングで解説した大切なポイントから多く出題します。</p>				

教科	科目	単位数	履修上の留意点	
地理歴史	歴史総合	2	必履修科目	
指導目標	世界のあらゆる地域の結びつきが非常に強くなった時代である近代・現代（おもに19世紀以降）について、日本の歴史と世界の歴史を関連づけながら理解する。			
教科書	副教材	添削指導	面接指導	
わたしたちの歴史 日本から世界へ 改訂版	なし	6回	6単位時間	
NHK放送視聴による減免の有無	<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない			
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限		
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット	高校講座 歴史総合	/		
添削課題（レポート）				
回数	学習内容	提出目標日		
1	18世紀の世界とアジア、産業革命、アヘン戦争と日本の開国、日本開国期の国際情勢、開国後の日本社会、欧米の市民革命と国民統合	10/18		
2	明治維新、富国強兵と文明開化、日本明治初期の外交、大日本帝国憲法の制定、日本の産業革命と日清戦争、日露戦争と韓国併合	11/5		
3	世界の大衆運動、第一次世界大戦、第一次世界大戦と日本、ロシア革命とその影響、社会運動の広がり、第一次世界大戦後の国際協調	11/15		
4	アジアの民族運動、大量生産・大量消費社会、世界恐慌、独裁勢力の台頭、日本のアジア進出、第二次世界大戦	12/10		
5	第二次世界大戦と日本、第二次世界大戦の終結、戦後国際秩序 冷戦の始まり、日本の戦後改革と日本国憲法、日本の独立	12/25		
6	第三世界の登場、冷戦の展開、55年体制と安保闘争、高度経済成長、ベトナム戦争とアメリカ、経済構造の変化、アジアの経済成長、冷戦の終結	～1/21		
面接指導（スクーリング）				
単位時間	学習内容	実施日		
1	産業革命の背景と影響、列強のアジア進出、欧米の市民革命について理解する。 幕末の開国の経過とその影響とそれにもなつてどのように政治や社会がどのように変化したか考える。	10/1（木） 10/4（日）		
1	江戸幕府の滅亡から明治新政府の成立の経過を理解し、新政府がどのような目標を持って改革をおこなっていたかを考える。 明治政府がどのような外交方針をもちながら対外政策にあたったのか、その経過と成果を理解する。	10/18（日） 10/22（木）		

1	一般民衆が社会に大きな影響を与えていくことを大正デモクラシーやロシア革命を通じて理解する。 第一次世界大戦の背景・経過・結果・影響を理解し、その後国際協調に向かっていく動きを理解する。	11/5 (木) 11/8 (日)
1	戦間期の国際社会を理解するとともに世界恐慌の影響をうけて国際関係がどのように変容したかを考える。 なぜファシズムが台頭したのかを考察し、日中戦争や第二次世界大戦が勃発した理由を理解する。	11/26 (木) 11/29 (日)
1	太平洋戦争勃発から終戦までの経過とその後の国際秩序の変化を理解する。 連合国による日本の占領政策方針がどのように変化していくかと日本がどのように独立したかを理解する。	12/6 (日) 12/10 (木)
1	冷戦が国際社会におよぼした影響と冷戦がどのように終結したかを理解する。 独立後の日本の政治と社会がどのように変化していったかを理解し、現代の課題について考える。	1/7 (木) 1/10 (日)

試験

回数	試験範囲	実施日
1	レポート1～3	11/15以降
2	レポート4～6	1/21～2/1

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

スクーリングに1時間以上出席し、レポート1～3が合格することでテスト1を受験できます。
テスト1合格したうえで、スクーリングに1時間以上出席（合計2時間以上）し、レポート4～6が合格することでテスト2を受験することができます。テスト2が合格となれば2単位の修得となります。
スクーリングに2時間以上出席し、レポート1～6が合格となり、テスト2が合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。次年度以降テスト受験をして合格することで単位修得が認められます。単位の分割修得は認めません。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	知識： 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能： 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それ	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C

	らを基に議論したりする力を養う。			
主体的に 学習に取り 組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	テスト	合格	A
その他				
<p>①スクーリングについて 自学自習の支援のための要領解説を講義しながら、いま私たちが生活する現在との関連について理解を深めた い重要ポイントについて説明します。レポートの文章問題はスクーリングで丁寧に解説するので、なるべく多 くのスクーリングに出席することをお勧めします。</p> <p>②レポートについて レポートの配付は10月1日（木）以降にレポート1～3、11月26日（木）以降にレポート4～6をまとめて 配付します。教科書を熟読することでレポートの大部分は完成させることができるはずです。文章で解答する 問題は教科書をよく読めば解答できる問題がほとんどですが、一部自分で考えて解答を導き出す問題もありま す。空欄が多いと判断した場合（空欄2つ以上が目安）は再提出となります。</p> <p>③テストについて レポート3回分がテスト範囲となります。出題はレポートで学習した内容のみとなりますが、レポートの問い を再構成して出題しますので、レポートの丸暗記だけでは対応できません。高得点をとるためにはテスト範囲 部分の教科書を読みこんで内容理解に努める必要があります。細かな過去のできごとや人物の暗記は求めてい ません。テストは選択問題を多く盛り込んでいますので、不合格になることを恐れず受験してください。</p>				

教科		科目	単位数	履修上の留意点	
地理歴史		日本史探究	3	選択自由科目 歴史総合履修後に受講できる	
指導目標	「歴史総合」の学習によって身につけた資質・能力を基に、我が国の歴史の展開に関わる諸事象について理解するとともに、現代の日本の課題を探究する。1年間の学習を通じて、現代日本の課題を見いだし、その解決に向け主体的に探究する力を身につける。				
教科書		副教材	添削指導	面接指導	
高校日本史 (山川出版社)		なし	9 回	9 単位時間	
NHK放送視聴による減免の有無		<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない			
視聴媒体		視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限		
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット		高校講座 日本史探究			
添削課題 (レポート)					
回数	学習内容			提出目標日	
1	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権			5 / 3 1	
2	第3章 律令国家の形成 第4章 貴族政治の展開			6 / 2 5	
3	第5章 院政と武士の進出 第6章 武家政権の成立			7 / 5	
4	第7章 武家社会の成長 第8章 近世の幕開け			7 / 2 6	
5	第9章 幕藩体制の成立と展開 第10章 幕藩体制の動揺			8 / 2 3	
6	第11章 近世から近代へ 第12章 近代国家の成立			10 / 1 8	
7	第13章 近代国家の展開と国際関係 第14章 近代の産業と生活			12 / 6	
8	第15章 恐慌と第二次世界大戦			12 / 2 0	
9	第16章 現代の世界と日本			1 / 2 1	
面接指導 (スクーリング)					
単位時間	学習内容			実施日	
1	旧石器～縄文～弥生時代へと移っていくなかで、自然環境の変化が人びとの生活に与えた影響を理解する。 古墳の分布から読み取るヤマト政権による国家形成と中国史書から読み取る大陸との関係について理解する。			5/7 (木) 5/17 (日)	
1	中国の制度を取り入れて形成された律令国家における政治・社会・文化と表出した問題点を理解する。 中央における摂関政治と地方支配の変化とその関係性、武士が出現する背景を理解する。			5/31 (日) 6/4 (木)	

1	<p>摂関政治が衰退して院政が成立する状況と、武士が台頭することの関連性を理解する。</p> <p>本格的な武家政権である鎌倉幕府の支配および大陸との関係と社会の変化を理解する。</p>	<p>6/25 (木)</p> <p>6/28 (日)</p>
1	<p>南北朝の動乱から室町幕府の支配および守護の成長、一揆や下剋上が発生した背景を理解する。</p> <p>日本全国を統一しようとする天下人の出現による政治や社会のあり方の変化を理解する。</p>	<p>7/12 (日)</p> <p>7/16 (木)</p>
1	<p>幕府による大名・農民・宗教・貿易統制などにより安定した世の中が形成されたことを理解する。</p> <p>幕藩体制の限界とそれを克服しようとする幕政改革の内容と成果・課題を理解する。</p>	<p>7/23 (木)</p> <p>7/26 (日)</p>
1	<p>開国後幕府・朝廷・諸藩はどのような世の中をつくろうとしたかを理解する。</p> <p>明治新政府が日本の近代化を進めるためにどのような改革をおこなったかを理解する。</p>	<p>10/1 (木)</p> <p>10/4 (日)</p>
1	<p>欧米列強に対抗するため近代日本がどのように国際関係を築いていったかを理解する。</p> <p>欧米列強に対抗するため近代日本がどのように産業を発展させて経済成長したかを理解する。</p>	<p>11/15 (日)</p> <p>11/19 (木)</p>
1	<p>1920年代に恐慌が連続した状況とそれが政治および軍事に及ぼした影響をふまえて、日中戦争・太平洋戦争に突入していった状況を理解する。</p>	<p>12/6 (日)</p> <p>12/10 (木)</p>
1	<p>戦後占領下におかれた日本の状況と主権を取り戻した後の日本の成長の経過を理解するとともに、現代日本の課題について考察する。</p>	<p>12/17 (木)</p> <p>12/20 (日)</p>

試験

回数	試験範囲	実施日
1	レポート1～3	7/2以降
2	レポート4～6	10/18以降
3	レポート7～9	1/21～2/1

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

スクーリングに1時間以上出席し、レポート1～3が合格することでテスト1を受験できます。

テスト1合格したうえで、スクーリングに1時間以上出席（合計2時間以上）し、レポート4～6が合格することでテスト2を受験することができます。テスト2まで合格したうえで、スクーリングに1時間以上出席（合計3時間以上）し、レポート7～9が合格することでテスト3を受験することができます。テスト3が合格となれば3単位の修得となります。

スクーリングに3時間以上出席し、レポート1～9が合格となり、テスト3が合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。次年度以降テスト受験をして合格することで単位修得が認められます。単位の分割修得は認めません。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法
-------	-------	------

知識 技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	テスト	合格	A

その他

①スクーリングについて

自学自習の支援のための要領解説を講義しながら、いま私たちが生活する現在との関連について理解を深めたい重要ポイントについて説明します。レポートの文章問題はスクーリングで丁寧に解説するので、なるべく多くのスクーリングに出席することをお勧めします。

②レポートについて

レポートはスクーリングごとに配付します。教科書を熟読することでレポートの大部分は完成させることができるはずですが、文章で解答する問題は教科書をよく読めば解答できる問題がほとんどですが、一部自分で考えて解答を導き出す問題もあります。空欄が多いと判断した場合（空欄2つ以上が目安）は再提出となります。

③テストについて

レポート3回分がテスト範囲となります。出題はレポートで学習した内容のみとなりますが、レポートの問いを再構成して出題しますので、レポートの丸暗記だけでは対応できません。高得点をとるためにはテスト範囲部分の教科書を読みこんで内容理解に努める必要があります。細かな過去のできごとや人物の暗記は求めています。テストは選択問題を多く盛り込んでいますので、不合格になることを恐れず受験してください。

教科		科目	単位数	履修上の留意点	
地理歴史		世界史探究	3	選択自由科目 歴史総合履修後に受講できる	
指導目標	「歴史総合」の学習によって身につけた資質・能力を基に、さらに深く世界の歴史について理解するとともに、地球世界の課題を探究する。1年間の学習を通じて、地球世界の課題を見いだし、その解決に向け主体的に探究する力を身につける。				
教科書		副教材	添削指導	面接指導	
高校世界史 (山川出版社)		なし	9回	9単位時間	
NHK放送視聴による減免の有無		<input type="checkbox"/> 実施している		<input checked="" type="checkbox"/> 実施していない	
視聴媒体		視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限		
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット		高校講座 世界史探究			
添削課題 (レポート)					
回数	学習内容			提出目標日	
1	1 文明の成立と古代文明の特質 2 中央ユーラシアと東アジア世界			5 / 3 1	
2	3 南アジア世界と東南アジア世界の展開 4 西アジアと地中海周辺の世界形成 5 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成			6 / 1 4	
3	6 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 7 ヨーロッパ世界の変容と展開 8 東アジア世界の展開とモンゴル帝国			6 / 2 8	
4	9 大交易・大交流の時代 10 アジアの諸帝国の繁栄 11 近世ヨーロッパ世界の動向			7 / 2 6	
5	12 産業革命と環大西洋革命 13 イギリスの優位と欧米国民国家の形成			8 / 2 3	
6	14 アジア諸地域の動揺 15 帝国主義とアジアの民族運動			10 / 2 2	
7	16 第一次世界大戦と社会の変容			11 / 2 6	
8	17 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成			12 / 2 0	
9	18 冷戦と第三世界の台頭 19 冷戦の終結と今日の世界			1 / 2 1	
面接指導 (スクーリング)					
単位時間	学習内容			実施日	
1	世界各地の古代文明の成立背景と各文明の特色について理解する。 大帝国となった秦・漢の成立背景や発展の経過と周辺諸国との関係について理解する。			5/7 (木) 5/17 (日)	
1	古代インドにおける宗教の多様な展開と統一国家の成立について理解する。 古代のイラン・ギリシア・ローマ世界の発展とキリスト教の成立について理解する。 イスラーム教の誕生と中世ヨーロッパ世界の成立について理解する。			5/31 (日) 6/4 (木)	

1	イスラーム教の広がりや西アジア世界の発展について理解する。 東西の中世ヨーロッパ世界とキリスト教との関係について理解する。 宋と周辺諸国との関係とモンゴル帝国の成立・発展について理解する。	6/11 (木) 6/14 (日)
1	イスラーム教の広がりや西アジア世界の発展について理解する。 東西の中世ヨーロッパ世界とキリスト教との関係について理解する。 宋と周辺諸国との関係とモンゴル帝国の成立・発展について理解する。	7/12 (日) 7/16 (木)
1	産業革命、アメリカの独立、フランス革命の概要について理解する。 近代の欧米国民国家の政治と社会の変動について理解する。	7/23 (木) 7/26 (日)
1	ヨーロッパ諸国が進出してきたことで動揺するアジア諸地域の状況について理解する。 帝国主義を進める欧米諸国とそれに抵抗しようとするアジア諸地域の関係について理解する。	10/11 (日) 10/15 (木)
1	第一次世界大戦が勃発する背景、大戦の経過およびそれにもなう社会の変化、終戦後に新たに形成された国際秩序について理解を深め、第二次世界大戦を引き起こす課題を見つけ出す。	11/5 (木) 11/8 (日)
1	第二次世界大戦勃発の背景となる世界恐慌からファシズムの台頭、大戦の経過およびそれにもなう社会の変化、終戦後に新たに形成された国際秩序について理解を深め、現代社会につながる課題を見つけ出す。	11/26 (木) 11/29 (日)
1	冷戦の経過と第三世界の誕生と連帯について理解を深め、現代社会につながる課題を見つけ出す。 1970年代から1990年代にかけての国際情勢を、冷戦の終結を軸としながら理解を深め、課題を見つけ出す。	1/7 (木) 1/10 (日)

試験

回数	試験範囲	実施日
1	レポート1～3	7/2以降
2	レポート4～6	10/18以降
3	レポート7～9	1/21～2/1

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

スクーリングに1時間以上出席し、レポート1～3が合格することでテスト1を受験できます。
テスト1合格したうえで、スクーリングに1時間以上出席（合計2時間以上）し、レポート4～6が合格することでテスト2を受験することができます。テスト2まで合格したうえで、スクーリングに1時間以上出席（合計3時間以上）し、レポート7～9が合格することでテスト3を受験することができます。テスト3が合格となれば3単位の修得となります。
スクーリングに3時間以上出席し、レポート1～9が合格となり、テスト3が合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。次年度以降テスト受験をして合格することで単位修得が認められます。単位の分割修得は認めません。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法
-------	-------	------

知識 技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身につけるようにする。	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史的に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	テスト	合格	A

その他

①スクーリングについて

自学自習の支援のための要領解説を講義しながら、いま私たちが生活する現在との関連について理解を深めたい重要ポイントについて説明します。レポートの文章問題はスクーリングで丁寧に解説するので、なるべく多くのスクーリングに出席することをお勧めします。

②レポートについて

レポートはスクーリングごとに配付します。教科書を熟読することでレポートの大部分は完成させることができるはずですが、文章で解答する問題は教科書をよく読めば解答できる問題がほとんどですが、一部自分で考えて解答を導き出す問題もあります。空欄が多いと判断した場合（空欄2つ以上が目安）は再提出となります。

③テストについて

レポート3回分がテスト範囲となります。出題はレポートで学習した内容のみとなりますが、レポートの問いを再構成して出題しますので、レポートの丸暗記だけでは対応できません。高得点をとるためにはテスト範囲部分の教科書を読みこんで内容理解に努める必要があります。細かな過去のできごとや人物の暗記は求めています。テストは選択問題を多く盛り込んでいますので、不合格になることを恐れず受験してください。

教科	科目	単位数	履修上の留意点	
公民	公共	2	必修科目	
指導目標	主権者として社会に参加するために必要な知識を学ぶだけでなく、適切な判断力や様々な社会的課題に対して適切に判断し、解決する力を身につける。			
教科書	副教材	添削指導	面接指導	
詳述公共新訂版 (実教出版)	なし	6回	6単位時間	
NHK放送視聴による減免の有無		<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体		視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> インターネット				
添削課題 (レポート)				
回数	学習内容		提出目標日	
1	1) 公共の扉		4/26 4/30	10/1 10/4
2	1) 民主国家における基本原理 2) 日本国憲法の基本的性格		5/21 5/24	10/11 10/15
3	1) 日本の政治機構と政治参加		5/31 6/4	10/18 10/22
4	1) 現代の経済社会		6/25 6/28	11/15 11/19
5	1) 経済活動のあり方と国民福祉		7/2 7/5	12/6 12/10
6	1) 国際政治の動向と課題 2) 国際経済の動向と課題		7/23 7/26	12/17 12/20
面接指導 (スクーリング)				
単位時間	学習内容		実施日	
1	1) 青年期の意義を理解する 2) 困難とその対処法について理解する 3) アイデンティティの考え方を理解する		4/26 4/30	10/1 10/4
2	1) 自然法思想を理解する 2) 日本国憲法の基本原理を理解する		5/21 5/24	10/11 10/15
3	1) 自由権/社会権を理解する 2) 国会/内閣/裁判所の役割を理解する 3) 選挙制度を理解する		5/31 6/4	10/18 10/22
4	1) 資本主義/社会主義を理解する 2) 市場のしくみを理解する		6/25 6/28	11/15 11/19
5	1) 金融/財政の役割を理解する 2) 日本の諸課題について理解する		7/2 7/5	12/6 12/10
6	1) 国際連盟/国際連合の役割を理解する 2) 民族問題/軍縮を理解する 3) 貿易と地域的経済統合を理解する		7/23 7/26	12/17 12/20
試験				
回数	試験範囲		実施日	
1	レポート1～3		6/11以降	11/5以降
2	レポート4～6		8/23-9/1	1/7-2/1

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

1) テスト受験の基準

テスト1 | スクーリングに1時間以上出席, 及びレポート1~3の合格

テスト2 | スクーリングに2時間以上出席, 及びレポート4~6の合格 *テスト1の合格が必須

2) 単位修得

テスト2が合格により2単位修得 *分割修得は認めない

3) 履修認定

スクーリングに2時間以上出席, 及びレポート1~6が合格 *テスト2が合格せず学習活動が終了

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	レポート/テストの穴埋め問題により評価する	レポート テスト	40点	40~20点: A 19~01点: B 0点: C
思考 判断 表現	レポート/テストの用語解説/説明問題で評価する	レポート テスト	60点	60~30点: A 29~01点: B 0点: C
主体的に 学習に取り 組む態度	主体的にレポートに取り組み, テスト合格に向けて努力したことを評価する	テスト	合格	A

その他

1) スクーリング

1枚のレポート範囲が膨大であるため, スクーリングでは大切なポイントに絞って解説します. そのポイントはテストの重要箇所となります.

2) レポート

教科書の本文だけでなく, 細かい解説文やコラム等も読んで取り組むこと. レポートの答えは必ず教科書に書いてあるためよく読んで取り組むこと. 自分の意見を問う問題は, 正解・不正解はないため, きちんと自分の考えを書くこと. なお, 空欄が多い場合には再提出とする.

3) テスト

テストは全範囲から出題するが, スクーリングで解説した大切なポイントから多く出題します.

教科	科目	単位数	履修上の留意点
公民	倫理	2	公共履修が必須
指導目標	人間としてのあり方生き方についての先人の思想を手掛かりに考える。また、人間尊重の精神、生命に対する畏敬の念を育み、現代の諸課題を追求する態度を身につける。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
高等学校 新倫理 (清水書院)	なし	6回	6単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> インターネット			
添削課題 (レポート)			
回数	学習内容	提出目標日	
1	第1編 現代を生きる自己の課題 第2編 人間としての自覚 第1章 ギリシャ思想		10/1 10/4
2	第2章 キリスト教・イスラーム教 第3章 仏教・儒教 第4章 芸術と倫理		10/18 10/22
3	第3編 現代をかたちづくる論理 第1章 近代の成立 第2章 世界と人間をめぐる探究1		11/5 11/8
4	第3編 現代をかたちづくる論理 第2章 世界と人間をめぐる探究2		11/26 11/29
5	第4編 国際社会に生きる日本人の自覚 第1章 日本の風土と精神文化		12/6 12/10
6	第2章 日本の近代化と人々の生き方 第5編 現代における諸課題の探究		1/7 1/10
面接指導 (スクーリング)			
単位時間	学習内容	実施日	
1	1) 主体としての自己を理解する 2) ギリシャ思想を理解する		10/1 10/4
2	1) 唯一神の宗教を理解する 2) 東洋思想の源流を理解する		10/18 10/22
3	1) 人間の尊厳を理解する 2) 経験論と合理論を理解する		11/5 11/8
4	1) 現代社会と個人を理解する 2) 近代の世界観を問い直す		11/26 11/29
5	1) 日本人の人間観を理解する 2) 日本の仏教受容を理解する		12/6 12/10
6	1) 近代的個人の自覚を理解する 2) 社会や文化の諸課題を考察する		1/7 1/10
試験			
回数	試験範囲	実施日	
1	レポート1～3		11/15以降
2	レポート4～6		1/21-2/1

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

1) テスト受験の基準

テスト1 | スクーリングに1時間以上出席, 及びレポート1~3の合格

テスト2 | スクーリングに2時間以上出席, 及びレポート4~6の合格 *テスト1の合格が必須

2) 単位修得

テスト2が合格により2単位修得 *分割修得は認めない

3) 履修認定

スクーリングに2時間以上出席, 及びレポート1~6が合格 *テスト2が合格せず学習活動が終了

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	レポート/テストの穴埋め問題により評価する	レポート テスト	40点	40~20点: A 19~01点: B 0点: C
思考 判断 表現	レポート/テストの用語解説/説明問題で評価する	レポート テスト	60点	60~30点: A 29~01点: B 0点: C
主体的に 学習に取り 組む態度	主体的にレポートに取り組み, テスト合格に向けて努力したことを評価する	テスト	合格	A

その他

1) スクーリング

1枚のレポート範囲が膨大であるため, スクーリングでは大切なポイントに絞って解説します.
そのポイントはテストの重要箇所となります.

2) レポート

教科書の本文だけでなく, 細かい解説文やコラム等も読んで取り組むこと. レポートの答えは必ず教科書に書いてあるためよく読んで取り組むこと. 自分の意見を問う問題は, 正解・不正解はないため, きちんと自分の考えを書くこと. なお, 空欄が多い場合には再提出とする.

3) テスト

テストは全範囲から出題するが, スクーリングで解説した大切なポイントから多く出題します.

教科	科目	単位数	履修上の留意点	
公民	政治・経済	2	公共履修が必須	
指導目標	現代における政治、経済、国際関係について客観的に理解し、それらに関する諸課題について主体的に考察する。また、民主主義の本質を理解し、公正な判断力によって良識ある資質と能力を身につける。			
教科書	副教材	添削指導	面接指導	
政治・経済 (東京書籍)	なし	6回	6単位時間	
NHK放送視聴による減免の有無		<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体		視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> インターネット				
添削課題 (レポート)				
回数	学習内容		提出目標日	
1	1) 民主政治の基本原理 2) 日本国憲法の基本原理		4/26 4/30	
2	1) 日本の政治機構 2) 現代政治の特質と課題		5/7 5/17	
3	1) 現代の国際政治		5/31 6/4	
4	1) 現代の資本主義経済 2) 現代経済のしくみ		7/2 7/5	
5	1) 日本経済の発展と産業構造の変化 2) 福祉社会と日本経済の課題		7/12 7/16	
6	1) 国民経済と国際経済 2) 日本社会の諸課題 3) 国際社会の諸課題		7/23 7/26	
面接指導 (スクーリング)				
単位時間	学習内容		実施日	
1	1) 自然法思想を理解する 2) 日本国憲法の基本原則を理解する		4/26 4/30	
2	1) 国会／内閣／裁判所の役割を理解する 2) 選挙制度を理解する		5/7 5/17	
3	1) 国際連合の役割と課題を理解する 2) 冷戦／軍拡を理解する		5/31 6/4	
4	1) 資本主義／社会主義を理解する 2) 市場のしくみを理解する 3) 金融／財政の役割を理解する		7/2 7/5	
5	1) 日本経済の発展の流れを理解する 2) 日本の諸課題について理解する		7/12 7/16	
6	1) 貿易と国際収支を理解する 3) 自由貿易と地域的経済統合を理解する		7/23 7/26	
試験				
回数	試験範囲		実施日	
1	レポート 1～3		6/11 以降	
2	レポート 4～6		8/23-9/1	

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

1) テスト受験の基準

テスト1 | スクーリングに1時間以上出席, 及びレポート1~3の合格

テスト2 | スクーリングに2時間以上出席, 及びレポート4~6の合格 *テスト1の合格が必須

2) 単位修得

テスト2が合格により2単位修得 *分割修得は認めない

3) 履修認定

スクーリングに2時間以上出席, 及びレポート1~6が合格 *テスト2が合格せず学習活動が終了

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	レポート/テストの穴埋め問題により評価する	レポート テスト	40点	40~20点: A 19~01点: B 0点: C
思考 判断 表現	レポート/テストの用語解説/説明問題で評価する	レポート テスト	60点	60~30点: A 29~01点: B 0点: C
主体的に 学習に取り 組む態度	主体的にレポートに取り組み, テスト合格に向けて努力したことを評価する	テスト	合格	A

その他

1) スクーリング

1枚のレポート範囲が膨大であるため, スクーリングでは大切なポイントに絞って解説します。そのポイントはテストの重要箇所となります。

2) レポート

教科書の本文だけでなく, 細かい解説文やコラム等も読んで取り組むこと。レポートの答えは必ず教科書に書いてあるためよく読んで取り組むこと。自分の意見を問う問題は, 正解・不正解はないため, きちんと自分の考えを書くこと。なお, 空欄が多い場合には再提出とする。

3) テスト

テストは全範囲から出題するが, スクーリングで解説した大切なポイントから多く出題します。

教科	科目	単位数	履修上の留意点
数 学	数学 I	4	必履修科目
指導目標	1 筋道をたてて考えることの大切さを学び、繰り返し問題を解くことで基礎力が定着するよう努める。 2 教材の精選や報告課題・テストの工夫により、学習の促進を図る。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
改訂版 新高校の数学 I (数研出版)	ポイントノート数学 I (数研出版)	12 回	4 単位時間
NHK 放送視聴による減免の有無	<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット	数学 I		
添削課題 (レポート)			
回数	学習内容	NHK	提出目標日
1	第 1 章 数と式 計算の基本/整式の加法減法乗法/展開の公式	1, 2	4/30
2	第 1 章 数と式 因数分解/根号/実数	3, 4, 5, 6, 7, 8	5/24
3	第 1 章 数と式 1 次方程式/不等式	9, 10	6/14
4	第 2 章 2 次関数 2 次関数のグラフ	11, 12	7/5
5	第 2 章 2 次関数 2 次関数のグラフ/2 次関数の最大値、最小値	12, 13, 14, 15	7/16
6	第 2 章 2 次関数 グラフと 2 次方程式/グラフと 2 次不等式	16, 17, 18, 19, 20	7/26
7	第 3 章 三角比 三角比について	22, 23, 24	10/4
8	第 3 章 三角比 正弦定理/余弦定理	24, 26, 27	10/22
9	第 3 章 三角比 三角形の面積/まとめ	25, 26, 27, 30	11/8
10	第 4 章 集合と命題	39, 40	12/10
11	第 5 章 データの分析 データの整理/代表値/散らばり	32, 33	12/20
12	第 5 章 データの分析 データの相関/散布図/相関係数	34, 33	1/10
面接指導 (スクーリング)			
単位時間	学習内容	実施日	
1	第 1 章 数と式 計算の基本/整式の加法減法乗法/展開の公式	4/26, 30	
1	第 1 章 数と式 因数分解/根号/実数	5/21, 24	
1	第 1 章 数と式 1 次方程式/不等式	6/11, 14	
1	第 2 章 2 次関数 2 次関数のグラフ	7/2, 5	
1	第 2 章 2 次関数 2 次関数のグラフ/2 次関数の最大値、最小値	7/12, 16	
1	第 2 章 2 次関数 グラフと 2 次方程式/グラフと 2 次不等式	7/23, 26	
1	第 3 章 三角比 三角比について	10/1, 4	
1	第 3 章 三角比 正弦定理/余弦定理	10/18, 22	
1	第 3 章 三角比 三角形の面積/まとめ	11/5, 8	
1	第 4 章 集合と命題	12/6, 10	
1	第 5 章 データの分析 データの整理/データの代表値/データの散らばり	12/17, 20	
1	第 5 章 データの分析 データの相関/散布図/相関係数	1/7, 10	

試験

回数	試験範囲	実施日
1	R1～R3 の内容	6/25 以降
2	R4～R6 の内容	8/23 以降
3	R7～R9 の内容	11/15 以降
4	R10～R12 の内容	1/21 以降

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

- ・レポートはスクーリング実施日(レポートに記載された日)以降に提出できます。ただし、分割の場合はそれ以前でも提出できます。
- ・レポートは**1度に1枚**提出です。提出したレポートが合格してから次を提出して下さい。
- ・レポートは90%以上記入(全て記入が望ましい)し、かつ正解の割合が50%以上の時に合格になります。しかし、そのレポートの大事な問題が出来てないときは、正解が多くても再提出になることがあります。・返却されたレポートは、テスト受験まで、必ず間違い直しをすること。
- ・レポート合格と出席時間数が規定に達するとテストの受験資格が与えられます。

テストを受けられる条件

テスト1	レポート1, 2, 3が合格している。	出席1回以上	
テスト2	レポート4, 5, 6が合格している。	出席2回以上	テスト1に合格している
テスト3	レポート7, 8, 9が合格している。	出席3回以上	テスト2に合格している
テスト4	レポート10, 11, 12が合格している。	出席4回以上	テスト3に合格している

テストを受けられる条件(分割2単位の人)

テスト3	レポート7, 8, 9が合格している。	出席1回以上	
テスト4	レポート10, 11, 12が合格している。	出席2回以上	テスト3に合格している

- ・設定しているテストの時期に受験できるように計画的に学習をすすめましょう。
- ・テストの合格は**30点以上**です。30点未満の場合は再テストになります。
- ・再テストは**2回目35点以上、3回目以降40点以上**で合格となります。(この場合、評点は最高でも49点)

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識・技能	主にテストの基本問題の解答により評価します。	レポート、テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考・判断・表現	主にテストの解答内容により評価します。	レポート、テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に学習に取り組む態度	主体的にレポートに取り組み、テストに合格に向け努力した	テスト	合格	A

その他

授業内容

- ・1回のスクーリングでレポート1枚分の要点のまとめとレポートの解答・解説が中心になります。
- ・レポートの予習をしてからスクーリングに出席しましょう。

学習への取り組み

- 1 教科書を利用して、学習に取り組む。
- 2 途中の計算を丁寧に書く。図形の問題では実際に自分で図形を描いてみる。**見る人に伝わるように**書きましょう。
- 3 レポートに取り組む。スクーリングの前に1度は取り組もう。
レポートはスクーリング時に数回先分まで渡します。予習して来てください。
欠席した人は後でとりに来るか電話・郵送で請求して下さい。(電話・郵送の場合は返送用封筒送付のこと。)
- 4 問題集で練習しよう。**手を動かして書いた分だけ、自分の力になります。**
内容がわからず不安な人は、ぜひ個人学習を申し込んでください。またNHK Eテレの『高校講座 数学I』を利用して理解を深めましょう。

教科		科目	単位数	履修上の留意点
数 学		数学Ⅱ	4	数学Ⅰの履修終了後に受講する。
指導目標	1 筋道をたてて考えることの大切さを学び、繰り返し問題を解くことで基礎力が定着するよう努める。 2 教材の精選や報告課題・テストの工夫により、学習の促進を図る。			
教科書		副教材	添削指導	面接指導
新 高校の数学Ⅱ (数研出版)		ポイントノート数学Ⅱ (数研出版)	12 回	4 単位時間
NHK放送視聴による減免の有無		<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体		視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット		数学Ⅱ		
添削課題 (レポート)				
回数	学習内容		NHK	提出目標日
1	第1章 複素数と方程式 式の展開と因数分解/分数式の計算		1, 2, 3	5/17
2	第1章 複素数と方程式 複素数/判別式/解と係数の関係		4, 5	6/4
3	第1章 複素数と方程式 多項式のわり算/因数定理/高次方程式		6, 7	6/14
4	第2章 図形と方程式 距離/内分点と外分点/直線		9, 10, 11	7/5
5	第2章 図形と方程式 2直線の関係/円の方程式		12, 13, 14	7/16
6	第2章 図形と方程式 円と直線/軌跡/不等式と領域		14, 15, 16	7/26
7	第3章 三角関数 三角比/一般角/三角関数		17~21	10/4
8	第3章 三角関数 加法定理		22, 23, 24	10/22
9	第4章 指数関数・対数関数 指数関数/対数関数		25~31	11/8
10	第5章 微分法と積分法 微分係数/導関数/接戦		32, 33, 34	11/29
11	第5章 微分法と積分法 関数の増減/極値/最大値最小値		35, 36, 37	12/20
12	第5章 微分法と積分法 不定積分/定積分/面積		38, 39, 40	1/10
面接指導 (スクーリング)				
単位時間	学習内容			実施日
1	第1章 数と式 計算の基本/整式の加法減法乗法/展開の公式			5/7, 17
1	第1章 数と式 因数分解/根号/実数			5/31, 6/4
1	第1章 数と式 1次方程式/不等式			6/11, 14
1	第2章 2次関数 2次関数のグラフ			7/2, 5
1	第2章 2次関数 2次関数のグラフ/2次関数の最大値、最小値			7/12, 16
1	第2章 2次関数 グラフと2次方程式/グラフと2次不等式			7/23, 26
1	第3章 三角比 三角比について			10/1, 4
1	第3章 三角比 正弦定理/余弦定理			10/18, 22
1	第3章 三角比 三角形の面積/まとめ			11/5, 8
1	第4章 集合と命題			11/26, 29
1	第5章 データの分析 データの整理/データの代表値/データの散らばり			12/17, 20
1	第5章 データの分析 データの相関/散布図/相関係数			1/7, 10
試験				

回数	試験範囲	実施日
1	R1～R3 の内容	6/25 以降
2	R4～R6 の内容	8/23 以降
3	R7～R9 の内容	11/15 以降
4	R10～R12 の内容	1/21 以降

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

- ・レポートはスクーリング実施日(レポートに記載された日)以降に提出できます。ただし、分割の場合はそれ以前でも提出できます。
- ・レポートは**1度に1枚**提出です。提出したレポートが合格してから次を提出して下さい。
- ・レポートは90%以上記入(全て記入が望ましい)し、かつ正解の割合が50%以上の時に合格になります。しかし、そのレポートの大事な問題が出来てないときは、正解が多くても再提出になることがあります。・返却されたレポートは、テスト受験まで、必ず間違い直しをすること。

テストを受けられる条件

テスト1	レポート1, 2, 3が合格している。	出席1回以上	
テスト2	レポート4, 5, 6が合格している。	出席2回以上	テスト1に合格している
テスト3	レポート7, 8, 9が合格している。	出席3回以上	テスト2に合格している
テスト4	レポート10, 11, 12が合格している。	出席4回以上	テスト3に合格している

テストを受けられる条件(分割2単位の人)

テスト3	レポート7, 8, 9が合格している。	出席1回以上	
テスト4	レポート10, 11, 12が合格している。	出席2回以上	テスト3に合格している

- ・レポート合格と出席時間数が規定に達するとテストの受験資格が与えられます。
- ・設定しているテストの時期に受験できるように計画的に学習をすすめましょう。
- ・テストの合格は**30点以上**です。30点未満の場合は再テストになります。
- ・再テストは**2回目35点以上、3回目以降40点以上**で合格となります。(この場合、評点は最高でも49点)

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
		レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
知識・技能	主にテストの基本問題の解答により評価します。	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考・判断・ 表現	主にテストの解答内容により評価します。	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に学習に 取り組む態度	主体的にレポートに取り組み、テストに合格に向け努力した	テスト	合格	A

その他

授業内容

- ・ 1回のスクーリングでレポート1枚分の要点のまとめとレポートの解答・解説が中心になります。
- ・ レポートの予習をしてからスクーリングに出席しましょう。

学習への取り組み

- 1 教科書を利用して、学習に取りくむ。
- 2 途中の計算を丁寧に書く。図形の問題では実際に自分で図形を描いてみる。**見る人に伝わるように書きましょう。**
- 3 レポートに取り組む。スクーリングの前に1度は取り組もう。
レポートはスクーリング時に数回先の分まで渡します。予習して来てください。
欠席した人は後でとりに来るか電話・郵送で請求して下さい。(電話・郵送の場合は返送用封筒送付のこと。)
- 4 問題集で練習しよう。**手を動かして書いた分だけ、自分の力になります。**
内容がわからず不安な人は、ぜひ個人学習を申し込んでください。またNHK Eテレの『高校講座 数学I』を利用して理解を深めましょう。

教科		科目	単位数	履修上の留意点
数 学		数学 A	2	選択科目 (前期)
指導目標	1 筋道をたてて考えることの大切さを学び、繰り返し問題を解くことで基礎力が定着するよう努める。 2 教材の精選や報告課題・テストの工夫により、学習の促進を図る。			
教科書		副教材	添削指導	面接指導
改訂版 新 高校の数学 A (数研出版)		ポイントノート数学 A (数研出版)	6 回	2 単位時間
NHK放送視聴による減免の有無		<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体		視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット		数学 A	/	
添削課題 (レポート)				
回数	学習内容		NHK	提出目標日
1	第 1 章 場合の数と確率 第 1 節 場合の数		1～9	5/17
2	第 1 章 場合の数と確率 第 2 節 確率 事象と確率/確率の計算		10～12	5/24
3	第 1 章 場合の数と確率 第 2 節 確率 独立な試行と確率/条件付き確率/期待値		13～16	6/4
4	第 2 章 図形の性質 第 1 章 平面図形 (三角形)		17～24	6/28
5	第 2 章 図形の性質 第 1 章 平面図形 (円)		26, 27, 28	7/5
6	第 2 章 図形の性質 第 1 章 平面図形 (円) 第 2 章 空間図形		25, 29, 30, 31	7/26
面接指導 (スクーリング)				
単位時間	学習内容			実施日
1	第 1 章 場合の数と確率 第 1 節 場合の数			5/7, 17
1	第 1 章 場合の数と確率 第 2 節 確率 事象と確率/確率の計算			5/21, 24
1	第 1 章 場合の数と確率 第 2 節 確率 独立な試行と確率/条件付き確率/期待値			6/11, 14
1	第 2 章 図形の性質 第 1 章 平面図形 (三角形)			6/25, 28
1	第 2 章 図形の性質 第 1 章 平面図形 (円)			7/2, 5
1	第 2 章 図形の性質 第 1 章 平面図形 (円) 第 2 章 空間図形			7/23, 26
試験				
回数	試験範囲			実施日
1	R1～R3 の内容			6/11 以降
2	R4～R6 の内容			8/23 以降

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

- ・レポートはスクーリング実施日(レポートに記載された日)以降に提出できます。
- ・レポートは**1度に1枚**提出です。提出したレポートが合格してから次を提出して下さい。
- ・レポートは90%以上記入(**全て記入が望ましい**)し、かつ正解の割合が50%以上の時に合格になります。しかし、そのレポートの大事な問題が出来てないときは、正解が多くても再提出になることがあります。・返却されたレポートは、テスト受験まで、必ず間違い直しをすること。
- ・レポート合格と出席時間数が規定に達するとテストの受験資格が与えられます。(履修認定の人はテスト受験のみ)

テストを受けられる条件

テスト1	レポート1, 2, 3が合格している。	出席1回以上	
テスト2	レポート4, 5, 6が合格している。	出席2回以上	テスト1に合格している

- ・設定しているテストの時期に受験できるように計画的に学習をすすめましょう。
- ・テストの合格は**30点以上**です。30点未満の場合は再テストになります。
- ・再テストは**2回目35点以上、3回目以降40点以上**で合格となります。(この場合、評点は最高でも49点)

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
		レポート テスト	50点	50~26点:A 25~1点:B 0点:C
知識 技能	主にテストの基本問題の解答により評価します。	レポート テスト	50点	50~26点:A 25~1点:B 0点:C
思考 判断 表現	主にテストの解答内容により評価します。	レポート テスト	50点	50~26点:A 25~1点:B 0点:C
主体的に 学習に取り 組む態度	主体的にレポートに取り組み、テストに合格に向け努力した	テスト	合格	A

その他

授業内容

- ・1回のスクーリングでレポート1枚分の要点のまとめとレポートの解答・解説が中心になります。
- ・レポートの予習をしてからスクーリングに出席しましょう。

学習への取り組み

- 1 教科書を利用して、学習に取り組む。
- 2 途中の計算を丁寧に書く。図形の問題では実際に自分で図形を描いてみる。**見る人に伝わるように**書きましょう。
- 3 レポートに取り組む。スクーリングの前に1度は取り組もう。
レポートはスクーリング時に数回先の方まで渡します。予習して来てください。
欠席した人は後でとりに来るか電話・郵送で請求して下さい。(電話・郵送の場合は返送用封筒送付のこと。)
- 4 問題集で練習しよう。**手を動かして書いた分だけ、自分の力になります。**
内容がわからず不安な人は、ぜひ個人学習を申し込んでください。またNHK Eテレの『高校講座 数学A』を利用して理解を深めましょう。

教科		科目	単位数	履修上の留意点	
数 学		数学 B	2	「数学 I」の履修終了後に受講する。 選択科目（後期）	
指導目標	1 筋道をたてて考えることの大切さを学び、繰り返し問題を解くことで基礎力が定着するよう努める。 2 教材の精選や報告課題・テストの工夫により、学習の促進を図る。				
教科書		副教材		添削指導	面接指導
新 高校の数学 B (数研出版)		ポイントノート数学 B (数研出版)		6 回	2 単位時間
NHK放送視聴による減免の有無		<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない			
視聴媒体		視聴番組タイトル名		放送視聴票提出期限	
<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> インターネット					
添削課題（レポート）					
回数	学習内容				提出目標日
1	第 1 章 数列 等差数列／等比数列				10/4
2	第 1 章 数列 和の記号／階差数列				10/22
3	第 1 章 数列 漸化式／数学的帰納法				11/8
4	第 2 章 統計的な推測 確率変数／確率分布／二項定理				11/29
5	第 2 章 統計的な推測 確率密度関数／正規分布				12/20
6	第 2 章 統計的な推測 母集団と標本／母平均の推定				1/10
面接指導（スクーリング）					
単位時間	学習内容				実施日
1	第 1 章 数列 等差数列／等比数列				10/1, 4
1	第 1 章 数列 和の記号／階差数列				10/18, 22
1	第 1 章 数列 漸化式／数学的帰納法				11/5, 8
1	第 2 章 統計的な推測 確率変数／確率分布／二項定理				11/26, 29
1	第 2 章 統計的な推測 確率密度関数／正規分布				12/17, 20
1	第 2 章 統計的な推測 母集団と標本／母平均の推定				1/7, 10
試験					
回数	試験範囲				実施日
1	R1～R3 の内容				11/15 以降
2	R4～R6 の内容				1/21 以降

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

- ・レポートはスクーリング実施日(レポートに記載された日)以降に提出できます。
- ・レポートは**1度に1枚**提出です。提出したレポートが合格してから次を提出して下さい。
- ・レポートは90%以上記入(**全て記入が望ましい**)し、かつ正解の割合が50%以上の時に合格になります。しかし、そのレポートの大事な問題が出来てないときは、正解が多くても再提出になることがあります。・返却されたレポートは、テスト受験まで、必ず間違い直しをすること。
- ・レポート合格と出席時間数が規定に達するとテストの受験資格が与えられます。(履修認定の人はテスト受験のみ)

テストを受けられる条件

テスト1	レポート1, 2, 3が合格している。	出席1回以上	
テスト2	レポート4, 5, 6が合格している。	出席2回以上	テスト1に合格している

- ・設定しているテストの時期に受験できるように計画的に学習をすすめましょう。
- ・テストの合格は**30点以上**です。30点未満の場合は再テストになります。
- ・再テストは**2回目35点以上、3回目以降40点以上**で合格となります。(この場合、評点は最高でも49点)

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
		レポート テスト	50点	50~26点 : A 25~1点 : B 0点 : C
知識・技能	主にテストの基本問題の解答により評価します。	レポート テスト	50点	50~26点 : A 25~1点 : B 0点 : C
思考・判断・表現	主にテストの解答内容により評価します。	レポート テスト	50点	50~26点 : A 25~1点 : B 0点 : C
主体的に学習に取り組む態度	主体的にレポートに取り組み、テストに合格に向け努力した	テスト	合格	A

その他

授業内容

- ・1回のスクーリングでレポート1枚分の要点のまとめとレポートの解答・解説が中心になります。
- ・レポートの予習をしてからスクーリングに出席しましょう。

学習への取り組み

- 1 教科書を利用して、学習に取り組む。
- 2 途中の計算を丁寧に書く。図形の問題では実際に自分で図形を描いてみる。**見る人に伝わるように**書きましょう。
- 3 レポートに取り組む。スクーリングの前に1度は取り組もう。
レポートはスクーリング時に数回先の方まで渡します。予習して来てください。
欠席した人は後でとりに来るか電話・郵送で請求して下さい。(電話・郵送の場合は返送用封筒送付のこと。)
- 4 問題集で練習しよう。**手を動かして書いた分だけ、自分の力になります。**
内容がわからず不安な人は、ぜひ個人学習を申し込んでください。

教科	科目	単位数	履修上の留意点
理科	物理基礎	2	選択必修
指導目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動などの様々な物理現象やエネルギーへの関心を高め、観察、実験などを通して物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則、物理学の果たす役割を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
新編物理基礎（東京書籍）	なし	6回	8単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 実施している <input type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
テレビ インターネット	物理基礎	8/31	
添削課題（レポート）			
回数	学習内容		
1	1編 物体の運動とエネルギー 1章 直線運動の世界		
2	2章 力と運動の法則		
3	3章 力学的エネルギー		
4	2編 さまざまな物理現象とエネルギー 1章 熱		
5	2章 波		
6	3章 電気 4章 エネルギーとその利用		
面接指導（スクーリング）			
単位時間	学習内容	実施日	
1	1編 物体の運動とエネルギー 1章 直線運動の世界	4/26, 30	
1	2章 力と運動の法則	5/7, 17	
1	3章 力学的エネルギー	5/21, 24	
1	R1～R3 復習	5/31, 6/4	
1	2編 さまざまな物理現象とエネルギー 1章 熱	6/25, 28	
1	2章 波	7/2, 5	
1	3章 電気 4章 エネルギーとその利用	7/12, 16	
1	R4～R6 復習	7/23, 26	
試験			
回数	試験範囲	実施日	
1	R1～R3	6/11 以降	

2	R4～R6	8/23 以降		
学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準				
<p>【単位修得について】</p> <p>(R1～3 合格+出席 4 時間以上) →テスト 1 受験可能</p> <p>(R4～6 合格+出席合計 8 時間以上+テスト 1 合格) →テスト 2 受験可能</p> <p>テスト 2 まで合格すると、2 単位修得。</p> <p>【履修認定について】</p> <p>(R1～6 の合格+出席 8 時間以上) ができており、テスト合格できなかった場合、履修認定となります。後期以降テスト受験し合格すると単位修得が認められます。</p>				
観点別評価について				
評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	<p>○自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>○観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。</p>	レポート テスト	50 点	<p>50～26 点：A</p> <p>25～1 点：B</p> <p>0 点：C</p>
思考 判断 表現	<p>○自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現している。</p>	レポート テスト	50 点	<p>50～26 点：A</p> <p>25～1 点：B</p> <p>0 点：C</p>
主体的に 学習に取り 組む態度	<p>○自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。</p>	テスト	合格	A
その他				
物理基礎を修得した人、数学Ⅱを履修した人のみが次年度以降物理を選択することができます。				

教科	科目	単位数	履修上の留意点
理科	物理	4	選択
指導目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
物理（東京書籍）	なし	12 回	16 単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない		
添削課題（レポート）			
回数	学習内容		
1	1編 さまざまな運動 1章 平面内の運動 2章 剛体のつり合い		
2	3章 運動量 4章 円運動		
3	5章 単振動 6章 万有引力		
4	7章 気体分子の運動		
5	2編 波 1章 波の伝わり方 2章 音		
6	3章 光		
7	3編 電気と磁気 1章 電場と電位		
8	2章 電流		
9	3章 電流と磁場		
10	4章 電磁誘導と電磁波		
11	4編 原子 1章 電子と光		
12	2章 原子と原子核 終章		
面接指導（スクーリング）			
単位時間	学習内容		実施日
1	1編 さまざまな運動 1章 平面内の運動 2章 剛体のつり合い		4/26, 30
1	3章 運動量 4章 円運動		5/7, 17
1	5章 単振動 6章 万有引力		5/21, 24
1	復習		5/31, 6/4
1	7章 気体分子の運動		6/25, 28
1	2編 波 1章 波の伝わり方 2章 音		7/2, 5
1	3章 光		7/12, 16
1	復習		7/23, 26
1	3編 電気と磁気 1章 電場と電位		10/1, 4
1	2章 電流		10/11, 15
1	3章 電流と磁場		10/18, 22
1	復習		11/5, 8
1	4章 電磁誘導と電磁波		11/26, 29
1	4編 原子 1章 電子と光		12/6, 10
1	2章 原子と原子核 終章		12/17, 20
1	復習		1/7, 10
試験			
回数	試験範囲		実施日
1	R1～R3		6/11 以降
2	R4～R6		8/23
3	R7～R9		11/15

4	R10～R12	1/21
学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準		
<p>【単位修得について】 (レポート1～3合格+出席4時間以上) →テスト1受験可能 (レポート4～6合格+出席合計8時間以上+テスト1合格) →テスト2受験可能 (レポート7～9合格+出席合計12時間以上+テスト2合格) →テスト3受験可能 (レポート10～12合格+出席合計16時間以上+テスト3合格) →テスト4受験可能 テスト4まで合格すると、4単位修得となります。</p> <p>【分割修得について】 テスト4まで合格せず、テスト2までは合格している場合、2単位の分割修得となります。 次年度以降受講登録すると、後半2単位分の学習をすることができます。</p> <p>【履修認定について】 (レポート1～12の合格+出席16時間以上) ができており、テスト合格できなかった場合、履修認定となります。次年度以降テスト受験し合格すると単位修得が認められます。</p>		
観点別評価について		
評価の観点	評価の趣旨	評価方法
知識 技能	○自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ○観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	レポート テスト 50点 50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	○自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現している。	レポート テスト 50点 50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	○自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。	テスト 合格 A
その他		
R1～R12までのスクーリングのそれぞれに最低1回は出席すること。 内容はかなり専門的なものとなるので安易な気持ちで受講しないこと		

教科	科目	単位数	履修上の留意点
理科	化学基礎	2	選択必修
指導目標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、観察、実験などを通して、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則、化学の果たす役割を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
新編化学基礎（東京書籍）	なし	6回	8単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 実施している <input type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
テレビ インターネット	物理基礎	1/7	
添削課題（レポート）			
回数	学習内容		
1	1編 物質の構成 1章 物質の成分と構成元素		
2	2章 原子の構造と元素の周期表		
3	3章 化学結合		
4	2編 物質の変化 1章 物質と化学反応式		
5	2章 酸と塩基		
6	3章 酸化還元反応		
面接指導（スクーリング）			
単位時間	学習内容	実施日	
1	1編 物質の構成 1章 物質の成分と構成元素	10/1, 4	
1	2章 原子の構造と元素の周期表	10/11, 15	
1	3章 化学結合	10/18, 22	
1	R1～R3 復習	11/5, 8	
1	2編 物質の変化 1章 物質と化学反応式	11/26, 29	
1	2章 酸と塩基	12/6, 10	
1	3章 酸化還元反応	12/17, 20	
1	R4～R6 復習	1/7, 10	
試験			
回数	試験範囲	実施日	
1	R1～R3	11/15 以降	

2	R4～R6	1/21 以降		
学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準				
<p>【単位修得について】</p> <p>(R1～3 合格+出席 4 時間以上) →テスト 1 受験可能</p> <p>(R4～6 合格+出席合計 8 時間以上+テスト 1 合格) →テスト 2 受験可能</p> <p>テスト 2 まで合格すると、2 単位修得。</p> <p>【履修認定について】</p> <p>(R1～6 の合格+出席 8 時間以上) ができており、テスト合格できなかった場合、履修認定となります。後期以降テスト受験し合格すると単位修得が認められます。</p>				
観点別評価について				
評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	○自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ○観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	レポート テスト	50 点	50～26 点：A 25～1 点：B 0 点：C
思考 判断 表現	○自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現している。	レポート テスト	50 点	50～26 点：A 25～1 点：B 0 点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	○自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。	テスト	合格	A
その他				
化学基礎を修得した人、数学Ⅱを履修した人のみが次年度以降化学を選択することができます。				

教科		科目	単位数	履修上の留意点	
理科		化学	4	選択	
指導目標	化学的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。				
教科書		副教材	添削指導	面接指導	
化学 Vol.1・Vol.2 (東京書籍)		なし	12 回	16 単位時間	
NHK放送視聴による減免の有無		<input type="checkbox"/> 実施している		<input checked="" type="checkbox"/> 実施していない	
添削課題 (レポート)					
回数	学習内容				
1	1 編 物質の状態 1 章 物質の状態 2 章 気体の性質				
2	3 章 溶液の性質 4 章 固体の構造				
3	2 編 化学反応とエネルギー 1 章 化学反応と熱・光				
4	2 章 電池と電気分解				
5	3 編 化学反応の速さと平衡 1 章 化学反応の速さ 2 章 化学平衡 1 節 可逆反応と化学平衡				
6	2 章 化学平衡 2 節 平衡の移動 3 章 水溶液中の化学平衡				
7	4 編 無機物質 1 章 周期表と元素 2 章 非金属元素の単体と化合物 3 章 典型金属元素の単体と化合物				
8	4 章 遷移元素の単体と化合物 5 章 金属イオンの分離と確認				
9	5 編 有機化合物 1 章 有機化合物の特徴と構造 2 章 炭化水素				
10	3 章 アルコールと関連化合物				
11	4 章 芳香族化合物 6 編 高分子化合物 1 章 高分子化合物とは何か				
12	2 章 天然高分子化合物 3 章 合成高分子化合物 7 編 化学が果たす役割 1 章 化学的性質の利用と工業的製法 2 章 未来を創る化学				
面接指導 (スクーリング)					
単位時間	学習内容				実施日
1	1 編 物質の状態 1 章 物質の状態 2 章 気体の性質				4/26, 30
1	3 章 溶液の性質 4 章 固体の構造				5/7, 17
1	2 編 化学反応とエネルギー 1 章 化学反応と熱・光				5/21, 24
1	復習				5/31, 6/4
1	2 章 電池と電気分解				6/25, 28
1	3 編 化学反応の速さと平衡 1 章 化学反応の速さ 2 章 化学平衡 1 節 可逆反応と化学平衡				7/2, 5
1	2 章 化学平衡 2 節 平衡の移動 3 章 水溶液中の化学平衡				7/12, 16
1	復習				7/23, 26
1	4 編 無機物質 1 章 周期表と元素 2 章 非金属元素の単体と化合物 3 章 典型金属元素の単体と化合物				10/1, 4
1	4 章 遷移元素の単体と化合物 5 章 金属イオンの分離と確認				10/11, 15
1	5 編 有機化合物 1 章 有機化合物の特徴と構造 2 章 炭化水素				10/18, 22
1	復習				11/5, 8
1	3 章 アルコールと関連化合物				11/26, 29
1	4 章 芳香族化合物 6 編 高分子化合物 1 章 高分子化合物とは何か				12/6, 10
1	2 章 天然高分子化合物 3 章 合成高分子化合物 7 編 化学が果たす役割 1 章 化学的性質の利用と工業的製法 2 章 未来を創る化学				12/17, 20
1	復習				1/7, 10
試験					
回数	試験範囲				実施日
1	R1～R3				6/11 以降
2	R4～R6				8/23
3	R7～R9				11/15

4	R10～R12	1/21
学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準		
<p>【単位修得について】 (レポート1～3合格+出席4時間以上) →テスト1受験可能 (レポート4～6合格+出席合計8時間以上+テスト1合格) →テスト2受験可能 (レポート7～9合格+出席合計12時間以上+テスト2合格) →テスト3受験可能 (レポート10～12合格+出席合計16時間以上+テスト3合格) →テスト4受験可能 テスト4まで合格すると、4単位修得となります。</p> <p>【分割修得について】 テスト4まで合格せず、テスト2までは合格している場合、2単位の分割修得となります。 次年度以降受講登録すると、後半2単位分の学習をすることができます。</p> <p>【履修認定について】 (レポート1～12の合格+出席16時間以上) ができており、テスト合格できなかった場合、履修認定となります。次年度以降テスト受験し合格すると単位修得が認められます。</p>		
観点別評価について		
評価の観点	評価の趣旨	評価方法
知識 技能	○自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ○観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	レポート テスト 50点 50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	○自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現している。	レポート テスト 50点 50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	○自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。	テスト 合格 A
その他		
R1～R12までのスクーリングのそれぞれに最低1回は出席すること。 内容はかなり専門的なものとなるので安易な気持ちで受講しないこと		

教科	科目	単位数	履修上の留意点
理科	生物基礎	2	選択必修科目
指導目標	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
改訂 新編 生物基礎 〔東京書籍〕	なし	6 回	8 単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 実施している		<input type="checkbox"/> 実施していない
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット	高校講座 生物基礎	7/31	
添削課題（レポート）			
回数	学習内容	提出目標日	
1	1 編 生物の特徴 生物の多様性と共通性〔生物の多様性、生物の共通性、細胞の特徴〕 生物とエネルギー〔生体と ATP、酵素のはたらき、呼吸と光合成〕	5/7	
2	2 編 遺伝子とのはたらき 遺伝情報と DNA〔生物と遺伝子、DNA の構造、DNA の複製と分配〕 遺伝情報とタンパク質〔タンパク質、DNA とタンパク質の合成、細胞分化と遺伝子〕	5/21	
3	3 編 人の体の調節 ヒトの体を調節するしくみ 〔体内環境、神経系による情報伝達、ホルモンによる情報伝達、血糖濃度の調節〕	5/31	
4	3 編 人の体の調節 免疫のはたらき〔免疫のしくみ、免疫の応用、免疫とさまざまな疾患〕	7/2	
5	4 編 生物の多様性と生態系 植生と遷移〔植生とその環境、植生の遷移、遷移とバイオーム〕	7/12	
6	4 編 生物の多様性と生態系 生態系と生物の多様性 〔環境と生物のかかわり、生物間の関係、生態系とかく乱、生態系の保全〕	7/23	
面接指導（スクーリング）			
単位時間	学習内容	実施日	
1	1 編 生物の特徴 生物の多様性と共通性〔生物の多様性、生物の共通性、細胞の特徴〕 生物とエネルギー〔生体と ATP、酵素のはたらき、呼吸と光合成〕	4/26（日） 4/30（木）	
1	2 編 遺伝子とのはたらき 遺伝情報と DNA〔生物と遺伝子、DNA の構造、DNA の複製と分配〕 遺伝情報とタンパク質〔タンパク質、DNA とタンパク質の合成、細胞分化と遺伝子〕	5/7（木） 5/17（日）	

1	3編 人の体の調節 ヒトの体を調節するしくみ 〔体内環境、神経系による情報伝達、ホルモンによる情報伝達、血糖濃度の調節〕	5/21 (木) 5/24 (日)
1	レポート1～3の復習	5/31 (日) 6/4 (木)
1	3編 人の体の調節 免疫のはたらき〔免疫のしくみ、免疫の応用、免疫とさまざまな疾患〕	6/25 (木) 6/28 (日)
1	4編 生物の多様性と生態系 植生と遷移〔植生とその環境、植生の遷移、遷移とバイオーム〕	7/2 (木) 7/5 (日)
1	4編 生物の多様性と生態系 生態系と生物の多様性 〔環境と生物のかかわり、生物間の関係、生態系とかく乱、生態系の保全〕	7/12 (日) 7/16 (木)
1	レポート4～6の復習	7/23 (木) 7/26 (日)
試験		
回数	試験範囲	実施日
1	レポート1～3	6/11以降
2	レポート4～6	8/23～9/1
学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準		
<p>【単位修得について】 (レポート1～3合格+出席4時間以上) →テスト1受験可能 (レポート4～6合格+出席合計8時間以上+テスト1合格) →テスト2受験可能 テスト2まで合格すると、2単位修得となります。</p> <p>【履修認定について】 (レポート1～6の合格+出席8時間以上) ができており、テスト合格できなかった場合、履修認定となります。後期以降テスト受験し合格すると単位修得が認められます。</p>		
観点別評価について		
評価の観点	評価の趣旨	評価方法
知識 技能	○自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ○観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	レポート テスト 50点 50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	○自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現している。	レポート テスト 50点 50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	○自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。	テスト 合格 A

その他

① スクーリングについて

教科書を使い、レポートの学習内容の要点を講義形式で解説する。

② 学習への取り組み

教科書をじっくり読み、専門用語とその意味を理解すること。

R1～R6 までのスクーリングのそれぞれに最低 1 回は出席すること。

レポートは事前にまとめ配付（R1～3、R4～6 の 2 回に分けて）をするので、スクーリング前に取り組んでから出席することが望ましい。

③ レポートの提出について

レポートの空欄はすべて埋めて提出すること。空欄がある場合は再提出とする。

スクーリングに出席してもわからないときは、教科担任まで質問に来てください。

わからない箇所が多いときは、個人学習を申し込んでください。

④ テスト受験に向けて

返却されたレポートは、テスト受験まで必ず間違い直しをすること。

復習をしてからテスト受験に臨むこと。

テストの出題範囲はレポートで扱った内容のみとなりますが、その出題形式はレポートと同じとは限りません。解答の丸暗記ではなく、内容の理解に努めること。

教科	科目	単位数	履修上の留意点	
理科	生物	4	選択科目 生物基礎を履修後に受講できる	
指導目標	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。			
教科書		副教材	添削指導	面接指導
生物〔数研出版〕		なし	12回	16単位時間
NHK放送視聴による減免の有無		<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体		視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> インターネット		なし		
添削課題（レポート）				
回数	学習内容			提出目標日
1	第1編 生物の進化 生物の進化 〔生命の起源と生物の進化、遺伝子の変化と多様性、遺伝子の組み合わせの変化〕			5/7
2	第1編 生物の進化 生物の進化〔進化のしくみ、生物の系統と進化、人類の系統と進化〕			5/21
3	第2編 生命現象と物質 細胞と分子〔生体物質と細胞、タンパク質の構造と性質、化学反応にかかわるタンパク質、膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質〕			5/31
4	第2編 生命現象と物質 代謝〔代謝とエネルギー、呼吸と発酵、光合成〕			7/2
5	第3編 遺伝情報の発現と発生 遺伝情報の発現と発生〔DNAの構造と複製、遺伝情報の発現、遺伝子の発現調節〕			7/12
6	第3編 遺伝情報の発現と発生 遺伝情報の発現と発生〔発生と遺伝子発現、遺伝子を扱う技術〕			7/23
7	第4編 生物の環境応答 動物の反応と行動〔刺激の受容、ニューロンとその興奮〕			10/11
8	第4編 生物の環境応答 動物の反応と行動〔情報の統合、刺激への反応、動物の行動〕			10/18
9	第4編 生物の環境応答 植物の環境応答〔植物の生活と植物ホルモン、発芽の調節、成長の調節〕			11/1
10	第4編 生物の環境応答 植物の環境応答 〔器官の分化と花芽形成の調節、環境の変化に対する応答、配偶子形成と受精〕			12/6

11	第5編 生態と環境 生物群集と生態系 〔個体群の構造と性質、個体群内の個体間の関係、異なる種の個体群間の関係〕	12/17
12	第5編 生態と環境 生物群集と生態系〔生態系の物質生産と物質循環、生態系と人間生活〕	1/7
面接指導（スクーリング）		
単位時間	学習内容	実施日
1	第1編 生物の進化 生物の進化 〔生命の起源と生物の進化、遺伝子の変化と多様性、遺伝子の組み合わせの変化〕	4/26（日） 4/30（木）
1	第1編 生物の進化 生物の進化〔進化のしくみ、生物の系統と進化、人類の系統と進化〕	5/7（木） 5/17（日）
1	第2編 生命現象と物質 細胞と分子〔生体物質と細胞、タンパク質の構造と性質、化学反応にかかわるタンパク質、膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質〕	5/21（木） 5/24（日）
1	レポート1～3の復習	5/31（日） 6/4（木）
1	第2編 生命現象と物質 代謝〔代謝とエネルギー、呼吸と発酵、光合成〕	6/25（木） 6/28（日）
1	第3編 遺伝情報の発現と発生 遺伝情報の発現と発生〔DNAの構造と複製、遺伝情報の発現、遺伝子の発現調節〕	7/2（木） 7/5（日）
1	第3編 遺伝情報の発現と発生 遺伝情報の発現と発生〔発生と遺伝子発現、遺伝子を扱う技術〕	7/12（日） 7/16（木）
1	レポート4～6の復習	7/23（木） 7/26（日）
1	第4編 生物の環境応答 動物の反応と行動〔刺激の受容、ニューロンとその興奮〕	10/1（木） 10/4（日）
1	第4編 生物の環境応答 動物の反応と行動〔情報の統合、刺激への反応、動物の行動〕	10/11（日） 10/15（木）
1	第4編 生物の環境応答 植物の環境応答〔植物の生活と植物ホルモン、発芽の調節、成長の調節〕	10/18（日） 10/22（木）
1	レポート7～9の復習	11/5（木） 11/8（日）
1	第4編 生物の環境応答 植物の環境応答 〔器官の分化と花芽形成の調節、環境の変化に対する応答、配偶子形成と受精〕	11/26（木） 11/29（日）
1	第5編 生態と環境 生物群集と生態系 〔個体群の構造と性質、個体群内の個体間の関係、異なる種の個体群間の関係〕	12/6（日） 12/10（木）
1	第5編 生態と環境 生物群集と生態系〔生態系の物質生産と物質循環、生態系と人間生活〕	12/17（木） 12/20（日）

1	レポート 10～12 の復習	1/7 (木) 1/10 (日)
試験		
回数	試験範囲	実施日
1	レポート 1～3	6/11 以降
2	レポート 4～6	8/23 以降
	レポート 7～9	11/15 以降
	レポート 10～12	1/21～2/1
学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準		
<p>【単位修得について】 (レポート 1～3 合格+出席 4 時間以上) →テスト 1 受験可能 (レポート 4～6 合格+出席合計 8 時間以上+テスト 1 合格) →テスト 2 受験可能 (レポート 7～9 合格+出席合計 12 時間以上+テスト 2 合格) →テスト 3 受験可能 (レポート 10～12 合格+出席合計 16 時間以上+テスト 3 合格) →テスト 4 受験可能 テスト 4 まで合格すると、4 単位修得となります。</p> <p>【分割修得について】 テスト 4 まで合格せず、テスト 2 までは合格している場合、2 単位の分割修得となります。 次年度以降受講登録すると、後半 2 単位分の学習をすることができます。</p> <p>【履修認定について】 (レポート 1～12 の合格+出席 16 時間以上) ができており、テスト合格できなかった場合、履修認定となります。次年度以降テスト受験し合格すると単位修得が認められます。</p>		
観点別評価について		
評価の観点	評価の趣旨	評価方法
知識 技能	○自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ○観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	レポート テスト 50 点 50～26 点 : A 25～1 点 : B 0 点 : C
思考 判断 表現	○自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現している。	レポート テスト 50 点 50～26 点 : A 25～1 点 : B 0 点 : C
主体的に 学習に取り 組む態度	○自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。	テスト 合格 A
その他		
<p>① スクリーニングについて 教科書を使い、レポートの学習内容の要点を講義形式で解説する。 レポートすべてについて解説する時間はないため、問題を抜粋して解説します。事前にレポートに取り組</p>		

んでからスクーリングに臨むようにしましょう。

② 学習への取り組み

教科書をじっくり読み、専門用語とその意味を理解すること。

R1～R12 までのスクーリングのそれぞれに最低 1 回は出席すること。

レポートは事前にまとめ配付（R1～3、R4～6、R7～9、R10～12 の 4 回に分けて）をするので、スクーリング前に取り組んでから出席することが望ましい。

③ レポートの提出について

レポートの空欄はすべて埋めて提出すること。空欄がある場合は再提出とする。

スクーリングに出席してもわからないときは、教科担任まで質問に来てください。

わからない箇所が多いときは、個人学習を申し込んでください。

④ テスト受験に向けて

返却されたレポートは、テスト受験まで必ず間違い直しをすること。

復習をしてからテスト受験に臨むこと。

テストの出題範囲はレポートで扱った内容のみとなりますが、その出題形式はレポートと同じとは限りません。解答の丸暗記ではなく、内容の理解に努めること。

教科	科目	単位数	履修上の留意点
理科	地学基礎	2	選択必履修科目
指導目標	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
改訂 新編 地学基礎 〔東京書籍〕	なし	6 回	8 単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 実施している <input type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット	高校講座 地学基礎	1/7	
添削課題（レポート）			
回数	学習内容	提出目標日	
1	1 編 私たちの大地 大地とその動き〔地球の形と大きさ、地球の内部構造、地球内部の動きとプレート、大地形の形成と地質構造〕 地震〔地震の発生、日本列島付近で起こる地震、地震による災害と防災〕	10/11	
2	1 編 私たちの大地 火山活動〔火山噴火の多様性、火山の噴火とその形、火山の分布とマグマの発生、火山による災害と防災、火成岩、変成岩と変成作用〕	10/18	
3	2 編 私たちの空と海 地球大気の特徴とその運動〔放射と地球全体の熱収支、緯度ごとの熱収支、大気の大循環〕 海水の特徴とその運動〔海洋の構造、海洋の表層循環、海洋の深層循環、大気と海洋の相互作用〕 日本の天気と気象災害〔日本付近の天気の特徴、季節の特徴と気象災害〕	11/1	
4	3 編 私たちの宇宙の誕生 宇宙の構造と進化〔宇宙を探る、宇宙の誕生と進化、天の川銀河、太陽の誕生、太陽の特徴〕 太陽系の誕生〔太陽系の全体像、太陽系の誕生、太陽系の構成、地球の特徴〕	12/6	
5	4 編 私たちの地球の歴史 地層と化石の観察〔地層の形成、地層からわかる情報〕 古生物の変遷と地球環境〔地球史の最初期、先カンブリア時代、古生代、中生代、新生代、人類の進化、地球環境の変化による生物の変遷〕	12/17	

6	5編 地球に生きる私たち 日本の自然の恵みと防災〔日本の自然環境の特徴、日本の自然の恵み、 自然科学の観点からの防災〕 地球環境と私たちの生活〔地球環境の考え方、人間活動による自然環境の変化〕 これからの地球環境〔世界の取り組み〕	1/7
面接指導（スクーリング）		
単位時間	学習内容	実施日
1	1編 私たちの大地 大地とその動き〔地球の形と大きさ、地球の内部構造、地球内部の動きとプレート、 大地形の形成と地質構造〕 地震〔地震の発生、日本列島付近で起こる地震、地震による災害と防災〕	10/1（木） 10/4（日）
1	1編 私たちの大地 火山活動〔火山噴火の多様性、火山の噴火とその形、火山の分布とマグマの発生、 火山による災害と防災、火成岩、変成岩と変成作用〕	10/11（日） 10/15（木）
1	2編 私たちの空と海 地球大気の特徴とその運動〔大気の大循環、対流圏で起こる現象〕 大気の大循環 大気の大循環 海水の特徴とその運動〔海洋の構造、海洋の表層循環、海洋の深層循環、 大気と海洋の相互作用〕 日本の天気と気象災害〔日本付近の天気の特徴、季節の特徴と気象災害〕	10/18（日） 10/22（木）
1	レポート1～3の復習	11/5（木） 11/8（日）
1	3編 私たちの宇宙の誕生 宇宙の構造と進化〔宇宙を探る、宇宙の誕生と進化、天の川銀河、太陽の誕生、 太陽の特徴〕 太陽系の誕生〔太陽系の全体像、太陽系の誕生、太陽系の構成、地球の特徴〕	11/26（木） 11/29（日）
1	4編 私たちの地球の歴史 地層と化石の観察〔地層の形成、地層からわかる情報〕 古生物の変遷と地球環境〔地球史の最初期、先カンブリア時代、古生代、中生代、 新生代、人類の進化、地球環境の変化による生物の変遷〕	12/6（日） 12/10（木）
1	5編 地球に生きる私たち 日本の自然の恵みと防災〔日本の自然環境の特徴、日本の自然の恵み、 自然科学の観点からの防災〕 地球環境と私たちの生活〔地球環境の考え方、人間活動による自然環境の変化〕 これからの地球環境〔世界の取り組み〕	12/17（木） 12/20（日）
1	レポート4～6の復習	1/7（木） 1/10（日）
試験		
回数	試験範囲	実施日
1	レポート1～3	11/15以降

2	レポート4～6	1/21～2/1
学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準		
<p>【単位修得について】 (レポート1～3合格+出席4時間以上) →テスト1受験可能 (レポート4～6合格+出席合計8時間以上+テスト1合格) →テスト2受験可能 テスト2まで合格すると、2単位修得となります。</p> <p>【履修認定について】 (レポート1～6の合格+出席8時間以上) ができており、テスト合格できなかった場合、履修認定となります。後期以降テスト受験し合格すると単位修得が認められます。</p>		
観点別評価について		
評価の観点	評価の趣旨	評価方法
知識 技能	○自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ○観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	レポート テスト 50 点 50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	○自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現している。	レポート テスト 50 点 50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	○自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。	テスト 合格 A
その他		
<p>① スクーリングについて 教科書を使い、レポートの学習内容の要点を講義形式で解説する。</p> <p>② 学習への取り組み 教科書をじっくり読み、専門用語とその意味を理解すること。 R1～R6までのスクーリングのそれぞれに最低1回は出席すること。 レポートは事前にまとめ配付(R1～3、R4～6の2回に分けて)をするので、スクーリング前に取り組んでから出席することが望ましい。</p> <p>③ レポートの提出について レポートの空欄はすべて埋めて提出すること。空欄がある場合は再提出とする。 スクーリングに出席してもわからないときは、教科担任まで質問に来てください。 わからない箇所が多いときは、個人学習を申し込んでください。</p> <p>④ テスト受験に向けて 返却されたレポートは、テスト受験まで必ず間違い直しをすること。 復習をしてからテスト受験に臨むこと。 テストの出題範囲はレポートで扱った内容のみとなりますが、その出題形式はレポートと同じとは限りません。解答の丸暗記ではなく、内容の理解に努めること。</p>		

教科	科目	単位数	履修上の留意点	
理科	地学	4	選択科目 地学基礎を履修後に受講できる	
指導目標	地学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。			
教科書		副教材	添削指導	面接指導
高等学校 地学〔啓林館〕		なし	12 回	16 単位時間
NHK放送視聴による減免の有無		<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体		視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> インターネット		なし		
添削課題（レポート）				
回数	学習内容			提出目標日
1	第1部 固体地球の概観と活動 地球の概観 〔重力で探る地球の内部、地震波で探る地球の内部、熱で探る地球の内部、地磁気で探る地球の内部〕			5/7
2	第1部 固体地球の概観と活動 プレートテクトニクス 〔地球表面を覆うプレート、プレートテクトニクスの成立、プレートテクトニクスとマントルの動き〕			5/21
3	第1部 固体地球の概観と活動 地球の活動〔地震、地殻変動、火山と火成活動、造山帯と変成作用〕			5/31
4	第2部 地球の歴史 地表の変化と地層 〔地層の変化と堆積物、地層の連続とその分布、地質年代の組み立て〕			7/2
5	第2部 地球の歴史 地球・生命・環境の歴史〔地殻の進化、生命の進化、長期の気候変動〕			7/12
6	第2部 地球の歴史 私たちの日本列島〔日本列島、日本列島の歴史〕			7/23
7	第3部 太陽と海洋 大気の大循環〔大気圏、雨と雲、地球のエネルギー収支〕			10/11
8	第3部 太陽と海洋 大気の運動〔風、大気の大循環と世界の気象、偏西風帯に位置する日本の四季〕			10/18
9	第3部 太陽と海洋 海洋と海水の運動〔海洋、海水の運動〕 気候変動と地球環境〔気候変動、物質の循環、人間活動と地球環境〕			11/1

10	第4部 宇宙の構造 太陽系の天体〔地球の運動、惑星の運動、太陽系の天体、太陽〕	12/6
11	第4部 宇宙の構造 恒星の性質と進化〔恒星の光、恒星の性質とHR図、恒星の誕生と進化〕	12/17
12	第4部 宇宙の構造 銀河系と宇宙〔銀河系、銀河と宇宙、膨張する宇宙〕	1/7
面接指導（スクーリング）		
単位時間	学習内容	実施日
1	第1部 固体地球の概観と活動 地球の概観 〔重力で探る地球の内部、地震波で探る地球の内部、熱で探る地球の内部、地磁気で探る地球の内部〕	4/26（日） 4/30（木）
1	第1部 固体地球の概観と活動 プレートテクトニクス 〔地球表面を覆うプレート、プレートテクトニクスの成立、プレートテクトニクスとマントルの動き〕	5/7（木） 5/17（日）
1	第1部 固体地球の概観と活動 地球の活動〔地震、地殻変動、火山と火成活動、造山帯と変成作用〕	5/21（木） 5/24（日）
1	レポート1～3の復習	5/31（日） 6/4（木）
1	第2部 地球の歴史 地表の変化と地層 〔地層の変化と堆積物、地層の連続とその分布、地質年代の組み立て〕	6/25（木） 6/28（日）
1	第2部 地球の歴史 地球・生命・環境の歴史〔地殻の進化、生命の進化、長期の気候変動〕	7/2（木） 7/5（日）
1	第2部 地球の歴史 私たちの日本列島〔日本列島、日本列島の歴史〕	7/12（日） 7/16（木）
1	レポート4～6の復習	7/23（木） 7/26（日）
1	第3部 太陽と海洋 大気の構造〔大気圏、雨と雲、地球のエネルギー収支〕	10/1（木） 10/4（日）
1	第3部 太陽と海洋 大気の運動〔風、大気の大循環と世界の気象、偏西風帯に位置する日本の四季〕	10/11（日） 10/15（木）
1	第3部 太陽と海洋 海洋と海水の運動〔海洋、海水の運動〕 気候変動と地球環境〔気候変動、物質の循環、人間活動と地球環境〕	10/18（日） 10/22（木）
1	レポート7～9の復習	11/5（木） 11/8（日）
1	第4部 宇宙の構造 太陽系の天体〔地球の運動、惑星の運動、太陽系の天体、太陽〕	11/26（木） 11/29（日）

1	第4部 宇宙の構造 恒星の性質と進化〔恒星の光、恒星の性質とHR図、恒星の誕生と進化〕	12/6（日） 12/10（木）
1	第4部 宇宙の構造 銀河系と宇宙〔銀河系、銀河と宇宙、膨張する宇宙〕	12/17（木） 12/20（日）
1	レポート10～12の復習	1/7（木） 1/10（日）

試験

回数	試験範囲	実施日
1	レポート1～3	6/11以降
2	レポート4～6	8/23以降
	レポート7～9	11/15以降
	レポート10～12	1/21～2/1

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

【単位修得について】

（レポート1～3合格＋出席4時間以上）→テスト1受験可能

（レポート4～6合格＋出席合計8時間以上＋テスト1合格）→テスト2受験可能

（レポート7～9合格＋出席合計12時間以上＋テスト2合格）→テスト3受験可能

（レポート10～12合格＋出席合計16時間以上＋テスト3合格）→テスト4受験可能

テスト4まで合格すると、4単位修得となります。

【分割修得について】

テスト4まで合格せず、テスト2までは合格している場合、2単位の分割修得となります。

次年度以降受講登録すると、後半2単位分の学習をすることができます。

【履修認定について】

（レポート1～12の合格＋出席16時間以上）ができており、テスト合格できなかった場合、履修認定となります。次年度以降テスト受験し合格すると単位修得が認められます。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	○自然の事物・現象に対する概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。 ○観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	レポート テスト	50 点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	○自然の事物・現象の中に見通しをもって課題や仮説を設定し、観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、根拠を基に導き出した考えを表現している。	レポート テスト	50 点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	○自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能や思考力・判断力・表現力を日常生活や社会に生かそうとしている。	テスト	合格	A

その他

① スクーリングについて

教科書を使い、レポートの学習内容の要点を講義形式で解説する。

レポートすべてについて解説する時間はないため、問題を抜粋して解説します。事前にレポートに取り組んでからスクーリングに臨むようにしましょう。

② 学習への取り組み

教科書をじっくり読み、専門用語とその意味を理解すること。

R1～R12 までのスクーリングのそれぞれに最低 1 回は出席すること。

レポートは事前にまとめ配付（R1～3、R4～6、R7～9、R10～12 の 4 回に分けて）をするので、スクーリング前に取り組んでから出席することが望ましい。

③ レポートの提出について

レポートの空欄はすべて埋めて提出すること。空欄がある場合は再提出とする。

スクーリングに出席してもわからないときは、教科担任まで質問に来てください。

わからない箇所が多いときは、個人学習を申し込んでください。

④ テスト受験に向けて

返却されたレポートは、テスト受験まで必ず間違い直しをすること。

復習をしてからテスト受験に臨むこと。

テストの出題範囲はレポートで扱った内容のみとなりますが、その出題形式はレポートと同じとは限りません。解答の丸暗記ではなく、内容の理解に努めること。

教科	科目	単位数	履修上の留意点
保健体育	体育1	3	必履修科目 順序指定あり
指導目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
現代高等保健体育（大修館）	アクティブスポーツ「総合版」	3回	15単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 実施している <input type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット	高校講座 体育実技	1月7日	
添削課題（レポート）			
回数	学習内容	提出目標日	
1	スポーツの始まりと変遷 ・世界の民族スポーツについて調べてみよう 文化としてのスポーツ ・日本生まれのスポーツ・競技スポーツにおける競争の意味 陸上競技	5/31	
2	オリンピックとパラリンピックの意義・オリンピックの課題・パラリンピックの課題 スポーツが経済に及ぼす効果 サッカー	7/26	
3	スポーツの高潔さとドーピング・スポーツの価値について考えてみよう・なぜドーピングはゆるされないのか スポーツと環境・スポーツとまちづくり バドミントン 器械体操	12/20	
面接指導（スクーリング）			
単位時間	学習内容	実施日	
1	オリエンテーション：授業内容、参加の仕方、レポート等の説明	4/26	
		4/30	
2	体づくり運動：手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化すること や心身の状態に気付き、仲間と主体的に関わり合うこと	5/7	
		5/17	
2	ソフトボール：状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をする	5/31	
		6/4	
2	卓球：状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動き によって空間を作り出すなどの攻防をする	6/11	
		6/14	
2	バドミントン：状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動き によって空間を作り出すなどの攻防をする	7/2	
		7/5	
2	ダンス：運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともにイメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をする	7/23	
		7/26	

2	体づくり運動：手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化すること や心身の状態に気付き、仲間と主体的に関わり合うこと	10/1
		10/4
2	新体力テスト：運動習慣と基本的な生活習慣 などの改善を促進することを通して体力・運動能力 の向上を図る	10/18
		10/22
2	バスケットボール：状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすること バレーボール：状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をする	11/5
2		11/8
		11/15
2		11/19
		12/17
2		12/20

試験

回数	試験範囲	実施日
1	レポート 1～2	8/23 以降
2	レポート 3	1/21～2/1

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

スクーリングに 10 時間以上出席し、レポート 1～2 が合格することでテスト 1 を受験できます。テスト 1 合格したうえで、スクーリングに 5 時間（全出席時数 15 時間）出席し、レポート 3 が合格することでテスト 2 を受験することができます。テスト 2 が合格となれば 3 単位の修得となります。スクーリングに 15 時間以上出席し、レポート 1～3 が合格となり、テスト 1～2 が合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。次年度以降テスト受験をして合格することで単位が認められます。テスト 1 のみの合格の場合は、2 単位（分割）の修得と、1 単位分の履修認定となります。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性 や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	レポート テスト	50 点	50～26 点：A 25～1 点：B 0 点：C
思考 判断 表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な 解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える 力を養う。	レポート テスト	50 点	50～26 点：A 25～1 点：B 0 点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。	テスト	合格	A

その他

① スクーリングについて

実技となります。運動できる服装（受講時の服装について参照）で出席し、指導者の説明や注意事項をしっかり聞き、実践してください。

② レポートについて

レポートは最初のスクーリングにてレポート1～3全てを配布します。最初のスクーリングに出席できなかった人は、職員室に来て受け取ってください。レポートは、教科書（現代保健体育）副読本（アクティブスポーツ）を熟読することでレポートを完成させることができます。空欄、間違いが多い場合再提出となります。

③ テストについて

レポート1～2が1回目のテスト範囲、レポート3が2回目のテスト範囲となります。出題はレポートで学習した内容のみとなります。不合格を恐れず受験してください。

教科	科目	単位数	履修上の留意点
保健体育	体育2	2	必履修科目 順序指定あり
指導目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習 過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
現代高等保健体育（大修館）	アクティブスポーツ「総合版」	2回	10 単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 実施している <input type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット	高校講座 体育実技	1月7日	
添削課題（レポート）			
回数	学習内容	提出目標日	
1	スポーツにおける技術と体力 スポーツにおける技術と戦術 ・スポーツのルールはなぜ変わるのか考えてみよう・スポーツとメディアの関係性 技能の上達過程と練習 ・球技における戦術の特徴を比較してみよう・ゲームにおける戦術的判断	9/1	
2	効果的な動きのメカニズム ・運動・スポーツと脳・動きと力 体力トレーニング 運動やスポーツでの安全確保 ・スポーツによるさまざまなリスクを考えてみよう	12/20	
面接指導（スクーリング）			
単位時間	学習内容	実施日	
1	オリエンテーション：授業内容、参加の仕方、レポート等の説明	4/26	
		4/30	
2	体づくり運動：手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化すること や心身の状態に気付き、仲間と主体的に関わり合うこと	5/7	
		5/17	
2	ソフトボール：状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をする	5/31	
		6/4	
2	卓球：状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動き によって空間を作り出すなどの攻防をする	6/11	
		6/14	
2	バドミントン：状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動き によって空間を作り出すなどの攻防をする	7/2	
		7/5	
2	ダンス：運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともにイメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をする	7/23	
		7/26	

2	体づくり運動：手軽な運動を行い，心と体は互いに影響し変化すること や心身の状態に気づき，仲間と主体的に関わり合うこと	10/1
		10/4
2	新体力テスト：運動習慣と基本的な生活習慣 などの改善を促進することを通して体力・運動能力 の向上を図る	10/18
		10/22
2	バスケットボール：状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすること バレーボール：状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をする	11/5
		11/8
2		11/15
		11/19
2		12/17
		12/20
試験		
回数	試験範囲	実施日
1	レポート1～2	1/7～2/1
学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準		
スクーリングに10時間以上出席し、レポート1～2が合格することでテスト1を受験できます。テスト1が合格となれば2単位の修得となります。 スクーリングに10時間以上出席し、レポート1～2が合格となり、テスト1が合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。次年度以降テスト受験をして合格することで単位が認められます。単位の分割修得は認めません。		
観点別評価について		
評価の観点	評価の趣旨	評価方法
知識 技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようになるため、運動の多様性 や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	レポート テスト 50 点 50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な 解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える 力を養う。	レポート テスト 50 点 50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。	テスト 合格 A
その他		
① スクーリングについて 実技となります。運動できる服装（受講時の服装について参照）で出席し、指導者の説明や注意事項をしっかり聞き、実践してください。		

② レポートについて

レポートは最初のスクーリングにてレポート1～2全てを配布します。最初のスクーリングに出席できなかった人は、職員室に来て受け取ってください。レポートは、教科書（現代保健体育）副読本（アクティブスポーツ）を熟読することでレポートを完成させることができます。空欄、間違いが多い場合再提出となります。

③ テストについて

レポート1～2が1回目のテスト範囲となります。出題はレポートで学習した内容のみとなります。不合格を恐れず受験してください。

教科	科目	単位数	履修上の留意点
保健体育	体育3	2	必履修科目 順序指定あり
指導目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
現代高等保健体育（大修館）	アクティブスポーツ「総合版」	2回	10単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 実施している <input type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット	高校講座 体育実技	1月7日	
添削課題（レポート）			
回数	学習内容	提出目標日	
1	生涯スポーツの見方・考え方 ・スポーツ科学のすすめ・スポーツにかかわる職業ライフスタイルに応じたスポーツ・身のまわりの人のスポーツライフを調べてみよう ・自分でスポーツライフを設計してみよう	9/1	
2	スポーツを推進する取り組み・諸外国のスポーツを推進する取り組みを調べてみよう 豊かなスポーツライフの創造	12/20	
面接指導（スクーリング）			
単位時間	学習内容	実施日	
1	オリエンテーション：授業内容、参加の仕方、レポート等の説明	4/26	
		4/30	
2	体づくり運動：手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化すること や心身の状態に気付き、仲間と主体的に関わり合うこと	5/7	
		5/17	
2	ソフトボール：状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をする	5/31	
		6/4	
2	卓球：状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動き によって空間を作り出すなどの攻防をする	6/11	
		6/14	
2	バドミントン：状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動き によって空間を作り出すなどの攻防をする	7/2	
		7/5	
2	ダンス：運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともにイメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をする	7/23	
		7/26	
2	体づくり運動：手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化すること や心身の状態に気付き、仲間と主体的に関わり合うこと	10/1	
		10/4	

2	新体力テスト：運動習慣と基本的な生活習慣などの改善を促進することを通して体力・運動能力の向上を図る	10/18		
		10/22		
2	バスケットボール：状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防をすること バレーボール：状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をする	11/5		
		11/8		
2		11/15		
		11/19		
2		12/17		
		12/20		
試験				
回数	試験範囲	実施日		
1	レポート1～2	1/21～2/1		
学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準				
スクーリングに10時間以上出席し、レポート1～2が合格することでテスト1を受験できます。テスト1が合格となれば2単位の修得となります。 スクーリングに10時間以上出席し、レポート1～2が合格となり、テスト1が合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。次年度以降テスト受験をして合格することで単位が認められます。単位の分割修得は認めません。				
観点別評価について				
評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。	レポート テスト	50 点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	レポート テスト	50 点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。	テスト	合格	A
その他				
<p>① スクーリングについて 実技となります。運動できる服装（受講時の服装について参照）で出席し、指導者の説明や注意事項をしっかりと聞き、実践してください。</p> <p>② レポートについて レポートは最初のスクーリングにてレポート1～2全てを配布します。最初のスクーリングに出席できなかった人は、職員室に来て受け取ってください。レポートは、教科書（現代保健体育）副読本（アクティブスポ</p>				

ーツ) を熟読することでレポートを完成させることができます。空欄、間違いが多い場合再提出となります。

③ テストについて

レポート1～2が1回目のテスト範囲となります。出題はレポートで学習した内容のみとなります。不合格を恐れず受験してください。

教科	科目	単位数	履修上の留意点	
保健体育	保健 1	1	必履修科目 順序指定のある科目	
指導目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する			
教科書	副教材	添削指導	面接指導	
現代高等保健体育（大修館）	なし	3 回	1 単位時間	
NHK放送視聴による減免の有無		<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体		視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> インターネット				
添削課題（レポート）				
回数	学習内容			提出目標日
1	<p>現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。</p> <p>ア 現代社会と健康について理解を深めること。</p> <p>(7) 健康の考え方 国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わること。</p> <p>(4) 現代の感染症とその予防 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があること。</p> <p>(9) 生活習慣病などの予防と回復 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であること。</p>			5/17
2	<p>(2) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であること。</p> <p>(4) 精神疾患の予防と回復 精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であること。</p> <p>イ 現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。</p>			7/12
3	<p>安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 安全な社会生活について理解を深めるとともに、応急手当を適切にすること。</p> <p>(7) 安全な社会づくり 安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること。また、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じること。</p> <p>(4) 応急手当 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があること。心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うこと。</p> <p>イ 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。</p>			12/6
面接指導（スクーリング）				
単位時間	学習内容			実施日
1	<p>《 1 単元 現代社会と健康 》</p> <p>1 健康の考え方と成り立ち</p> <p>2 私たちの健康のすがた</p> <p>3 生活習慣病の予防と回復</p> <p>4 がんの原因と予防</p> <p>5 がんの治療と回復</p> <p>6 運動と健康</p> <p>7 食事と健康</p> <p>8 休養・睡眠と健康</p> <p>9 喫煙と健康</p>			4/26
				4/30
1	<p>1 0 飲酒と健康</p> <p>1 1 薬物乱用と健康</p> <p>1 2 精神疾患の特徴</p>			7/2

	1 3 精神疾患の予防 1 4 精神疾患からの回復 1 5 現代の感染症 1 6 感染症の予防 1 7 性感染症・エイズとその予防	7/5
1	1 8 健康に関する意思決定・行動選択 1 9 健康に関する環境づくり 《 2 単元 安全な社会生活 》 1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法	11/26
		11/29

試験

回数	試験範囲	実施日
1	レポート 1～3	1/7～2/1

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

スクーリングに1時間以上出席し、レポート1～3に合格することでテスト1を受験できます。テスト1が合格となれば1単位の修得となります。

スクーリングに1時間以上出席し、レポート1～3が合格となり、テスト1が合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。次年度以降テスト受験をして合格することで単位が認められます。単位の分割修得は認めません。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする	レポート テスト	50 点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う	レポート テスト	50 点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う	テスト	合 格	A

その他

- ① スクーリングについて
 自学自習の支援のための要領解説を講義しながら、身近な生活に関連する理解を深める重要ポイントを説明します。レポートの問題はスクーリングで丁寧に解説するので、なるべく多くのスクーリングに出席することをお勧めします。
- ② レポートについて

レポートは最初のスクーリングにてレポート1～3全てを配布します。最初のスクーリングに出席できなかった人は、職員室に来て受け取ってください。レポートは、教科書（現代保健体育）を熟読することでレポートを完成させることができます。空欄、間違いが多い場合再提出となります。

③ テストについて

レポート1～3で1回目のテスト範囲となります。出題はレポートで学習した内容のみとなります。不合格を恐れず受験してください。

教科	科目	単位数	履修上の留意点	
保健体育	保健 2	1	必履修科目 順序指定のある科目	
指導目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する			
教科書	副教材	添削指導	面接指導	
現代高等保健体育（大修館）	なし	3 回	1 単位時間	
NHK放送視聴による減免の有無		<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体		視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> インターネット				
添削課題（レポート）				
回数	学習内容			提出目標日
1	<p>生涯を通じる健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。</p> <p>ア 生涯を通じる健康について理解を深めること。</p> <p>(ア) 生涯の各段階における健康生涯を通じる健康の保持増進や回復には、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わっていること。</p> <p>(イ) 労働と健康労働災害の防止には、労働環境の変化に起因する傷害や職業病などを踏まえた適切な健康管理及び安全管理をすることが必要であること。</p> <p>イ 生涯を通じる健康に関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現すること。</p>			5/24
2	<p>健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。</p> <p>ア 健康を支える環境づくりについて理解を深めること。</p> <p>(ア) 環境と健康 人間の生活や産業活動は、自然環境を汚染し健康に影響を及ぼすことがあること。それらを防ぐには、汚染の防止及び改善の対策をとる必要があること。また、環境衛生活動は、学校や地域の環境を健康に適したものとすよう基準が設定され、それに基づき行われていること。</p> <p>(イ) 食品と健康 食品の安全性を確保することは健康を保持増進する上で重要であること。また、食品衛生活動は、食品の安全性を確保するよう基準が設定され、それに基づき行われていること。</p> <p>(ロ) 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関生涯を通じて健康を保持増進するには、保健・医療制度や地域の保健所、保健センター、医療機関などを適切に活用することが必要であること。また、医薬品は、有効性及安全性が審査されており、販売には制限があること。疾病からの回復や悪化の防止には、医薬品を正しく使用することが有効であること。</p> <p>(ハ) 様々な保健活動や社会的対策 我が国や世界では、健康課題に対応して様々な保健活動や社会的対策などが行われていること。</p> <p>(ニ) 健康に関する環境づくりと社会参加自他の健康を保持増進するには、ヘルスポモーションの考え方を生かした健康に関する環境づくりが重要であり、それに積極的に参加していくことが必要であること。また、それらを実現するには、適切な健康情報の活用が有効であること。</p> <p>イ 健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現する。</p>			8/4
3	<p>健康を支える環境づくりに関する情報から課題を発見し、健康に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現する。</p>			1/12
面接指導（スクーリング）				
単位時間	学習内容			実施日
1	《 3 単元 生涯を通じる健康 》			5/7
	1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶 6 結婚生活と健康 7 中高年期と健康			
				5/17

1	8 働くことと健康 9 労働災害と健康 10 健康的な職業生活 《 4 単元 健康を支える環境づくり 》 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁・土壌汚染と健康 3 環境と健康にかかわる対策 4 ごみの処理と上下水道の整備	7/23
		7/26
1	5 食品の安全性 6 食品衛生にかかわる活動 7 保健サービスとその活用 8 医療サービスとその活用 9 医薬品の制度とその活用 10 さまざまな保健活動や社会的対策 11 健康に関する環境づくりと社会参加	1/7
		1/10

試験

回数	試験範囲	実施日
1	レポート 1～3	1/21～2/1

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

スクーリングに1時間以上出席し、レポート1～3に合格することでテスト1を受験できます。
テスト1が合格となれば1単位の修得となります。
スクーリングに1時間以上出席し、レポート1～3が合格となり、テスト1が合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。次年度以降テスト受験をして合格することで単位が認められます。
単位の分割修得は認めません。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
		レポート	テスト	評価
知識 技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする	レポート	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う	レポート	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う	テスト	合格	A

その他

① スクーリングについて
自学自習の支援のための要領解説を講義しながら、身近な生活に関連する理解を深める重要ポイントを説明します。レポートの問題はスクーリングで丁寧に解説するので、なるべく多くのスクーリングに出席することをお勧めします。

② レポートについて

レポートは最初のスクーリングにてレポート1～3全てを配布します。最初のスクーリングに出席できなかった人は、職員室に来て受け取ってください。レポートは、教科書（現代保健体育）を熟読することでレポートを完成させることができます。空欄、間違いが多い場合再提出となります。

③ テストについて

レポート1～3で1回目のテスト範囲となります。出題はレポートで学習した内容のみとなります。不合格を恐れず受験してください。

教科	科目	単位数	履修上の留意点
芸術	書道 I	2	選択必修科目
指導目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
書道 I (東京書籍)	NHK出版「書道 I」	1 2回	8 単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 実施している	<input type="checkbox"/> 実施していない	
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット	高校講座 芸術 書道 I	1 月 7 日	
添削課題 (レポート)			
回数	学習内容	提出目標日	
1-①	【書写から書道へ】 ・書写で学んできたこと ・書道で学ぶこと ・用具・用材 ・姿勢・執筆法	6 / 1 1	
1-②	【漢字の書〔楷書〕】 ・漢字の成立と変遷 ・拓本 ・楷書の特徴 ・表現を比べよう ・「九成宮醴泉銘」 ○実技作品課題「九成宮醴泉銘 (清泉)」	6 / 2 5	
2-①	【漢字の書〔楷書〕】 ・「孔子廟堂碑」 ・「自書告身」	7 / 9	
2-②	○実技作品課題「孔子廟堂碑 (大唐運膺)」	7 / 2 3	
3-①	【漢字の書〔楷書〕】 ・「雁塔聖教序」 ・「牛橛造像記」 ・「鄭羲下碑」	8 / 6	
3-②	○実技作品課題「雁塔聖教序 (詎能方其)」	9 / 1	
4-①	【漢字の書〔行書〕】 ・行書の特徴 ・「蘭亭序 (神龍半印本)」 ・「風信帖」	1 0 / 2 2	
4-②	○実技作品課題「蘭亭序 (永和九年)」	1 1 / 5	
5-①	【仮名の書】 ・仮名の成立 ・仮名を書く準備 ・平仮名の単体 ・変体仮名 ・連綿 ・「蓬萊切」 ・「高野切第三種」	1 1 / 1 9	
5-②	○実技作品課題「平仮名の単体」	1 2 / 3	
6-①	【漢字仮名交じりの書】 ・創作の手順に従い、表現の工夫で学んだ技法を生かして、意図に基づいて創作する。	1 / 7	
6-②	○実技作品課題「創作の手順に従い、自分で選んだ言葉や詩文で創作」	1 / 2 5	
面接指導 (スクーリング)			
単位時間	学習内容	実施日	
2	漢字の書 楷書「九成宮醴泉銘 (清泉)」	4/26 (日) 4/30 (木)	
2	漢字の書 楷書「九成宮醴泉銘 (清泉)」	5/21 (木) 5/24 (日)	

2	漢字の書 楷書「孔子廟堂碑（大唐運膺）」	6/25（木） 6/28（日）
2	漢字の書 楷書「雁塔聖教序（詎能方其）」	7/23（木） 7/26（日）
2	漢字の書 行書「蘭亭序（永和九年）」	10/11（日） 10/15（木）
2	仮名の書 「平仮名の単体」	11/5（木） 11/8（日）
2	漢字仮名交じりの書 創作「自分で選んだ言葉や詩文で創作」	11/26（木） 11/29（日）
2	漢字仮名交じりの書 創作「自分で選んだ言葉や詩文で創作」	12/17（木） 12/20（日）

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

- ・書道 I では書の基礎的知識と技法の定着を目標として学習していきます。教科書・学習書をしっかりと読んで理論問題の学習を進め、理解を深めた上で実技作品課題に取り組んでください。
- ・作品は自分で納得いくまでよく練習し、1枚のみ提出します。書は日々持続してこそ成果があらわれます。提出のために一時的に急いで取り組むのではなく、計画的に継続して取り組みましょう。また、書体や古典の特徴を理解し、手本をよく観察して臨書・創作に取り組んでください。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法（運筆・用筆）や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表現している。 ・様々な古典の特徴を理解している。 	理論レポート 清書レポート	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	<ul style="list-style-type: none"> ・書の良さや美しさを感じ、意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 ・作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えている。 ・古典の特徴を活かし、工夫して表現している。 	理論レポート 清書レポート	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り組む 態度	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。 ・知識・技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに粘り強く取り組んでいる。 	理論レポート 清書レポート	合格	A

その他

※書道 I は他教科とレポートの形式や提出方法が異なることから注意してください。

- ・レポートの提出の仕方について

【理論レポート】

各回「理論問題（A 3判）」と「実技作品（清書 1 回目）」の 2 つによりなります。

【清書レポート】

書道 I ではテストを実施しません。その代替として清書レポートがあります。各回「実技作品(清書 2 回目)」と「感想用紙 (A 4 判)」の 2 つによりなります。

各回理論レポートが合格したことを確認できてから、清書レポートを提出できます。同一 No. の理論レポートと清書レポートは同時に提出できませんので注意してください。

教科	科目	単位数	履修上の留意点
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	必修科目
指導目標	幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、自分の考えや伝えたい情報などを英語で話したり書いたりすることにより、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけることを目指す。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
All Aboard! English Communication I Revised (東京書籍)	All Aboard! English Communication I Revised 学習書 (NHK 出版)	9 回	1 2 単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 実施している	<input type="checkbox"/> 実施していない	
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット	高校講座 英語コミュニケーションⅠ	1月7日	
添削課題 (レポート)			
回数	学習内容	提出目標日	
1	Lesson 1 Breakfast around the World / Lesson 2 Australia' s Cute Quokkas	5/20	
2	Lesson 3 Life with Spade	6/10	
3	Lesson 4 A Miracle Mirror	6/24	
4	Lesson 5 A Dream Engine	7/22	
5	Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period	9/30	
6	Lesson 7 A Diary of Hope	10/10	
7	Lesson 8 A Door to a New Life	11/25	
8	Lesson 9 Ghosts in the Oceans	12/5	
9	Lesson 10 Pigs from across the Sea	1/ 6	
面接指導 (スクーリング)			
単位時間	学習内容	実施日	
1	・世界の食事に目を向け、自分の好きな食べ物について英語で伝える。 ・過去形 ・野生動物との共存について考える。 ・進行形	4/26(日) 4/30(木)	
1	・自分が熱中することや大切にしているものについて考える。 ・助動詞	5/21(木) 5/24(日)	
1	・世界の絶景について、その素晴らしさを理解する。 ・to 不定詞	6/11(木) 6/14(日)	
1	・R1~R3 の範囲を振り返り、ポイントを理解する。	6/25(木) 6/28(日)	

1	<ul style="list-style-type: none"> 環境保護のために高校生ができることについて考える。 動名詞 	7/12(日) 7/16(木)
1	<ul style="list-style-type: none"> 浮世絵などの伝統的な作品について理解する。 受け身 	7/23(木) 7/26(日)
1	<ul style="list-style-type: none"> アンネ・フランクの人生を知り、戦争について考える。 比較表現 	10/1(木) 10/4(日)
1	<ul style="list-style-type: none"> R4~R6 の範囲を振り返り、ポイントを理解する。 	10/11(日) 10/15(木)
1	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者の社会参画とロボットの活用について考える。 現在完了形 	11/5(木) 11/8(日)
1	<ul style="list-style-type: none"> プラスチック汚染と環境問題について考える。 名詞を後ろから修飾する分詞 	11/26(木) 11/29(日)
1	<ul style="list-style-type: none"> 平和と共生の大切さについて理解する。 関係代名詞 	12/6(日) 12/10(木)
1	<ul style="list-style-type: none"> R7~R9 の範囲を振り返り、ポイントを理解する。 	1/7(木) 1/10(日)

試験

回数	試験範囲	実施日
1	レポート 1～3	7/2 以降
2	レポート 4～6	10/18 以降
3	レポート 7～9	1/21 以降

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

単位修得について、レポート1～3に合格し、スクーリングに 4 時間以上出席すると、テスト1を受験できます。テスト1に合格し、レポート4～6に合格し、スクーリングに 8 時間以上出席すると、テスト2を受験できます。テスト2に合格し、レポート7～9に合格し、スクーリングに12 時間以上出席すると、テスト3を受験できます。すべてのレポートが合格、出席が12回以上で、テスト3に合格できなかった場合は、履修認定となり、次年度以降にテスト1～3を受験をしてすべて合格すれば、単位修得が認められます。 単位の分割修得は認めません。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	<ul style="list-style-type: none"> テーマの内容や英語表現について正しく理解している。 発音や英語表現について正しく用いることができる。 	レポート テスト	50 点	50～26 点 : A 25～1 点 : B 0 点 : C
思考 判断 表現	<ul style="list-style-type: none"> テーマについて内容を理解し、自分のこととして考えを持つことができる。 学習した英語を活かして表現することができる。 	レポート テスト	50 点	50～26 点 : A 25～1 点 : B 0 点 : C
主体的に 学習に取り 組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 自分の英語を高めるために音読や意味調べなどを行う。 様々な表現を取り入れながら、自分について表現することができる。 	テスト	合格	A

その他

・英語コミュニケーションⅠは全ての生徒が必修となる。

(旧教育課程で学習している生徒でコミュニケーション英語Ⅰを履修していない生徒も含む。)

教科	科目	単位数	履修上の留意点
外国語	英語コミュニケーションⅡ	4	履修学年・順序指定のある科目
指導目標	幅広い話題について、聞いたことや読んだことを理解し、自分の考えや伝えたい情報などを英語で話したり書いたりすることにより、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけることを目指す。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
All Aboard! English Communication II (東京書籍)	All Aboard! English Communication II 学習書 (NHK 出版)	1 2 回	1 6 単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 実施している	<input type="checkbox"/> 実施していない	
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input type="checkbox"/> テレビ <input checked="" type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット	高校講座 英語コミュニケーションⅡ	1 月 7 日	
添削課題 (レポート)			
回数	学習内容	提出目標日	
1	Lesson 1 A Colorful Island	5/6	
2	Lesson 2 With the Beatles	5/20	
3	Lesson 3 Wild Men	5/30	
4	Lesson 4 Little Hero	7/1	
5	Lesson 5 Special Makeup in Kabuki	7/11	
6	Reading 1 <i>Mujina</i>	7/22	
7	Lesson 6 Seeds for Future Generations	10/10	
8	Lesson 7 Over the Wall	10/17	
9	Lesson 8 Inspiration from Nature	11/4	
1 0	Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate	12/5	
1 1	Lesson 10 Fighting Angel	12/16	
1 2	Reading 2 Bear' s Pie	1/6	
面接指導 (スクーリング)			
単位時間	学習内容	実施日	
1	・海外の名所について知り、人々を引き付ける素晴らしさを理解する。 ・関係代名詞の what	4/26(日) 4/30(木)	
1	・ビートルズの人気について知るとともに、家族の愛情や思い出について考える。 ・比較表現	5/ 7(木) 5/17(日)	
1	・海外の祭りについて知り、人間と自然界との共存について考える。 ・it の用法	5/21(木) 5/24(日)	

1	・R1~R3 の範囲を振り返り、ポイントを理解する。	5/31(日) 6/ 4(木)
1	・ハチドリの物語を知り、諦めない心について考える。 ・間接疑問文	6/25(木) 6/28(日)
1	・歌舞伎の起源と現在の試みを知り、日本の伝統文化について考える。 ・to 不定詞を含む表現	7/ 2(木) 7/ 5(日)
1	・日本の怪談を英語で読み、物語の面白さを味わう。	7/12(日) 7/16(木)
1	・R4~R6 の範囲を振り返り、ポイントを理解する。	7/23(木) 7/26(日)
1	・伝統野菜や特産物について知るとともに、高校生の伝統継承活動について考える。 ・動詞の目的語になる if 節	10/ 1(木) 10/ 4(日)
1	・ミヤザキケンスケさんの活動を通して、アートと人のつながりを考える。 ・関係副詞	10/11(日) 10/15(木)
1	・自然の英知を知るとともに、日常に技術革新の多くのヒントがあることを理解する。 ・知覚動詞	10/18(日) 10/22(木)
1	・R7~R9 の範囲を振り返り、ポイントを理解する。	11/ 5(木) 11/ 8(日)
1	・bean-to bar chocolate の取り組みを理解し、自分ができることを考える。 ・使役動詞	11/26(木) 11/29(日)
1	・ナイチンゲールの生き方を知り、人を助ける職業について考える。 ・分詞構文	12/ 6(日) 12/10(木)
1	・英語で物語を読み味わいながら、将来の夢のいろいろな実現の仕方があることを理解する。	12/17(木) 12/20(日)
1	・R10~R12 の範囲を振り返り、ポイントを理解する。	1/ 7(木) 1/10(日)

試験

回数	試験範囲	実施日
1	レポート 1 ~ 3	6/11 以降
2	レポート 4 ~ 6	8/23 以降
3	レポート 7 ~ 9	11/15 以降
4	レポート 10 ~ 12	1/21 以降

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

単位修得について、レポート 1 ~ 3 に合格し、スクーリングに 4 時間以上出席すると、テスト 1 を受験できます。テスト 1 に合格し、レポート 4 ~ 6 に合格し、スクーリングに 8 時間以上出席すると、テスト 2 を受験できます。テスト 2 に合格し、レポート 7 ~ 9 に合格し、スクーリングに 12 時間以上出席すると、テスト 3 を受験できます。テスト 3 に合格し、レポート 10 ~ 12 に合格し、スクーリングに 16 時間以上出席すると、テスト 4 を受験できます。レポート 1 ~ 6 に合格し、スクーリングに 8 時間以上出席し、テスト 2 まで合格すると 2 単位の分割修得が認められます。すべてのレポートが合格、出席が 16 回以上で、テスト 4 までの合格ができなかった場合は、履修認定となります。その場合、次年度以降にテスト 1 ~ 4 に受験をしてすべて合格すれば、4 単位修得が認められます。

観点別評価について				
評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマの内容や英語表現について正しく理解している。 ・発音や英語表現などを正しく用いることができる。 	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマについて内容を理解し、自分のこととして考えを持つことができる。 ・学習した英語を活かして英語で表現することができる。 	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の英語を高めるために音読や意味調べなどを行う。 ・様々な表現を取り入れながら、自分について表現することができる。 	テスト	合格	A
その他				
英語コミュニケーションⅡの受講は、英語コミュニケーションⅠ（コミュニケーション英語Ⅰ、英語Ⅰ）の履修後とする。				

教科	科目	単位数	履修上の留意点
外国語	論理・表現 I	2	履修学年・順序指定のある科目
指導目標	これまで学んできた英語の知識を整理し直し、英語を使うのに必要な論理展開の仕方や場面に応じた適切な表現の仕方などを身に付ける。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
NEW FAVORITE English Logic and Expression I Revised (東京書籍)	なし	6 回	8 単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 実施している	<input type="checkbox"/> 実施していない	
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input type="checkbox"/> テレビ <input checked="" type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット	高校講座 論理・表現 I	1 月 7 日	
添削課題 (レポート)			
回数	学習内容	提出目標日	
1	Unit 1 Lesson 1 初めての食事 Unit 1 Lesson 2 道に迷う Unit 1 Lesson 3 人物紹介	5 / 3 0	
2	Unit 1 Lesson 4 体調が悪い Unit 1 Lesson 5 買い物 Unit 1 Lesson 6 行ってみたい場所	6 / 2 4	
3	Unit 1 Lesson 7 イベントに誘われる Unit 1 Lesson 8 スクールカウンセラーに相談 Unit 1 Lesson 9 お気に入りを紹介	7 / 2 2	
4	Unit 1 Lesson 10 待ち合わせに遅刻 Unit 1 Lesson 11 家庭でのディスカッション Unit 1 Lesson 12 英字新聞に投稿	1 0 / 1 7	
5	Unit 2 Lesson 1 クラスでディベート① Unit 2 Lesson 2 クラスでディベート② Unit 2 Lesson 3 経験談のスピーチ Unit 2 Lesson 4 遊びやスポーツを紹介	1 1 / 1 4	
6	Unit 2 Lesson 5 日本を PR Unit 2 Lesson 6 物事の両面を伝える Unit 2 Lesson 7 読み手を納得させる Unit 2 Lesson 8 読み手を説得する	1 2 / 1 6	
面接指導 (スクーリング)			
単位時間	学習内容	実施日	

1	<ul style="list-style-type: none"> 褒める、進める、断る 提案する、依頼する、説明する 紹介する、注意を引く 	5/ 7(木) 5/17(日)
1	<ul style="list-style-type: none"> 体調を伝える、体調を訪ねる、指示・アドバイスをする 描写する、相槌を打つ 希望を述べる、理由を述べる 	5/31(日) 6/ 4(木)
1	<ul style="list-style-type: none"> 誘う、誘いを受ける、誘いを断る 状況を説明する、申し出る、助言・提案する、感謝する 要約し紹介する、感想や批評を述べる 	6/25(木) 6/28(日)
1	<ul style="list-style-type: none"> レポート1～3の範囲を振り返り、ポイントを理解する。 	7/23(木) 7/26(日)
1	<ul style="list-style-type: none"> 謝る、許す、励ます 共感を述べる、残念な気持ちを述べる、解決策を提案する 要望や主張を述べる、理由を述べる 	10/11(日) 10/15(木)
1	<ul style="list-style-type: none"> 理由を述べる、例を挙げる 反駁する、引用する 描写する、経験からアドバイスする 順序だてて説明する、聞き手の知識に合わせて説明する 	10/18(日) 10/22(木)
1	<ul style="list-style-type: none"> 事実と意見を区別して述べる、文化や習慣を説明する 利点と欠点を述べる、話題を発展させる、話題を変える 主張の理由を説明する、理由を要約する 引用する、条件を出して意見を述べる、説得する 	11/15(日) 11/19(木)
1	<ul style="list-style-type: none"> レポート4～6の範囲を振り返り、ポイントを理解する。 	12/17(木) 12/20(日)

試験

回数	試験範囲	実施日
1	レポート 1～ 3	8/23 以降
2	レポート 4～ 6	1/21 以降

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

単位修得について、レポート1～3に合格し、スクーリングに4時間以上出席すると、テスト1を受験できます。テスト1に合格し、レポート4～6に合格し、スクーリングに8時間以上出席すると、テスト2を受験できます。すべてのレポートが合格、出席が8回以上で、テスト2に合格できなかった場合は、履修認定となり、次年度以降にテスト1～2を受験をしてすべて合格すれば、単位修得が認められます。単位の分割修得は認めません。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
		レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
知識 技能	<ul style="list-style-type: none"> 学習した英語表現を正しく理解している。 場面に応じた英語の話し方や用法について正しく使用することができる。 	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを活かして自分の考えを表現することができる。 	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B

表現	・相手が理解しやすいように筋道を立ててまとまりのある文章で表現することができる。			0点 : C
主体的に 学習に取り 組む態度	・自分の伝えたい内容について、学習した表現や方法を活かし柄、諦めずに表現しようとする。	テスト	合格	A
その他				
論理・表現 I の受講は英語コミュニケーション I (コミュニケーション英語 I) (英語 I) の履修後が望ましい。				

教科	科目	単位数	履修上の留意点
家庭	家庭総合	4	必履修科目
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 ・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。 		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
家庭総合 自立・共生・創造	スーパーライブビュー家庭科	12回	12単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 実施している		<input type="checkbox"/> 実施していない
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット	高校講座 家庭総合	1/7	
添削課題（レポート）			
回数	学習内容	提出目標日	
1	オリエンテーション、第1章 生涯を見通す、第2章 人生をつくる	5/21	
2	第4章 超高齢社会を共に生きる、第5章 共に生き、共に支える	6/11	
3	第7章 衣生活をつくる 1被服の役割を考える、2被服を入手する	6/25	
4	第7章 衣生活をつくる 3被服を管理する、4被服を作る、5衣生活の文化と知恵、6これからの衣生活	7/2	
5	第9章 経済生活を営む 1情報の収集・比較と意思決定、2購入・支払いのルールと方法、3消費者の権利と責任	7/12	
6	第9章 経済生活を営む 4生涯の経済生活を見通す、5家計をマネジメントする、6これからの経済生活、第10章 持続可能な生活を営む 第11章 これからの生活を創造する	8/23	
7	第6章 食生活をつくる 1食生活の課題について考える、2食事と栄養・食品	11/1	
8	第6章 食生活をつくる 3食品の選択と安全、4生涯の健康を見通した食事計画	11/5	
9	第6章 食生活をつくる 5調理の基礎、6食生活の文化と知恵、7これからの食生活	11/26	
10	第3章 子どもと共に育つ 1命を育む、2子どもの育つ力を知る、3子どもと関わる①	12/17	
11	第3章 子どもと共に育つ 3子どもと関わる②、4子どもとの触れ合いから学ぶ、5これからの保育環境	1/7	
12	第8章 住生活をつくる	1/21	
面接指導（スクーリング）			

単位時間	学習内容	実施日
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージの特徴と課題を理解するとともに、意思決定を行う重要性を理解し、人生の目標を描く。 ・よりよい家庭生活を実現するために、社会制度としての家族や家族と法律を理解する。 	4/26 (日) 4/30 (木)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・超高齢社会の背景や課題を理解し、高齢期を支える社会の仕組みや課題、適切な支援の方法等を考える。 ・家族と家庭生活を支える福祉について理解する。 	5/21 (木) 5/24 (日)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・被服の機能や特徴、被服の役割について理解する。 ・被服の材料や性能、加工について理解し、目的に応じた被服入手と着装について考えられる力を身に付ける。 	5/31 (日) 6/4 (木)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・被服の洗濯や保管方法を科学的に理解する。 ・日本の衣生活の変遷や衣文化について理解する。 ・資源の消費の視点で自分の衣生活を見直す 	6/11 (木) 6/14 (日)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の消費生活における意思決定の重要性と情報活用について理解する。 ・責任ある消費行動が取れるよう、契約の重要性について理解する。 ・消費者問題を予防し適切に対応できるよう、消費者保護制度について理解する。 	6/25 (木) 6/28 (日)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について理解する。 ・家計の構造やリスクを踏まえた金融資産のマネジメントについて理解する。 ・家計と地域経済・国民経済・国際経済のつながりについて理解する。 ・各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができる力を身に付ける。 	7/12 (日) 7/16 (木)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化などを理解する。 ・栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について、科学的な理解を深める。 	10/11 (日) 10/15 (木)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で衛生的な食生活を営むために、食品の選択と安全を確保するための知識を身に付ける。 ・自分と家族の食生活を計画・管理できるようになるために、各ライフステージの食生活の特徴と課題を理解する。 	10/18 (日) 10/22 (木)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身に付ける。 ・日本と世界の食文化の特徴と配膳やマナーに関心を持つ。 ・安全・環境・健康など食生活に関わる情報を適切に判断し、広い視野で食生活について考える。 	11/5 (木) 11/8 (日)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・性と生殖に関する健康について理解する。 ・子どもが生まれつき持っている能力や心身の発達と、生活習慣の形成について理解する。 	11/26 (木) 11/29 (日)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが健康・快適・安全に育つ環境を整えられるようになるため、子どもの衣食住について理解する。 ・現代の子育て環境の変化や課題について理解する。 	12/6 (日) 12/10 (木)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・住居の機能や、快適かつ健康、安全な生活を行う場となる住居の条件を理解する。 ・世界や日本のさまざまな住文化と、環境に配慮した住生活について理解する。 	12/17 (木) 12/20 (日)
試験		
回数	試験範囲	実施日
1	レポート 1～6	8/23 以降
2	レポート 7～12	1/21～2/1
学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準		
<p>スクーリングに4時間以上出席し、レポート1～6が合格することでテスト1を受験できます。テスト1合格したうえで、スクーリングに合計8時間以上出席し、レポート7～12が合格することでテスト2を受験できます。テスト2が合格となれば4単位の修得となります。スクーリングに8時間以上出席し、レポート1～12が合格となり、テスト1、2が合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。次年度以降テスト受験をして合格することで単位修得が認められます。また、スクーリングに4時間以上出席し、レポート1～7が合格し、テスト1を合格することで単位の分割修得(2単位)が認められます。</p>		
観点別評価について		
評価の観点	評価の趣旨	評価方法

知識 技能	生活を主体的に営むために必要な家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて科学的に理解している。	レポート テスト	50 点	50～26 点 : A 25～1 点 : B 0 点 : C
思考 判断 表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	レポート テスト	50 点	50～26 点 : A 25～1 点 : B 0 点 : C
主体的に 学習に取り 組む態度	主体的にレポートに取り組み、テスト合格に向けて努力した。	テスト	合格	A

その他

① スクーリングについて

教科書と副教材、補助プリントを使い、レポートの学習内容の要点を講義形式で解説します。スクーリングの前に、教科書で予習してきてください。すべて講義形式のため、スクーリングでは実習は実施しません。

② レポートについて

- ・教科書の内容は広範囲にわたりますので、丁寧に読み、基礎・基本事項の理解を深めましょう。また、教科書と資料集の図やグラフ、資料、解説もよく読み解答しましょう。空欄や誤答が多いと再提出になります（空欄、誤答合わせて5か所以上）。
- ・新聞やニュース、インターネットなどを利用して情報を得て社会の動きに関心を持つこと。
- ・自分の考えや感想、気づいたことなどを文章で解答する問題もあります。「〇行以上、各行の端まで記入すること」と指定があります。条件を満たさない場合、再提出になりますので問題をよく読み、丁寧に回答しましょう。

③ テストについて

- ・返却されたレポートは、必ず間違い直しをしましょう。
- ・出席とレポート合格の条件が整ったらテスト受験のために復習をしてテストに臨みましょう。
- ・レポート6回分がテスト範囲となります。範囲が広いので、レポートの内容を何回も書いて覚えるなど、時間をかけて復習しましょう。

教科	科目	単位数	履修上の留意点
情報	情報 I	2	必修科目
指導目標	情報に関する見方、考え方を働かせ、情報技術を活用して問題を発見し、その解決に向けて情報や情報機器をよく理解し、適切かつ効果的に活用できる方法を身につける。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
新編 情報 I	なし	6 回	6 単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 実施している	<input type="checkbox"/> 実施していない	
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット	高校講座 情報 I	1 月 7 日(木)	
添削課題 (レポート)			
回数	学習内容	提出目標日	
1	情報とメディアの特性、表現メディアの違いによるメリットとデメリット、問題解決の流れ、発想法、情報モラル、個人情報の流出、セキュリティ上よいパスワード	6/4	
2	知的財産権、情報技術の発展、情報化と私たちの生活の変化、よりよい情報社会へ、コミュニケーション手段の変化、ネットコミュニケーションの特徴	6/28	
3	デジタルの世界へ、数値と文字のデジタル表現、色と動画のデジタル表現、目的に応じたデジタル化、情報デザイン、ユニバーサルデザイン、情報デザインの流れ	7/16	
4	コンピュータとは何か、ソフトウェアの仕組み、演算の仕組みとコンピュータの限界、アルゴリズムの表現、プログラムの基本構造、発展的なプログラム	11/5	
5	モデル化とシミュレーション、シミュレーションの活用、ネットワークとインターネット、インターネットの仕組み、サーバーとクライアント	12/6	
6	インターネット上のサービス、情報セキュリティ、データの活用とデータベース、さまざまなデータモデル、データの形式、データ分析の流れ	1/10	
面接指導 (スクーリング)			
単位時間	学習内容	実施日	
1	情報とメディアの特性を理解する。問題の発見・解決するための一連の流れを理解できる。情報モラルについて考える。個人情報の扱いを考える。	5/7(木) 5/17(日)	
1	知的財産権、著作権、産業財産権について理解を深める。情報技術による社会・生活の変化が理解できる。電子マネーと現金のメリット・デメリット、サイバー犯罪への対応を判断できる。ネットコミュニケーションの特徴を知る。	6/11(木) 6/14(日)	

1	デジタルの世界を知る。デジタルデータとアナログデータを区別できる。デジタル情報とアナログ情報のメリットとデメリットを考慮することができる。情報デザインの目的を理解できる。情報の抽象化について考えることができる。ユニバーサルデザインについて理解できる。デザイン思考に基づいた分析を理解できる。	7/2(木) 7/5(日)
1	コンピュータの基本構成を理解できる。基本ソフトウェアと応用ソフトウェアの役割を理解できる。プログラムとアルゴリズムの関係を理解できる。プログラムの基本について理解する。関数と利用方法を理解できる。	10/11(日) 10/15(木)
1	モデル化とシミュレーションにおける注意点を理解できる。表計算ソフトウェアでシミュレーションを行う方法を身につけている。インターネットの仕組みを理解する。パケット通信の仕組み、サーバーとクライアントの役割、DNSの役割と動作の仕組みを理解できる。	11/15(日) 11/19(木)
1	データベースの利点、データベース管理システムの必要性を理解できる。関係データベースの操作ができる。問題解決におけるデータ分析の位置づけを理解できる。データ分析の結果と解釈を振り返りながら、データ分析の改善をしようとしている。目的に合わせたデータの利用。	12/17(木) 12/20(日)

試験

回数	試験範囲	実施日
1	レポート 1～3	7/23 以降
2	レポート 4～6	1/21 以降

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

スクーリングに2時間以上出席し、レポート1～3が合格することでテスト1を受験できます。テスト1を合格したうえで、スクーリングに2時間以上出席(合計4時間以上)し、レポート4～6が合格することでテスト2を受験することができます。テスト2が合格となれば2単位の習得となります。スクーリングに4時間以上出席し、レポート1～6が合格となり、テスト2が合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。次年度以降テスト受験をして合格することで単位習得が認められます。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	効果的にコミュニケーションの実現やコンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに情報社会と人との関わりについて理解している。	レポート テスト	50点	50～26点:A 25～1点:B 0点:C
思考 判断 表現	事象を情報とその結びつきの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用できている。	レポート テスト	50点	50～26点:A 25～1点:B 0点:C
主体的に 学習に取り 組む態度	スクーリングに出席し、すべてのレポートにしっかりと取り組み、テストに合格できる。情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し自ら評価し改善しようとしている。	テスト	合格	A

その他

①スクーリングについて

自学自習の支援のための要領解説を講義しながら、デジタル社会の中で私たちが生活しているあらゆる関連について理解を深める重要ポイントについて説明します。レポートの文章問題については、スクーリングで丁寧に解説するので、なるべく多くのスクーリングに出席することをお勧めします。

②レポートについて

レポートの配付は、5月7日(木)以降にレポート1～3、10月11日(日)以降にレポート4～6をまとめて配付します。教科書を熟読することでレポートの大部分は完成させることができるはずです。文章で解答する問題は教科書をよく読めば解答できる問題がほとんどですが、一部自分で考えて解答を導き出す問題もあります。空欄が多いと判断した場合やあまりにもいい加減な解答が見られる場合は再提出となります。

③テストについて

レポート3回分がテスト範囲となります。出題はレポートで学習した内容のみとなりますが、レポートの問いを再構成して出題しますので、レポートの丸暗記だけでは対応できません。高得点を取るためには、テスト範囲部分の教科書を読み込んで内容理解に努める必要があります。テストは、選択問題もあれば文章問題もあり、問題としては量も多いですが、不合格になることを恐れずに受験してください。

教科	科目	単位数	履修上の留意点
商業	ビジネス基礎(前期)	2	自由選択
指導目標	私たちの生活と経済のしくみを理解し、ビジネスの諸活動の意義や役割などの基礎的な内容を学習します。商業のガイダンス的な科目となります。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
ビジネス基礎(実教出版)	なし	6回	6単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 実施している	<input type="checkbox"/> 実施していない	
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット	高校講座 ビジネス基礎	7月31日(金)	
添削課題(レポート)			
回数	学習内容	提出目標日	
1	商業の学習とビジネス ①いざ、ビジネスの世界へ ②私たちの社会とビジネス ビジネスとコミュニケーション ①コミュニケーション ②ビジネスマナー③情報の入手と活用	5/7	
2	経済と流通の基礎 ①経済の仕組みとビジネス ②経済活動と流通 さまざまなビジネス ①ビジネスの種類	5/24	
3	さまざまなビジネス ②小売業 ③卸売業 ④物流業 ⑤金融業 ⑥情報通信業	6/11	
4	企業活動の基礎 ①ビジネスと企業 ②マーケティングの重要性 ③資金調達 ④財務諸表の役割 ⑤企業活動と税 ⑥雇用	7/12	
5	ビジネスと売買取引 ①売買取引の手順 売買契約の締結・履行 ②代金決済 現金通貨、小切手、約束手形、銀行振込・口座振込、キャッシュレス決済	7/26	
6	ビジネス計算 ①ビジネス計算の基礎 ビジネス計算の応用 身近な地域のビジネス ①さまざまな地域の魅力と課題 ②地域ビジネスの動向	8/10	
面接指導(スクーリング)			
単位時間	学習内容	実施日	
1	「ビジネス」についての学習を通して現状や役割、課題を把握し、ビジネスに対する理解力、実践力、さらには創造性、主体性を身につける。 組織における良好な人間関係を築くために必要なコミュニケーション能力やビジネスマナー、情報活用能力を身につける。	4/26(日) 4/30(木)	
1	経済の仕組みと流通の必要性について学び、課題発見と解決方法を考える。 さまざまなビジネスについて学び理解を深める。	5/7(木) 5/17(日)	
1	さまざまなビジネスの現状を知り、それぞれの課題について考え、解決方法を探る。 さまざまなビジネスについて学び、理解することで将来組織の一員として役割を果たすことができるような力を身につける。	5/31(日) 6/4(木)	

1	企業の役割や組織、社会的責任について理解する。また、マーケティングの重要性や資金調達、税に関することや雇用についての知識を身につける。	7/2(木) 7/5(日)
1	売買取引の手順、代金決済の種類や方法について理解し、知識を身につける。	7/12(日) 7/16(木)
1	ビジネスで行われる仕入原価や利息の計算など、電卓の使い方も含め基本的な計算方法を学ぶ。 地域に目を向け、地域におけるビジネスの現状や課題について発見し、地域活性化についても考える。	7/23(木) 7/26(日)

試験

回数	試験範囲	実施日
1	レポート 1～3	6/11 以降
2	レポート 4～6	8/23 以降

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

スクーリングに2時間以上出席し、レポート1～3が合格することでテスト1を受験できます。テスト1を合格したうえで、スクーリングに2時間以上出席(合計4時間以上)し、レポート4～6が合格することでテスト2を受験することができます。テスト2が合格となれば2単位の修得となります。スクーリングに4時間以上出席し、レポート1～6が合格となり、テスト2が合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。後期以降テスト受験をして合格することで単位修得が認められます。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ、基礎的な知識と技術を身につけている。	レポート テスト	50点	50～26点:A 25～1点:B 0点:C
思考 判断 表現	ビジネスを始めとしてさまざまな知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、星光事例や改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。	レポート テスト	50点	50～26点:A 25～1点:B 0点:C
主体的に 学習に取り 組む態度	スクーリングに出席し、すべてのレポートにしっかりと取り組みテストに合格できる。	テスト	合格	A

その他

①スクーリングについて

自学自習の支援のための要領解説を講義しながら、ビジネス社会の中で私たちが関係しているあらゆる関連について理解を深める重要ポイントについて説明します。教科書と補助プリントを使用し、レポートの学習内容の要点を解説します。レポートの文章問題については、スクーリングで丁寧に説明するので、なるべく多くのスクーリングに出席することをお勧めします。

②レポートについて

レポートの配付は、4月26日(日)以降にレポート1～3、7月2日(木)以降にレポート4～6をまとめて配付します。教科書を熟読することでレポートの大部分は完成させることができるはずですが、文章で解答する問題は教科書をよく読めば解答できる問題がほとんどですが、一部自分で考えて解答を導き出す問題もあります。空欄が多いと判断した場合やあまりにもいい加減な解答が見られる場合は再提出となります。

③テストについて

レポート3回分がテスト範囲となります。出題はレポートで学習した内容のみとなりますが、レポートの問いを再構成して出題しますので、レポートの丸暗記だけでは対応できません。高得点を取るためには、テスト範囲部分の教科書を読み込んで内容理解に努める必要があります。テストは、選択問題もあれば文章問題もあり、問題としては量も多いですが、不合格になることを恐れずに受験してください。

教科	科目	単位数	履修上の留意点	
商業	ビジネス基礎(後期)	2	自由選択	
指導目標	私たちの生活と経済のしくみを理解し、ビジネスの諸活動の意義や役割などの基礎的な内容を学習します。商業のガイダンス的な科目となります。			
教科書	副教材	添削指導	面接指導	
ビジネス基礎(実教出版)	なし	6回	6単位時間	
NHK放送視聴による減免の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 実施している	<input type="checkbox"/> 実施していない		
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限		
<input checked="" type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input checked="" type="checkbox"/> インターネット	高校講座 ビジネス基礎	1月7日(木)		
添削課題(レポート)				
回数	学習内容		提出目標日	
1	商業の学習とビジネス ①いざ、ビジネスの世界へ ②私たちの社会とビジネス ビジネスとコミュニケーション ①コミュニケーション ②ビジネスマナー③情報の入手と活用		10/18	
2	経済と流通の基礎 ①経済の仕組みとビジネス ②経済活動と流通 さまざまなビジネス ①ビジネスの種類		11/5	
3	さまざまなビジネス ②小売業 ③卸売業 ④物流業 ⑤金融業 ⑥情報通信業		11/15	
4	企業活動の基礎 ①ビジネスと企業 ②マーケティングの重要性 ③資金調達 ④財務諸表の役割 ⑤企業活動と税 ⑥雇用		12/10	
5	ビジネスと売買取引 ①売買取引の手順 売買契約の締結・履行 ②代金決済 現金通貨、小切手、約束手形、銀行振込・口座振込、キャッシュレス決済		1/7	
6	ビジネス計算 ①ビジネス計算の基礎 ビジネス計算の応用 身近な地域のビジネス ①さまざまな地域の魅力と課題 ②地域ビジネスの動向		1/21	
面接指導(スクーリング)				
単位時間	学習内容		実施日	
1	「ビジネス」についての学習を通して現状や役割、課題を把握し、ビジネスに対する理解力、実践力、さらには創造性、主体性を身につける。 組織における良好な人間関係を築くために必要なコミュニケーション能力やビジネスマナー、情報活用能力を身につける。		10/11(日) 10/15(木)	
1	経済の仕組みと流通の必要性について学び、課題発見と解決方法を考える。 さまざまなビジネスについて学び理解を深める。		10/18(日) 10/22(木)	
1	さまざまなビジネスの現状を知り、それぞれの課題について考え、解決方法を探る。 さまざまなビジネスについて学び、理解することで将来組織の一員として役割を果たすことができるような力を身につける。		11/5(木) 11/8(日)	

1	企業の役割や組織、社会的責任について理解する。また、マーケティングの重要性や資金調達、税に関することや雇用についての知識を身につける。	11/26(木) 11/29(日)
1	売買取引の手順、代金決済の種類や方法について理解し、知識を身につける。	12/17(木) 12/20(日)
1	ビジネスで行われる仕入原価や利息の計算など、電卓の使い方も含め基本的な計算方法を学ぶ。 地域に目を向け、地域におけるビジネスの現状や課題について発見し、地域活性化についても考える。	1/7(木) 1/10(日)

試験

回数	試験範囲	実施日
1	レポート 1～3	11/15 以降
2	レポート 4～6	1/21 以降

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

スクーリングに2時間以上出席し、レポート1～3が合格することでテスト1を受験できます。テスト1を合格したうえで、スクーリングに2時間以上出席(合計4時間以上)し、レポート4～6が合格することでテスト2を受験することができます。テスト2が合格となれば2単位の修得となります。スクーリングに4時間以上出席し、レポート1～6が合格となり、テスト2が合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。次年度以降テスト受験をして合格することで単位修得が認められます。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ、基礎的な知識と技術を身につけている。	レポート テスト	50点	50～26点:A 25～1点:B 0点:C
思考 判断 表現	ビジネスを始めとしてさまざまな知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、星光事例や改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。	レポート テスト	50点	50～26点:A 25～1点:B 0点:C
主体的に 学習に取り 組む態度	スクーリングに出席し、すべてのレポートにしっかりと取り組みテストに合格できる。	テスト	合格	A

その他

①スクーリングについて

自学自習の支援のための要領解説を講義しながら、ビジネス社会の中で私たちが関係しているあらゆる関連について理解を深める重要ポイントについて説明します。教科書と補助プリントを使用し、レポートの学習内容の要点を解説します。レポートの文章問題については、スクーリングで丁寧に説明するので、なるべく多くのスクーリングに出席することをお勧めします。

②レポートについて

レポートの配付は、10月11日(日)以降にレポート1～3、11月26日(木)以降にレポート4～6をまとめて配付します。教科書を熟読することでレポートの大部分は完成させることができるはずです。文章で解答する問題は教科書をよく読めば解答できる問題がほとんどですが、一部自分で考えて解答を導き出す問題もあります。空欄が多いと判断した場合やあまりにもいい加減な解答が見られる場合は再提出となります。

③テストについて

レポート3回分がテスト範囲となります。出題はレポートで学習した内容のみとなりますが、レポートの問いを再構成して出題しますので、レポートの丸暗記だけでは対応できません。高得点を取るためには、テスト範囲部分の教科書を読み込んで内容理解に努める必要があります。テストは、選択問題もあれば文章問題もあり、問題としては量も多いですが、不合格になることを恐れずに受験してください。

教科	科目	単位数	履修上の留意点
商業	ビジネス・コミュニケーション	4	自由選択
指導目標	ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につける。ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して、自ら学び、ビジネスにおいてコミュニケーションを図ることに主体的かつ協同的に取り組む態度を養う。		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
ビジネス・コミュニケーション (実教出版)	なし	12 回	8 単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input type="checkbox"/> 実施している	<input checked="" type="checkbox"/> 実施していない	
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> インターネット			
添削課題（レポート）			
回数	学習内容	提出目標日	
1	企業の組織と人間関係 ①企業の組織と意思決定 ②業務の進行方法 ③仕事に対する心構え ④人的ネットワークの構築	5/7	
2	応対に関するビジネスマナー ①挨拶 ②身だしなみ・表情・身のこなし ③言葉遣い	5/21	
3	応対に関するビジネスマナー ④名刺交換と紹介 ⑤訪問・来客の応対 ⑥電話の応対	6/25	
4	応対に関するビジネスマナー ⑦席次のマナー 交際に関するビジネスマナー ①交際のマナー ②食事のマナー	7/2	
5	接客に関するビジネスマナー ①接客 ②ホスピタリティの概念と重要性	7/23	
6	テストに向けて復習レポート	8/10	
7	コミュニケーションの役割と思考方法 ①コミュニケーションの役割と種類 ②ビジネスコミュニケーションの基本 ③ビジネスにおける思考方法	10/18	
8	コミュニケーションの役割と思考方法 ④ディベート ビジネスにおけるコミュニケーション ①ディスカッション ②プレゼンテーション	11/5	
9	ビジネスにおけるコミュニケーション ③交渉 ④苦情対応	12/6	
10	ビジネスにおけるコミュニケーション ⑤商品説明とワークショップ ⑥ソーシャルメディアを活用した情報発信	12/17	
11	コミュニケーションとビジネススキル ①会議 ②文書におけるコミュニケーション	1/7	
12	テストに向けて復習レポート	1/21	

面接指導（スクーリング）		
単位時間	学習内容	実施日
1	企業は人の集まりであり、よい人間関係をつくり、組織の一員としての心構えについて学習する。	4/26(日) 4/30(木)
1	周囲に対して思いやりの気持ちを持つことで、誠実で礼儀正しい印象を与えることができることを意識して学習を進める。	5/7(木) 5/17(日)
1	周囲に対して思いやりの気持ちを持つことで、誠実で礼儀正しい印象を与えることができることを意識して学習を進める。	5/21(木) 5/24(日)
1	ビジネスにおいても日常生活と同様のマナーがあることを学習する。	6/25(木) 6/28(日)
1	接客に関する知識と心構えについて学習する。	7/2(木) 7/5(日)
1	レポート6回分(1～6)がテスト範囲となる。範囲が広いため復習プリントにて知識の定着を図る。教科書と補助プリントを使用し、レポートの学習内容の要点を講義形式で説明する。	7/23(木) 7/26(日)
1	ビジネスにおけるコミュニケーションの技能を学び、適切に思考しコミュニケーションを図ることの重要性を学習し身につけるようにする。	10/11(日) 10/15(木)
1	ビジネスにおけるコミュニケーションの技能を学び、適切に思考しコミュニケーションを図ることの重要性を学習し身につけるようにする。	10/18(日) 10/22(木)
1	ビジネスにおけるコミュニケーションの技能を学び、適切に思考しコミュニケーションを図ることの重要性を学習し身につけるようにする。	11/5(木) 11/8(日)
1	ソーシャルメディアを活用した情報発信について学習を深める。	12/6(日) 12/10(木)
1	さまざまなビジネス文書の意味と作成方法について学習する。	12/17(木) 12/20(日)
1	レポート6回分(7～12)がテスト範囲となる。範囲が広いため復習プリントにて知識の定着を図る。教科書と補助プリントを使用し、レポートの学習内容の要点を講義形式で説明する。	1/7(木) 1/10(日)
試験		
回数	試験範囲	実施日
1	レポート1～6	8/23以降
2	レポート7～12	1/21以降
学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準		
<p>スクーリングに4時間以上出席し、レポート1～6が合格することでテスト1を受験できます。テスト1を合格したうえで、スクーリングに4時間以上出席(合計8時間以上)し、レポート7～12が合格することでテスト2を受験することができます。テスト2が合格となれば4単位の習得となります。</p> <p>スクーリングに8時間以上出席し、レポート1～12が合格となり、テストが合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。次年度以降テスト受験をして合格することで単位習得が認められます。</p>		

観点別評価について				
評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付け、ビジネスのさまざまな場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を身につけている。	レポート テスト	50点	50～26点:A 25～1点:B 0点:C
思考 判断 表現	ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている。	レポート テスト	50点	50～26点:A 25～1点:B 0点:C
主体的に 学習に取り 組む態度	スクーリングに出席し、すべてのレポートにしっかりと取り組み、テストに合格できる。自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築できる。ビジネス社会について考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に取り組んでいる。	テスト	合格	A
その他				
<p>①スクーリングについて</p> <p>自学自習の支援のための要領解説を講義しながら、ビジネス社会の中で私たちが生活しているあらゆる関連について理解を深めるため、重要ポイントについて説明します。レポートの学習内容の要点を講義形式で解説するため、スクーリングの前には教科書でしっかりと予習をしてくることを期待します。また、なるべく多くのスクーリングに出席することをお勧めします。</p> <p>②レポートについて</p> <p>レポートの配付は、4月26日(日)以降にレポート1～6、10月11日(日)以降にレポート7～12をまとめて配付します。教科書を熟読することでレポートの大部分は完成させることはできるはずですが、ただ、レポート6回分の学習がテスト1となりますので、範囲が広がります。文章で解答する問題は教科書をよく読めば解答できる問題がほとんどですが、一部自分で考えて解答を導き出す問題もあります。空欄が多いと判断した場合やあまりにもいい加減な解答が見られる場合は再提出となります。</p> <p>③テストについて</p> <p>レポート6回分がテスト範囲となります。出題はレポートで学習した内容のみとなりますが、レポートの問いを再構成して出題しますので、レポートの丸暗記だけでは対応できません。高得点を取るためには、テスト範囲部分の教科書を読み込んで内容理解に努める必要があります。また、1回のテスト範囲が広いことからしっかりと対策をしてください。テストは、選択問題もあれば文章問題もあり、問題としては量も多いですが、不合格になることを恐れずに受験してください。</p>				

教科	科目	単位数	履修上の留意点
商業	ビジネス法規	4	自由選択
指導目標	<p>ビジネスのさまざまな場面で役立つ法規に関する知識を身につける。</p> <p>法の側面からビジネスに関する課題を発見し、ビジネスの携わる者として法的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</p> <p>企業が社会的責任を果たしていくのに必要なビジネスに関する法知識を身につけビジネスを適切に展開する能力を養う。</p>		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
ビジネス法規(東京法令出版)	なし	12回	8単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input type="checkbox"/> 実施している	<input checked="" type="checkbox"/> 実施していない	
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> インターネット			
添削課題 (レポート)			
回数	学習内容	提出目標日	
1	法の概要 1. ビジネスにおける法の意義と役割 2. 法の体系と解釈・適用	5/17	
2	法の概要 3. 権利・義務と財産権 ①権利と義務 ②制限行為能力者制度 ③物権・債権の概要	5/31	
3	企業活動と法規 1. 契約 ①契約の概要 ②意義・成立・効力 ③契約自由の原則とその制限 ④意思表示の無効・取消し ⑤無権代理・表見代理	6/8	
4	企業活動と法規 2. 企業活動における契約 ①雇用契約 消費貸借契約 ②売買契約 ③賃貸借契約	7/5	
5	企業活動と法規 2. 企業活動における契約 ④債権の管理と回収 ⑤債権の消滅	7/15	
6	企業活動と法規 2. 企業活動における契約 ⑥契約外の権利義務の変動 時効、所有権取得、不法行為	8/21	
7	企業活動と法規 3. 株式会社の特徴と機関 ①株式会社の意義 ②株主の責任と地位 ③株式の譲渡 ④所有(資本)と経営の分離 ⑤株式会社の機関	10/9	
8	企業活動と法規 4. 資金調達と金融取引 5. 組織再編と清算・再建 6. 競争秩序の確保	10/30	
9	税と法規 1. 税の種類と法人の納税義務 2. 法人税の申告と納付 3. 消費税の申告と納付	11/6	
10	企業責任と法規 1. 法令遵守(コンプライアンス) 2. 労働者の保護 ①労働基本権と労働基準法 ②労働組合法・労働関係調整法 ③労働者保護に関する規定と考え方 ④働き方改革 ⑤労働者保護の重要性と課題	12/17	
11	企業責任と法規 3. 消費者の保護 ①消費者基本法 消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法	1/7	

12	企業責任と法規 4.情報の保護 ①個人情報保護法 5.紛争の予防と解決 経済環境の変化と法 ①法の改正	1/21
面接指導（スクーリング）		
単位時間	学習内容	実施日
1	社会規範としての法の意義や他の社会規範と法の違いについて学習する。法の体系、法の分類及び法の解釈・適用などについて理解する。	4/26(日) 4/30(木)
1	権利・義務の意義やその主体、信義誠実の原則と権利濫用の禁止について学習を深める。制限行為能力者制度や債券、有価証券の意義について学習する。	5/21(木) 5/24(日)
1	契約の意義、成立及び効力、典型契約の内容について学習する。契約は相手方との合意で成立するが、意思表示の無効・取り消しの原因や代理などについても理解する。	5/31(日) 6/4(木)
1	賃貸借契約の概要と借地借家法における借地権・借家権について学習する。債権が回収されない場合、またそれを回収する方法、担保の意義について学習を深めていく。	6/25(木) 6/28(日)
1	抵当権の意義・性質を学習する。非典型担保や人的担保、債権の消滅時効について学ぶ。	7/12(日) 7/16(木)
1	契約によらず時の経過という事実によって、権利が消滅したり、取得する時効制度や所有権取得・事務管理・不当利得・不法行為などによる権利義務の変動について理解する。	7/23(木) 7/26(日)
1	会社の種類とその概要、株主総会や取締役会・監査役などの機関について学習する。株主の責任とその地位について、所有と経営の分離の概念、企業統治の重要性について学習する。	10/1(木) 10/4(日)
1	資金調達の方法と金融取引の現状と課題について学習する。合併・会社分割・株式交換・株式移転などの組織再編と事業譲渡・企業買収、知的財産権の意義とその種類について学習する。	10/18(日) 10/22(木)
1	税の種類と分類、法規との関係について学習する。法人税の確定申告の流れと申告書の作成方法、消費税については、税額計算の考え方・申告・納付の仕組みを学習する。	11/5(木) 11/8(日)
1	企業がビジネスを行う際に求められるコンプライアンスとアカウンタビリティについて学習する。労働基本法の意義、労働三法の概要を学習し、労働問題の現状や課題、働き方改革についても考える。	12/6(日) 12/10(木)
1	ビジネスにおける消費者保護の重要性について、また消費者基本法など消費者の保護に関する法律の概要について学習する。	12/17(木) 12/20(日)
1	個人情報保護法や不正アクセス禁止法など情報の保護に関する法律の概要について学習する。紛争を予防する方法、解決方法、経済環境の変化に伴う法の改正について学習する。	1/7(木) 1/10(日)
試験		
回数	試験範囲	実施日
1	レポート 1～3	6/11 以降
2	レポート 4～6	8/23 以降

3	レポート 7～9	11/15 以降
4	レポート 10～12	1/21 以降
学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準		
<p>スクーリングに2時間以上出席し、レポート1～3が合格することでテスト1を受験できます。テスト1を合格したうえで、スクーリングに2時間以上出席(計4時間の出席)し、レポート4～6が合格することでテスト2を受験することができます。そして、テスト2を合格し、スクーリングに2時間以上出席し、レポート7～9が合格することでテスト3を受験することができます。さらに、テスト3を合格したうえで、スクーリングに2時間以上出席し、レポート10～12が合格することでテスト4を受験することができます。テスト4が合格となれば4単位の習得となります。スクーリングにおける最低必要時数は8時間となります。</p> <p>スクーリングには、最低8時間以上出席し、レポート1～12が合格となり、テストが合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。次年度以降テスト受験をして合格することで単位習得が認められます。</p>		
観点別評価について		
評価の観点	評価の趣旨	評価方法
知識 技能	企業における事例など実際のビジネスと関連付けられ、ビジネスのさまざまな場面で役に立つ法規に関する知識が身についている。	レポート テスト 50点 50～26点:A 25～1点:B 0点:C
思考 判断 表現	ビジネスに関する法規を、実務に合わせて実践的・体験的に学習することで課題を発見し、解決するための方法を考え、それを表現することができる力が身についている。	レポート テスト 50点 50～26点:A 25～1点:B 0点:C
主体的に 学習に取り 組む態度	スクーリングに出席し、すべてのレポートにしっかりと取り組み、テストに合格できる。	テスト 合格 A
その他		
<p>①スクーリングについて</p> <p>自学自習の支援のための要領解説の講義をします。専門用語が多く、法律に関わる部分があるので、比較的難易度は高いです。レポートの学習内容の要点を講義形式で解説するため、スクーリングの前には教科書でしっかりと予習をしてくることを望みます。また、なるべく多くのスクーリングに出席することをお勧めします。新聞、雑誌、テレビなど、積極的に社会に目を向けること。</p> <p>②レポートについて</p> <p>レポートの配付は、4月26日(日)以降にレポート1～3、6月25日(木)以降にレポート4～6、10月1日(木)以降にレポート7～9、12月6日(日)以降にレポート10～12をまとめて配付します。教科書を熟読することでレポートの大部分は完成させることはできるはずですが、レポート3回分の学習ごとにテストを受験することになりますので、各レポートをしっかりと復習して試験に臨んでください。特に、専門用語、聞きなれない用語が多く出てくるので、その意味を理解できるようしっかりと学習を進めてください。自分で考えて解答を導き出す問題もあります。空欄が多いと判断した場合やあまりにもいい加減な解答が見られる場合は再提出となります。</p>		

③テストについて

レポート3回分が1回のテスト範囲となります。出題はレポートで学習した内容のみとなりますが、レポートの問いを再構成して出題しますので、レポートの丸暗記だけでは対応できません。高得点を取るためには、テスト範囲部分の教科書を読み込んで内容理解に努める必要があります。特に専門用語の意味を理解してください。テストは、選択問題もあれば文章問題もあり、問題としては量も多いですが、不合格になることを恐れずに受験してください。

教科		科目	単位数	履修上の留意点
家庭		保育基礎	2	履修学年・順序指定のある科目
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・ 子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・ 子どもの健やかな発達を目指して学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 			
教科書		副教材	添削指導	面接指導
保育基礎		なし	6回	6単位時間
NHK放送視聴による減免の有無		<input type="checkbox"/> 実施している	<input checked="" type="checkbox"/> 実施していない	
視聴媒体		視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> インターネット				
添削課題（レポート）				
回数	学習内容			提出目標日
1	1章 子どもの保育 ①保育の意義 ②保育の環境 ③保育の方法			5/31
2	2章 子どもの発達 ①子どもの発達の特性 ②乳幼児の発育と発達 1 乳幼児期の発育 2 乳幼児期の生理的特徴			7/2
3	2章 子どもの発達 ②乳幼児期の発育と発達 3 乳幼児期の発達の特性 3章 子どもの生活 ①子どもの健康と生活			7/23
4	3章 子どもの生活 ②子どもの食事 ③子どもの衣服と寝具			11/1
5	3章 子どもの生活 ④子どもの健康と安全			12/6
6	4章 子どもの福祉 5章 子どもの文化			1/21
面接指導（スクーリング）				
単位時間	学習内容			実施日
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の意義を理解する。 ・ 現代の子どもや子育て家庭を取り巻く環境問題や課題を知り、子どもの健やかな発達のための適切な保育環境について考える。 ・ 子どもの発達における保育・教育の目的や目標について理解する。 ・ 発達過程の特徴と、段階に応じた保育の方法を理解する。 			5/7（木） 5/17（日）
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの発達の特性を理解する。 ・ 子どもが主体的に環境にはたらきかけ、発達していくために、保育者などが応答的に関わるのが大切であることを理解する。 ・ 乳幼児期の発育の特性と、生理的特徴について理解する。 ・ 乳幼児期の発育について、各部位別の目安や評価法を知る。 			6/11（木） 6/14（日）
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳児期・幼児期における感覚・運動機能、情緒、認知機能、言語、社会性の発達の特性について理解する。 ・ 愛着関係の形成過程を学び、その重要性を理解する。 ・ 子どもの養護の必要性・目的を理解し、発達の段階に応じた適切な養護の方法を知る。 ・ 基本的な生活習慣と社会的な生活習慣の違いを理解し、生活習慣の習得を促すための工夫について考える。 			7/2（木） 7/5（日）

1	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの栄養と食生活の特徴を知り、必要なエネルギーと栄養素について理解する。 ・近年の幼児に関する食事習慣や健康面の課題を知り、家庭や保育施設でどのようなことが求められているか考察する。 ・乳幼児に適した被服の素材・型を知り、適切な被服計画と、安全な衣生活について考える。 ・適切な寝具やおむつの使い方などを理解する。 	10/11 (日) 10/15 (木)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康を守るための保育者の役割を理解し、健康状態の観察方法を知る。 ・子ども特有の病気について知り、予防接種の大切さを理解する。また、病気の症状別の看護方法についての知識を得る。 ・住まいに潜む危険について理解し、家庭や保育施設など身近な場所の危険についても考える。 	11/15 (日) 11/19 (木)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の児童観の変遷と、社会環境や法制度のしくみについて理解する。 ・子どもの福祉の理念について理解し、歴史的な経緯を知るとともに、児童福祉法や児童福祉関連施設の概要とその役割について理解する。 ・子どもの文化の意義と役割を理解する。 ・子どもの健やかな発達における遊びの重要性や意義を理解する。 ・子どもの遊びの現状と課題について考える。 	12/17 (木) 12/20 (日)

試験

回数	試験範囲	実施日
1	レポート1～3	8/23以降
2	レポート4～6	1/21～2/1

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

スクーリングに2時間以上出席し、レポート1～3が合格することでテスト1を受験できます。テスト1合格したうえで、スクーリングに合計4時間以上出席し、レポート4～6が合格することでテスト2を受験できます。テスト2が合格となれば2単位の修得となります。スクーリングに4時間以上出席し、レポート1～6が合格となり、テスト1, 2が合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。次年度以降テスト受験をして合格することで単位修得が認められます。単位の分割修得は認めません。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身につけている。 ・子どもの発達の特長や発達過程に対応した技術を身につけている。 	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	子どもを取り巻く課題を見つけ、保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫、表現をする力を身につけている。	レポート テスト	50点	5～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	主体的にレポートに取り組み、テスト合格に向けて努力した。	テスト	合格	A

その他

① スクーリングについて

教科書と副教材、補助プリントを使い、レポートの学習内容の要点を講義形式で解説します。スクーリングの前に、教科書で予習してきてください。すべて講義形式のため、スクーリングでは実習は実施しません。

② レポートについて

・教科書の内容は広範囲にわたりますので、丁寧に読み、基礎・基本事項の理解を深めましょう。また、教科書と資料集の図やグラフ、資料、解説もよく読み解答しましょう。空欄や誤答が多いと再提出になります（空欄、誤

答合わせて5か所以上)。

- ・新聞やニュース、インターネットなどを利用して情報を得て社会の動きに関心を持つこと。
- ・自分の考えや感想、気づいたことなどを文章で解答する問題もあります。「〇行以上、各行の端まで記入すること」と指定があります。条件を満たさない場合、再提出になりますので問題をよく読み、丁寧に回答しましょう。

③ テストについて

- ・返却されたレポートは、必ず間違い直しをしましょう。
- ・出席とレポート合格の条件が整ったらテスト受験のために復習をしてテストに臨みましょう。
- ・レポート3回分がテスト範囲となります。レポートの内容を何回も書いて覚えるなど、時間をかけて復習しましょう。

教科	科目	単位数	履修上の留意点
家庭	フードデザイン	4	履修学年・順序指定のある科目
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 ・食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインとの食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 		
教科書	副教材	添削指導	面接指導
フードデザイン	最新 生活ハンドブック	1 2 回	1 2 単位時間
NHK放送視聴による減免の有無	<input type="checkbox"/> 実施している	<input checked="" type="checkbox"/> 実施していない	
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限	
<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> インターネット			
添削課題 (レポート)			
回数	学習内容	提出目標日	
1	第1章 食生活と健康 1節 2節 第2章 栄養素のはたらきと食事計画 1節 1 食物の摂取と栄養	5/21	
2	第2章 栄養素のはたらきと食事計画 1節 2～4	5/31	
3	第2章 栄養素のはたらきと食事計画 1節 5～8	6/25	
4	2章 栄養素のはたらきと食事計画 2節 3節	7/2	
5	第6章 フードデザイン実習 1節 献立作成 実践：献立作成と食事記録	7/12	
6	第3章 食品の特徴・表示・安全 2節 3節 4節	8/23	
7	第3章 食品の特徴・表示・安全 1節 1～9	10/18	
8	第3章 食品の特徴・表示・安全 1節 10～19	11/1	
9	第4章 調理の基本	11/5	
10	6章 フードデザイン実習	11/26	
11	5章 料理様式とテーブルコーディネート 1節 6章 フードデザイン実習	12/17	
12	5章 料理様式とテーブルコーディネート 2節 6章 フードデザイン実習 献立作成 7章 食育	1/21	
面接指導 (スクーリング)			
単位時間	学習内容	実施日	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の基本的な意義を理解する。 ・現代の食に関する問題点について考える、 ・栄養素の役割、栄養素の消化と吸収について理解する。 	4/26 (日) 4/30 (木)	

1	<ul style="list-style-type: none"> 各種栄養素の特徴と体内ではたらき、代謝について理解する。 アミノ酸評点パターン、アミノ酸スコアについて理解する。 	5/7 (木) 5/17 (日)
1	<ul style="list-style-type: none"> 各種栄養素の特徴と体内ではたらき、代謝について理解する。 エネルギー摂取量と必要なエネルギー量について理解する。 	5/31 (日) 6/4 (木)
1	<ul style="list-style-type: none"> 各ライフステージの栄養上の注意点を理解する。 「食事摂取基準」と「食品群別摂取量のめやす」について理解する 	6/11 (木) 6/14 (日)
1	<ul style="list-style-type: none"> 「食品群別摂取量のめやす」を利用し、献立作成ができる。 自らの食事内容を記録し、食事状況と栄養バランスを振り返り、食生活を見直す。 	7/2 (木) 7/5 (日)
1	<ul style="list-style-type: none"> 日本の食料事情の現状について理解する。 食品の表示について理解を深め、適切な選択ができるための力を身に付ける。 食中毒や衛生、食品添加物について理解する。 	7/12 (日) 7/16 (木)
1	<ul style="list-style-type: none"> 各食品の特徴と調理上の性質を理解し、食事計画や調理にいかせる力を身に付ける。 	10/1 (木) 10/4 (日)
1	<ul style="list-style-type: none"> 各食品の特徴と調理上の性質を理解し、食事計画や調理にいかせる力を身に付ける。 加工食品の加工方法や種類、特定保健食品などについて理解する。 	10/11 (日) 10/15 (木)
1	<ul style="list-style-type: none"> 調理の目的を理解する。 おいしさに関わる条件を知り、調理にいかせるようにする。 計量の方法、食品の切り方、調理方法の基礎などについて理解する。 	10/18 (日) 10/22 (木)
1	<ul style="list-style-type: none"> 献立に適した食品の選択、食品の調理性を踏まえた適切な調理について、理解する。 食品成分表の見方を理解し、エネルギー・栄養素量の算出や廃棄率計算ができる。 	11/5 (木) 11/8 (日)
1	<ul style="list-style-type: none"> 日本料理、西洋料理、中国料理糖それぞれの様式に応じた食卓構成と作法について理解する。 	11/26 (木) 11/29 (日)
1	<ul style="list-style-type: none"> 和風・洋風・中国風ごとのテーブルコーディネートの特徴を知り、状況に応じたコーディネートを考える力を身に付ける。 食育基本法の内容について理解する。 	12/17 (木) 12/20 (日)

試験

回数	試験範囲	実施日
1	レポート1～6	8/23以降
2	レポート7～12	1/21～2/1

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

スクーリングに4時間以上出席し、レポート1～6が合格することでテスト1を受験できます。テスト1合格したうえで、スクーリングに合計8時間以上出席し、レポート7～12が合格することでテスト2を受験できます。テスト2が合格となれば4単位の修得となります。スクーリングに8時間以上出席し、レポート1～12が合格となり、テスト1、2が合格できないまま学習活動が終了した場合は履修認定となります。次年度以降テスト受験をして合格することで単位修得が認められます。また、スクーリングに4時間以上出席し、レポート1～7が合格し、テスト1を合格することで単位の分割修得(2単位)が認められます。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。	レポート テスト	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考	多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上	レポート	50点	50～26点：A

判断 表現	を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決できる。	テスト		25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	主体的にレポートに取り組み、テスト合格に向けて努力した。	テスト	合格	A
その他				
<p>① スクーリングについて</p> <p>教科書と副教材、補助プリントを使い、レポートの学習内容の要点を講義形式で解説します。スクーリングの前に、教科書で予習してきてください。すべて講義形式のため、スクーリングでは実習は実施しません。</p> <p>② レポートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容は広範囲にわたりますので、丁寧に読み、基礎・基本事項の理解を深めましょう。また、教科書と資料集の図やグラフ、資料、解説もよく読み解答しましょう。空欄や誤答が多いと再提出になります（空欄、誤答合わせて5か所以上）。 新聞やニュース、インターネットなどを利用して情報を得て社会の動きに関心を持つこと。 自分の考えや感想、気づいたことなどを文章で解答する問題もあります。「〇行以上、各行の端まで記入すること」と指定があります。条件を満たさない場合、再提出になりますので問題をよく読み、丁寧に回答しましょう。 <p>③ テストについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 返却されたレポートは、必ず間違い直しをしましょう。 出席とレポート合格の条件が整ったらテスト受験のために復習をしてテストに臨みましょう。 レポート6回分がテスト範囲となります。範囲が広いので、レポートの内容を何回も書いて覚えるなど、時間をかけて復習しましょう。 				

教科	科目	単位数	履修上の留意点	
ベーシック (学校設定教科)	ベーシック (前期) (学校設定科目)	2	国語・数学・英語のいずれも 未履修の生徒のみ受講可	
指導目標	1 義務教育段階の学び直しの機会を通し、わかる・できることの楽しさを実感させ、学力の基礎基本の定着をはかる。 2 教科横断的な内容の学習を通じて、通信制におけるすべての科目の学習に活かせる思考力・判断力・表現力を身につけさせる。 3 個人面接指導を受けてレポートを提出することで、通信制における学習方法の理解を深め、主体的に学習に取り組む態度を育成する。			
教科書	副教材	添削指導	面接指導	
なし	学校独自の教材	6 回	6 単位時間	
NHK放送視聴による減免の有無	<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない			
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限		
<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> インターネット	/			/
添削課題 (レポート)				
回数	学習内容			提出目標日
1	レポートの出し方、電話のかけ方 地理・英語の基礎 (英単語)			5 / 17
2	正の数・負の数の計算 方程式の計算 (物理)			6 / 4
3	国語の基礎 (漢字) 電卓を用いた計算 歴史・公民の基礎			6 / 25
4	割合の計算			7 / 12
5	英語の基礎 (英文) 保健体育の基礎 国語の基礎 (文章読解)			7 / 26
6	割合の計算 (大きな数) 一次方程式の計算			~ 8 / 23
面接指導 (スクーリング)				
単位時間	学習内容			実施日
1	通信制での学習ルールについて理解を深める。 英語学習の基礎に触れる。			4/30 (木)
1	正の数・負の数の計算ルールを正しく理解する。			5/21 (木)

1	誤りやすい漢字を正しく理解する。 電卓を正確に用いて計算する。 近現代の歴史と三権分立について理解する。	6/11 (木)
1	割合の計算についてパーセントと歩合の2つの方法で正確におこなう。	6/25 (木)
1	基礎的な英文の構造を理解する。 人体の構造の基礎を理解する 短めの文章を読んで、内容を正しく読み解く。	7/16 (木)
1	電卓を正確に用いながら割合の計算を正しくおこなう。 一次方程式の解法を理解する。	7/23 (木)

試験

回数	試験範囲	実施日
	なし	

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

スクーリングに4時間以上出席し、レポート1～6すべて合格すれば2単位修得となります。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	レポート1～3の内容が理解できている。	レポート	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	レポート4～6の内容が理解できている。	レポート	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	教科書や学習書、副読本だけでなくインターネットを利用したり、個人学習を受けたりしながらレポートに取り組むことができる。	レポート	合格	A

その他

①スクーリングについて

生徒一人一人に担当教員がつき、1対1もしくは教員1対生徒2という形で学習を進めていきます。生徒個々の状況・学力に合わせて丁寧に学習を進めていきます。

通信制の学習ルールを理解すること、必修科目の導入となる基礎事項を学びます。

②その他

スクーリングに出席し学習を進めていくのが基本ですが、個人学習で学習を進めることも可能です（出席時数としてカウントします）。

個人学習をおこなう際は担当教員に前日まで申し込む必要があります。

教科	科目	単位数	履修上の留意点	
ベーシック (学校設定教科)	ベーシック (後期) (学校設定科目)	2	国語・数学・英語のいずれも 未履修の生徒のみ受講可	
指導目標	1 義務教育段階の学び直しの機会を通し、わかる・できることの楽しさを実感させ、学力の基礎基本の定着をはかる。 2 教科横断的な内容の学習を通じて、通信制におけるすべての科目の学習に活かせる思考力・判断力・表現力を身につけさせる。 3 個人面接指導を受けてレポートを提出することで、通信制における学習方法の理解を深め、主体的に学習に取り組む態度を育成する。			
教科書	副教材	添削指導	面接指導	
なし	学校独自の教材	6 回	6 単位時間	
NHK放送視聴による減免の有無	<input type="checkbox"/> 実施している <input checked="" type="checkbox"/> 実施していない			
視聴媒体	視聴番組タイトル名	放送視聴票提出期限		
<input type="checkbox"/> テレビ <input type="checkbox"/> ラジオ <input type="checkbox"/> インターネット	/			/
添削課題 (レポート)				
回数	学習内容			提出目標日
1	レポートの出し方、電話のかけ方 地理・英語の基礎 (英単語)			10/15
2	正の数・負の数の計算 方程式の計算 (物理)			11/1
3	国語の基礎 (漢字) 電卓を用いた計算 歴史・公民の基礎			11/19
4	割合の計算			12/10
5	英語の基礎 (英文) 保健体育の基礎 国語の基礎 (文章読解)			1/7
6	割合の計算 (大きな数) 一次方程式の計算			~1/21
面接指導 (スクーリング)				
単位時間	学習内容			実施日
1	通信制での学習ルールについて理解を深める。 英語学習の基礎に触れる。			10/1 (木)
1	正の数・負の数の計算ルールを正しく理解する。			10/15 (木)

1	誤りやすい漢字を正しく理解する。 電卓を正確に用いて計算する。 近現代の歴史と三権分立について理解する。	11/5 (木)
1	割合の計算についてパーセントと歩合の2つの方法で正確におこなう。	11/26 (木)
1	基礎的な英文の構造を理解する。 人体の構造の基礎を理解する 短めの文章を読んで、内容を正しく読み解く。	12/10 (木)
1	電卓を正確に用いながら割合の計算を正しくおこなう。 一次方程式の解法を理解する。	12/17 (木)

試験

回数	試験範囲	実施日
	なし	

学習の成果に係る評価及び単位の修得の認定にあたっての基準

スクーリングに4時間以上出席し、レポート1～6すべて合格すれば2単位修得となります。

観点別評価について

評価の観点	評価の趣旨	評価方法		
知識 技能	レポート1～3の内容が理解できている。	レポート	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
思考 判断 表現	レポート4～6の内容が理解できている。	レポート	50点	50～26点：A 25～1点：B 0点：C
主体的に 学習に取り 組む態度	教科書や学習書、副読本だけでなくインターネットを利用したり、個人学習を受けたりしながらレポートに取り組むことができる。	レポート	合格	A

その他

①スクーリングについて

生徒一人一人に担当教員がつき、1対1もしくは教員1対生徒2という形で学習を進めていきます。生徒個々の状況・学力に合わせて丁寧に学習を進めていきます。

通信制の学習ルールを理解すること、必修科目の導入となる基礎事項を学びます。

②その他

スクーリングに出席し学習を進めていくのが基本ですが、個人学習で学習を進めることも可能です（出席時数としてカウントします）。

個人学習をおこなう際は担当教員に前日まで申し込む必要があります。